

はじめに

(1) 調査の目的

都市における緑は、ヒートアイランド現象の緩和や二酸化炭素の吸収・固定など、生活環境を向上させる機能を有しているほか、なごやらしい季節の移ろいや景観を形成し、人々の憩いの場として、また、多様な生物の生息・生育地として、さらには自然災害が発生した際の避難地・避難路にもなり得る。このように緑は、都市の生活を様々な面で支える重要なインフラである。

緑の現況調査（本頁では以下、「本調査」という。）は、名古屋市（以下、「本市」という。）における緑の現況と推移を把握し、定量的に評価することで、市民に緑の現状を分かりやすく伝え、市民の緑に関する意識の向上を図るとともに、今後の緑のまちづくり施策を効果的に進めていくための基礎資料にすることを目的として実施したものである。

(2) 調査の位置付け

本調査は名古屋市緑のまちづくり条例第44条に定められた緑の現況に関する調査である。

また、本市では、市の総合計画として「名古屋市総合計画2023ー世界に冠たる『NAGOYA』へー」を策定し、各種取組を推進している。その個別計画である「名古屋しみどりの基本計画2030」では、みどりの都市像として「みどりと人がきらめく 自然共生都市・なごや」を目指し、都市力・地域力・持続力を高めることを基本方針として個別施策を進めることとしている。本調査は「名古屋市みどりの基本計画2030」において、持続力を高める個別施策（K7の環境）に位置付けられている。



図：名古屋市みどりの基本計画 2030 の方向性

(3) 調査の経緯・構成

本調査は、平成2(1990)年度から5年ごとに実施しており、今回で7回目の実施となる。本調査は、緑被率調査、緑視率調査、沿道緑化率調査の3つの調査から構成され、緑被率調査は平成2(1990)年度から継続的に、緑視率調査は平成27(2015)年度から、沿道緑化率調査は今年度から実施しているものである。

表：緑の現況調査の経緯と構成

調査名	H2(1990)	H7(1995)	H12(2000)	H17(2005)	H22(2010)	H27(2015)	R2(2020)
緑被率調査	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ 衛星画像 解析手法	○ デジタル マッピング手法
緑視率調査	—	—	—	—	—	○	○
沿道緑化率調査	—	—	—	—	—	—	○

第Ⅰ編 緑被率調査

1. 調査の概要

1-1. 調査の位置付け

緑被率調査（以下、「本調査」という。）は、本市の緑の現況調査の一つとして、上空から見た緑の現況を調査するため、平成2(1990)年度以降5年ごとに実施しているものであり、令和2(2020)年度は7回目の実施となる。なお、平成27(2015)年度のみ手法が異なる調査となっている。

1-2. 「緑被率」の定義

本調査における「緑被率」とは、緑被地面積が市域面積、区面積、土地利用面積などの全体面積に占める割合と定義する。

1-3. 対象とする緑

本調査で対象とする緑（以下、「緑被地」という。）は、樹木や芝などの植物等に覆われた土地、農地及び水面と定義し、その緑被地の分類（以下、「緑被種別」という。）は、表Ⅰ-1のとおり、「高木」、「低木」、「竹林」、「街路樹高木」、「街路樹低木」、「芝地」、「草地」、「水田」、「畑」、「果樹園」、「その他農地」、「河川」及び「ため池」の13種に区分（細種別）した。

また、これを基に、高木、低木、竹林、街路樹高木及び街路樹低木を「樹林地」、芝地及び草地を「芝・草地」、水田、畑、果樹園及びその他農地を「農地」、河川及びため池を「水面」と区分（4種別）した。

表Ⅰ-1：緑被地の定義及び種別

緑被種別とコード番号			内容
4 種別	細種別		
樹林地	11	高木	樹高が 3m以上の樹木
	12	低木	高木以外の樹木
	13	竹林	竹林
	14	街路樹高木	道路敷地内にある樹高が 3m以上の樹木（並木等）
	15	街路樹低木	道路敷地内にある高木以外の樹木及び花壇
	定義）樹木の樹冠で覆われた部分		
芝・草地	21	芝地	ゴルフ場・公園緑地・球戯場・商業施設・住宅地などの施設周辺にある草丈の低い芝等
	22	草地	野草地・河川敷など自然又はそれに近い環境にある草丈の高い草等
	定義）芝・草に被覆された部分		
農地	31	水田	休耕田を含む
	32	畑	花・野菜類
	33	果樹園	栗・柿・柑橘類など
	34	その他農地	桑畑・茶畑・苗木畑・温室栽培・畜舎等・その他農業用諸施設
	定義）農業関連用地の敷地（作物・用途により分類）		
水面	41	河川	河川・水路・運河（流れのある水面・最終橋梁まで）
	42	ため池	ため池・湖沼（流れのない水面）
	定義）水界線で囲まれた部分（プール・防火用水・浄水用沈殿池は含まない）		

2. 調査の実施方法

2-1. 調査の実施時期

本調査は、令和2(2020)年4月29日撮影の航空写真を基に実施した。

2-2. 調査対象地

本調査の対象地は、本市域全域である。

2-3. 調査方法

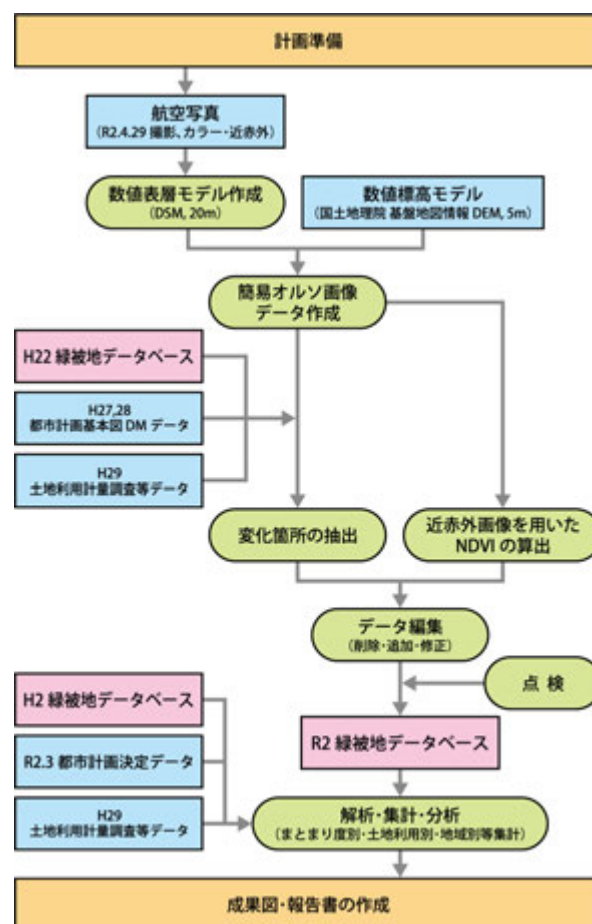
2-3-1. 調査の実施フロー

本調査では、令和2年撮影の航空写真を基に、平成22(2010)年の緑被地データベースを修正することにより、令和2年の緑被地データベースを構築した。

なお、緑被地データベースの修正に当たっては、デジタル図化機を用いたデジタルマッピング手法により行った。なお、その際の緑被地の判読は、表I-2に示す方針により行った。

この緑被地データベースを基に解析・集計することにより、緑被率の現況及び変遷を調査した。

図I-1に調査の実施フローを示す。



図I-1：緑被率調査の実施フロー

表I-2：緑被地の判読方針

- ・ 航空写真撮影時を現況とする。
- ・ 10 m²を最小抽出単位として、細種別ごとに抽出する。
- ・ 10 m²未満の緑被地についても、周辺の状況から1つのまとまりと判断できる場合には一団の緑被地として計上する。

2-3-2. 使用・参照した資料

本調査においては、以下の資料を使用又は参照した。

表 I-3：使用・参照資料一覧

資料名	形式	作成年(度)	使途・備考等
航空写真	JPG, TIFF	R2	- 令和2(2020)年4月29日撮影 - R2都市計画図修正業務成果を活用
基盤地図情報 数値標高モデル (国土地理院 DEM 5m)	XML	H28, R01	簡易オルソ画像データの作成時に使用
緑被地データベース※1	MIF, SHP	H2, 7, 12, 17, 22, 27	- H22緑被データを本調査の基本データとし、変化箇所を修正してR2緑被データを作成 - 各時期の緑被データから緑被地の推移を解析
境界データ (土地利用計量調査ファイルに付属)	SHP	H28	「区界」を使用し、緑被データとのオーバーレイ解析を実施 「名古屋市域ポリゴン」及び「地域区分ポリゴン」は「区界」データをそれぞれ結合作成 - 各種図面の各境界線として使用
土地利用計量調査ファイル	SHP	H29	- 土地利用計量調査ファイルは、「名古屋市域ポリゴン」により、切り抜き処理等※2を行い使用 - 街路樹の整理に当たって、「道路」を参照※4 - 行政区ごとに緑被データとのオーバーレイ解析を実施 - 土地利用を基に土地所有区分を定義し、「土地所有区分ポリゴン」を作成 - 土地利用の推移を把握 - 土地利用の状況により、地区の特色を把握
都市計画決定データ	SHP	R2	- 令和2年3月10日版を使用 「用途地域」データ※3を使用し、緑被データとのオーバーレイ解析を実施 - 用途地域データを結合し、「市街化区域」及び「市街化調整区域」データを作成(名古屋市内の用途地域データの箇所を「市街化区域」、それ以外の箇所をもって「市街化調整区域」として扱う) - その他、各種確認に使用
街路樹維持管理台帳システム	SHP	R2	街路樹の整理に当たって参照※4
都市計画基本図 (数値地形図 DM データファイル)	DM	H27, 28	各種図面の背景図として使用
緑の現況調査報告書	製本, PDF, DOC	H2, 22	調査結果を利用し、緑被地の推移等を整理

※1) 本表においては「緑被データ」と省略して表記。

※2) 「土地利用計量調査ファイル」は、「市域外」(200)を対象外として切り抜き処理を行い、境界部付近のデータ欠損部等は穴埋め等の処理を行った。

※3) 「用途地域」データは、境界部付近のデータの欠損、ポリゴンの重複等が見られたため、穴埋め等の処理を行った。

※4) 街路樹の整理に当たって、最終的にはデジタル図化機判読、簡易オルソ画像の目視判断により実施。

2-4. 集計・分析方法

2-4-1. 公表面積及び計測面積の取扱いと集計方法

本調査では、名古屋市域及び各行政区の面積は、公表値を採用しているが、その他の土地利用、用途地域等の面積については、GIS 計測面積を基に上記公表面積で補正した値を採用した。

また、令和2(2020)年度調査での緑被地面積は、まず細種別（小単位ごと）にGIS上で演算した㎡単位のポリゴン面積を積み上げて集計（単位：ha、数値：小数第2位止め（第3位を四捨五入））し、これらをそれぞれ合計したものを4種別及び全体（大単位）の緑被地面積とした。なお、全体の緑被地面積については、上記の手法により集計しているため、集計対象が異なることにより端数処理の影響を受け、合計面積に相違が生じる可能性があったが、補正等を行わず集計値のままの扱いとした。

緑被率については、上記の緑被地面積ごとに対象区域面積で除して算出した（単位：％、数値：小数第1位止め（第2位を四捨五入））。

本市全域の緑被地面積及び緑被率の公表数値は、行政区別の数値を積み上げたものを採用した。

2-4-2. 「土地所有区分」及び「土地利用区分」の定義

本調査での土地利用区分は、「土地利用計量調査ファイル」を基に表I-5(p.6)のとおり定義し、過年度調査の経緯に即して、土地所有区分を定義した。

なお、今年度調査の土地利用区分については、過年度調査における定義から、実態に即して表I-4のとおり変更している。

表I-4：過年度調査の土地利用区分からの変更点

H2 調査					H7 調査				R2 調査		
公有・民有区分	土地利用区分	コード	土地利用分類		土地利用区分	コード	土地利用計量調査分類		土地利用区分	コード	名称
その他の公共施設	鉄道	19	鉄道敷地	⇒	河川等	182	鉄道	⇒	その他の公共施設	182	鉄道
—	—	—	—	⇒	—	—	—	⇒	河川等	146	河川敷
—	—	—	—	⇒	—	—	—	⇒	河川等	190	海面
工業系	工業	12	供給処理運輸用地	⇒	商業系	090	供給処理用地運輸用地	⇒	工業系	90	供給処理施設運輸施設
—	—	—	—	⇒	—	—	—	⇒	未利用地	147	太陽光発電設備

注1)「—」は該当なし。

表Ⅰ-5:「土地所有区分」及び「土地利用区分」の定義

土地所有区分	土地利用区分		土地利用計量調査ファイル(H29)			例示
			コード	名称	説明	
公有地	公園 緑地等	都市公園	151	都市公園	公共空間	公園
		その他のオープンスペース	150	それ以外公園等	公共空間	グラウンド、屋外プール、ゴルフ場、広場、遊園地など
			160	都市計画墓園	公共空間	—
	道路		170	道路	道路用地	道路
	河川等		181	河川・水面	水面	河川・水面
			146	河川敷	未利用地	河川敷
			190	海面	海面	—
	その他の公共施設	公共施設等	10	官公庁用地	公共公益用地	市役所、区役所、警察署、消防署、郵便局など
			40	医療養護用地	公共公益用地	医院、診療所、病院、保健所、養老院、その他保護施設など
		教育	20	教育用地	公共公益用地	保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、各種学校、予備校など
		宗教文化	30	宗教施設文化施設	公共公益用地	寺院、神社、教会、図書館、美術館、博物館、公民館、動植物園など
		鉄道	182	鉄道	交通施設用地	鉄道
民有地	宅地	住居系	120	低層専用住居用地	住宅用地	戸建住宅、共同住宅(3階建以下)、農漁業施設
			121	低層店舗付住居用地	住宅用地	共同住宅(3階建以下)に店舗が付随
			122	中高層専用住居用地	住宅用地	共同住宅(4階建以上)
			123	中高層店舗付住居用地	住宅用地	共同住宅(4階建以上)に店舗が付随
		商業系	50	商業用地	商業用地	デパート、スーパーマーケット、レストラン、店舗など
			51	事務所用地	商業用地	事務所(銀行、会社など)、宿泊施設
			60	一般商業用地	商業用地	住宅併用店舗・事務所(店舗・事務所の部分が 50 ㎡以内)
			70	娯楽用地（Ⅰ）	商業用地	キャバレー、舞踏場、劇場、映画館、演芸場等
			80	娯楽用地（Ⅱ）	商業用地	スポーツ興行所、ボーリング場、ゴルフ練習場、カラオケボックス、パチンコなど
		工業系	90	供給処理施設運輸施設	工業用地	ガソリンスタンド、供給処理施設、立体駐車場、倉庫、バスターミナルなど
			100	工業用地	工業用地	原動機を使用する 50 ㎡を超える工場など
			110	工業的サービス用地	工業用地	作業所の床面積が 50 ㎡以内のもの
	未利用地		141	駐車場	未利用地	屋外駐車場
			142	資材置場	未利用地	資材置場
			143	田	未利用地	田
			144	畑	未利用地	畑
			145	樹林地	未利用地	樹林地・山林
			147	太陽光発電設備	未利用地	太陽光発電設備
			140	その他空閑地	未利用地	その他空閑地
その他		200	市域外	市域外	—	

注1) 土地所有区分「公有地」、「民有地」は土地利用区分に応じた便宜的な区分名称であり、実際の土地の所有状況や管理形態等に基づくものでないため、一般的な「公有地」、「民有地」とは異なるが、指標の連続性を考慮して過年度調査の表記に準じたものである。

注2) 「宅地」は、「宅地内緑被率」を算出する際にのみ使用。

注3) 「土地利用計量調査ファイル(H29)」の「海面(190)」は「名古屋市域ポリゴン」内に含まれるもののみを対象としている。
また、「市域外(200)」は「名古屋市域ポリゴン」内に含まれるものも対象外とし、当該欠損部は隣接土地利用により穴埋め処理を行っている。

注4) 例示の内容は、「名古屋市土地利用白書」(H30.3)の「土地利用分類表」及び「建物用途別現況データファイル(H28)」に基づく。

2-4-3. 区域面積の補正

(1) 土地利用データの面積補正

土地利用は、「土地利用計量調査ファイル」を基に使用しているが、当該データの GIS 計測面積（合計値）は、本市の公表面積と相違があったため、表 I-6 により面積を補正して緑被率の算定に使用した。（「土地利用計量調査ファイル」の GIS データについては別途、表 I-3 (p. 4) に示す処理も行っている。）

表 I-6：土地所有・土地利用の定義（再掲）と補正面積

土地所有区分	土地利用区分		土地利用計量調査ファイル(H29)			GIS 計測面積			構成比率 (%)	補正面積				
			コード	名称	説明	面積 (ha)	小計 (ha)	合計 (ha)		面積 (ha)	小計 (ha)	合計 (ha)		
公有地	公園 緑地等	都市公園	151	都市公園	公共空間	1,541.51	1,541.51	1,903.63	4.742	1,548.26	1,548.26	1,911.98		
		その他の オープンスペース	150	それ以外公園等	公共空間	362.12	362.12		1.114	363.72	363.72			
			160	都市計画墓園	公共空間	0.00			0.000	0.00				
	道 路		170	道路	道路用地	6,391.17	6,391.17	6,391.17	19.659	6,418.66	6,418.66	6,418.66		
	河川等		181	河川・水面	水面	973.34	1,600.45	1,600.45	2.994	977.54	1,607.36	1,607.36		
			146	河川敷	未利用地	620.07			1.907	622.64				
			190	海面	海面	7.04			0.022	7.18				
	公共施設 その他の 施設	公共施設等	10	官公庁用地	公共公益用地	162.42	528.05	2,526.84	0.500	163.25	530.56	2,537.88		
			40	医療養護用地	公共公益用地	365.63			1.125	367.31				
		教 育	20	教育用地	公共公益用地	1,095.32	1,095.32		3.369	1,099.98	1,099.98			
			宗教文化	30	宗教施設文化施設	公共公益用地	637.85		637.85	1.962	640.59		640.59	
		鉄 道	182	鉄道	交通施設用地	265.62	265.62		0.817	266.75	266.75			
私有地	宅 地	住居系	120	低層専用住居用地	住宅用地	8,139.05	10,068.10	15,124.58	25.036	8,174.25	10,111.38	15,189.76		
			121	低層店舗付住居用地	住宅用地	44.95			0.138	45.06				
			122	中高層専用住居用地	住宅用地	1,760.19			5.414	1,767.67				
			123	中高層店舗付住居用地	住宅用地	123.91			0.381	124.40				
		商業系	50	商業用地	商業用地	919.58	2,359.38		2.829	923.67	2,369.74			
			51	事務所用地	商業用地	804.81			2.476	808.41				
			60	一般商業用地	商業用地	443.13			1.363	445.02				
			70	娯楽用地（Ⅰ）	商業用地	23.48			0.072	23.51				
		工業系	80	娯楽用地（Ⅱ）	商業用地	168.38	2,697.10		0.518	169.13	2,708.64			
			90	供給処理施設運輸施設	工業用地	1,277.33			3.929	1,282.82				
	未利用地		100	工業用地	工業用地	1,311.16	4,962.66	4,962.66	4.033	1,316.77	4,984.36	4,984.36		
			110	工業的サービス用地	工業用地	108.61			0.334	109.05				
			141	駐車場	未利用地	911.15			2.803	915.18				
			142	資材置場	未利用地	100.68			0.310	101.22				
			143	田	未利用地	483.58			1.488	485.83				
			144	畑	未利用地	564.96			1.738	567.46				
			145	樹林地	未利用地	889.93			2.737	893.63				
			147	太陽光発電設備	未利用地	7.82			0.024	7.84				
			140	その他空地	未利用地	2,004.54			6.166	2,013.20				
その他			200	市域外	市域外	-	-	-	-	-	-	-		
合 計						32,509.33	32,509.33	32,509.33	32,509.33	100.000	32,650.00	32,650.00	32,650.00	

注1) GIS 計測面積は、修正済みの土地利用データを基に行政区域別・土地利用区分別に算出したものを集計している。

注2) 補正面積は、GIS 計測面積の各項目の構成比を基に、名古屋市域の公表面積（32,650ha）で按分したものである。

(2) 用途地域データの面積補正

用途地域は、「都市計画決定データ」を基に使用しているが、当該データの GIS 計測面積は、名古屋市の公表面積と相違があったため、表 I-7 により面積を補正して緑被率の算定に使用した。(用途地域データは別途、表 I-3(p. 4)に示す処理も行っている。)

表 I-7：用途地域の定義と補正面積

都市計画決定データ (2020/03/10)		GIS 計測面積 (ha)	構成比率 (%)	補正面積 (ha)
コード	用途地域			
1	第一種低層住居専用地域	4,980.65	15.3	4,995.45
2	第二種低層住居専用地域	88.55	0.3	97.95
3	第一種中高層住居専用地域	1,001.41	3.1	1,012.15
4	第二種中高層住居専用地域	1,952.59	6.0	1,959.00
5	第一種住居地域	7,193.66	22.1	7,215.65
6	第二種住居地域	3,127.16	9.6	3,134.40
7	準住居地域	313.57	1.0	326.50
8	近隣商業地域	2,558.28	7.9	2,579.35
9	商業地域	2,287.56	7.0	2,285.50
10	準工業地域	3,552.41	10.9	3,558.85
11	工業地域	2,560.61	7.9	2,579.35
12	工業専用地域	654.64	2.0	653.00
0	市街化調整区域	2,238.23	6.9	2,252.85
合計		32,509.32	100.0	32,650.00

注1) GIS 計測面積は、修正済みの用途地域データを基に集計している。

注2) 市街化調整区域は、上記の修正済み用途地域データ以外の名古屋市域に対し、コード番号「0」を付与して設定している。

注3) 補正面積は、GIS 計測面積の各項目の構成比を基に、名古屋市域の公表面積 (32,650ha) で按分したものである。

(3) 用途地域別宅地の面積補正

宅地内緑被率を算定するため、用途地域データと土地利用データのオーバーレイ解析を行い、得られた GIS 計測面積を表 I-8 のとおり、区域面積を補正して緑被率の算定に使用した。

表 I-8：用途地域別宅地の構成と補正面積

都市計画決定データ (2020/03/10)		建蔽率の 最高限度 (%)	緑化率の 最低限度 (%)	宅地(住居系、商業系及び工業系土地利用)		
コード	用途地域			GIS 計測面積 (ha)	構成比率 (%)	補正面積 (ha)
1	第一種低層住居専用地域	30	20	458.29	1.41	460.37
		40	20	1,137.29	3.50	1,142.75
		50	20	851.64	2.62	855.43
2	第二種低層住居専用地域	30	20	3.38	0.01	3.27
		40	20	29.09	0.09	29.39
		50	20	10.91	0.03	9.80
3	第一種中高層住居専用地域	50	20	145.53	0.45	146.93
		60	15	394.64	1.21	395.07
4	第二種中高層住居専用地域	60	15	1,140.16	3.51	1,146.02
5	第一種住居地域	60	15	3,674.48	11.30	3,689.45
6	第二種住居地域	60	15	880.84	2.71	884.82
7	準住居地域	60	15	127.08	0.39	127.34
8	近隣商業地域	80	10	1,266.12	3.89	1,270.09
9	商業地域	80	10	961.06	2.96	966.44
10	準工業地域	60	15	1,907.72	5.87	1,916.56
11	工業地域	60	15	1,501.86	4.62	1,508.43
12	工業専用地域	60	15	446.05	1.37	447.31
0	市街化調整区域	30/50/60	20	188.43	0.58	189.37
	小計			15,124.57	46.52	15,188.84
	(宅地以外の区域)			17,384.74	53.48	17,461.16
	合計			32,509.31	100.00	32,650.00

注1) 「建蔽率の最高限度(%)」及び「緑化率の最低限度(%)」は「緑化率の最低限度一覧表」に基づく。

注2) 「市街化調整区域」の「建蔽率の最高限度(%)」欄は、「指定建蔽率(%)」を示す。

注3) GIS 計測面積は、ともに修正済みの用途地域データと土地利用データのオーバーレイ解析を行い、集計したものである。

注4) 補正面積は、GIS 計測面積の各項目の構成比を基に、名古屋市域の公表面積 (32,650ha) で按分したものである。なお、端数は「(宅地以外の区域)」で処理している。

3. 緑被率の現況及び変遷

3-1. 本市全域の緑被率

本市全域での緑被率の現況及び推移並びに緑被種別ごとの緑被率の現況及び推移を以下のとおり整理した。

(1) 市全域の緑被率

令和 2(2020) 年の本市全域の緑被地面積は 7,021.36ha であり、緑被率は 21.5%であった。

基準年である平成 2(1990) 年の緑被地面積は 9,730.50ha、緑被率は 29.8%であり、それ以降の緑被率の推移を見ると、平成 7(1995) 年は 27.4% (2.4 ポイント減少 (前回調査比、以下同様))、平成 12(2000) 年は 25.3% (2.1 ポイント減少)、平成 17(2005) 年は 24.8% (0.5 ポイント減少)、平成 22(2010) 年は 23.3% (1.5 ポイント減少)、平成 27(2015) 年は 22.0% (1.3 ポイント減少)、令和 2(2020) 年は 21.5% (0.5 ポイント減少) と推移しており、緩やかに減少を続けている。

以上から、平成 2 年から令和 2 年までの 30 年間で、約 2,709ha の緑被地が失われ、緑被率は 8.3 ポイント減少した。

また、現況緑被地図及び緑被地増減図を見ると、まとまって存在する緑被地は比較的残存している (変化しなかった) ように見受けられるが、その周辺の緑被地や比較的小規模な緑被地は減少している傾向が見受けられた。(図 I-4(p. 10)、図 I-5(p. 11) 参照)

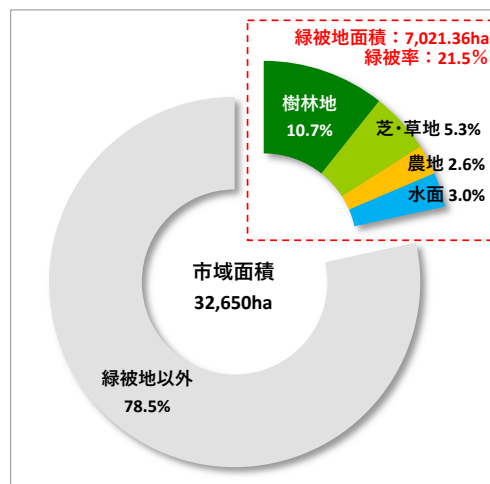


図 I-2：令和 2(2020) 年の緑被率

表 I-9：市全域の緑被率と推移の概況

緑被率：令和 2 年の緑被率は 21.5%

推 移：平成 2 年の緑被率 (29.8%) に比べて、令和 2 年の緑被率 (21.5%) は 8.3 ポイント減少

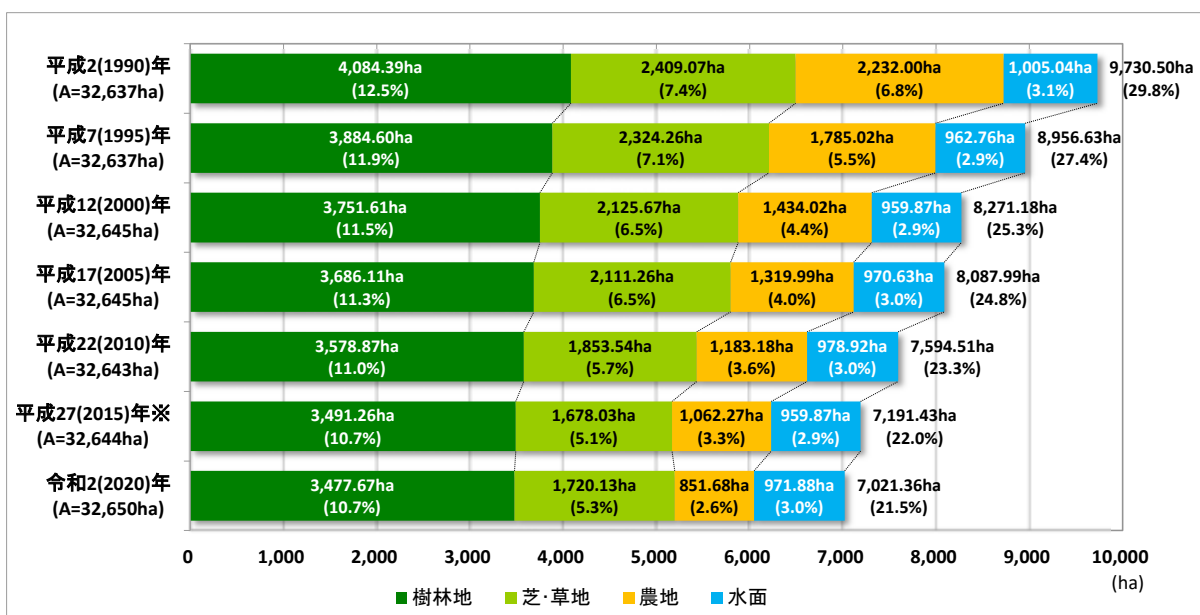


図 I-3：緑被率の推移

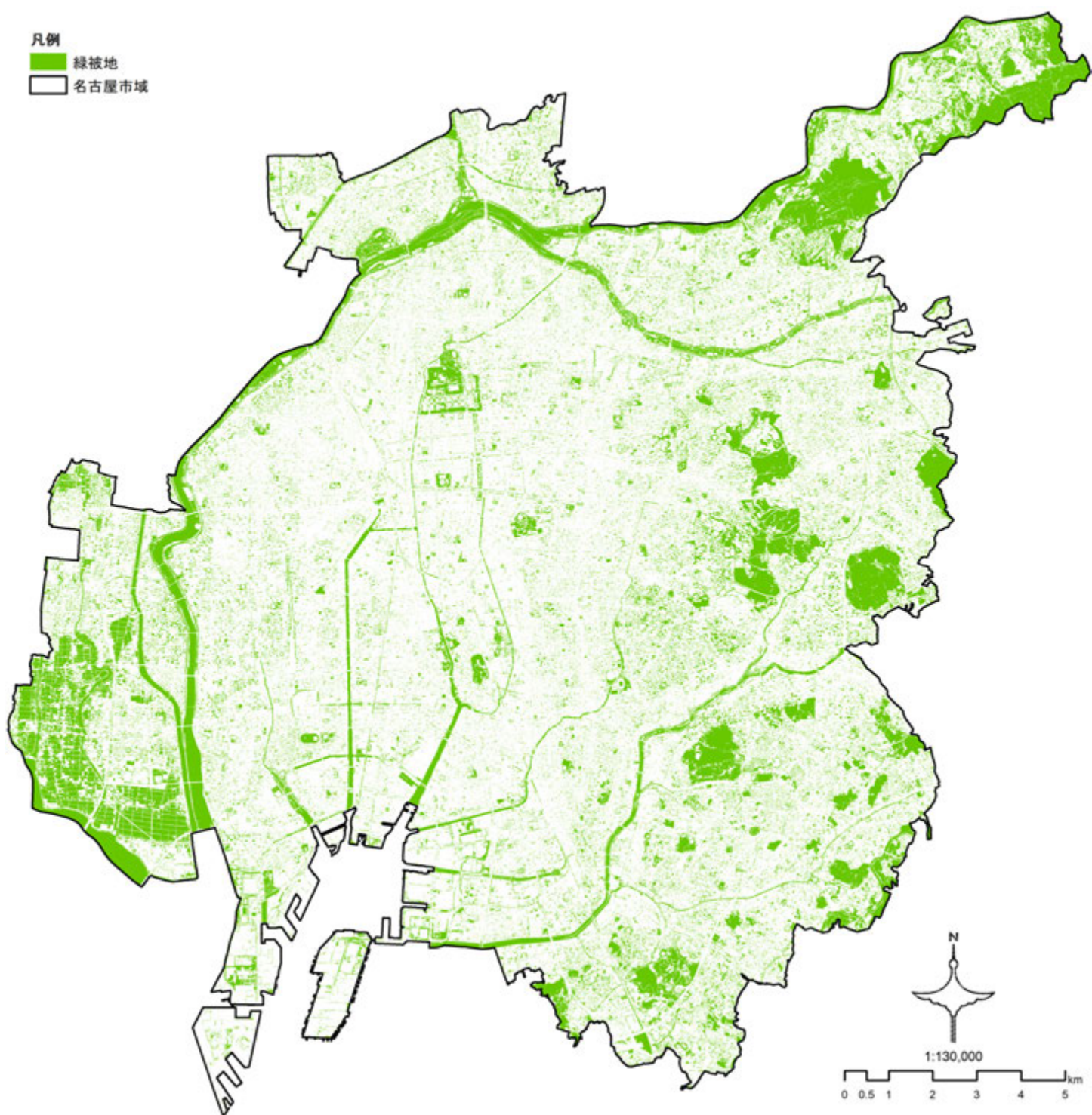


図 I -4 : 名古屋市 現況緑被地図 (令和 2 年)

注 1) 本図は R2 の全緑被地を示したものである。

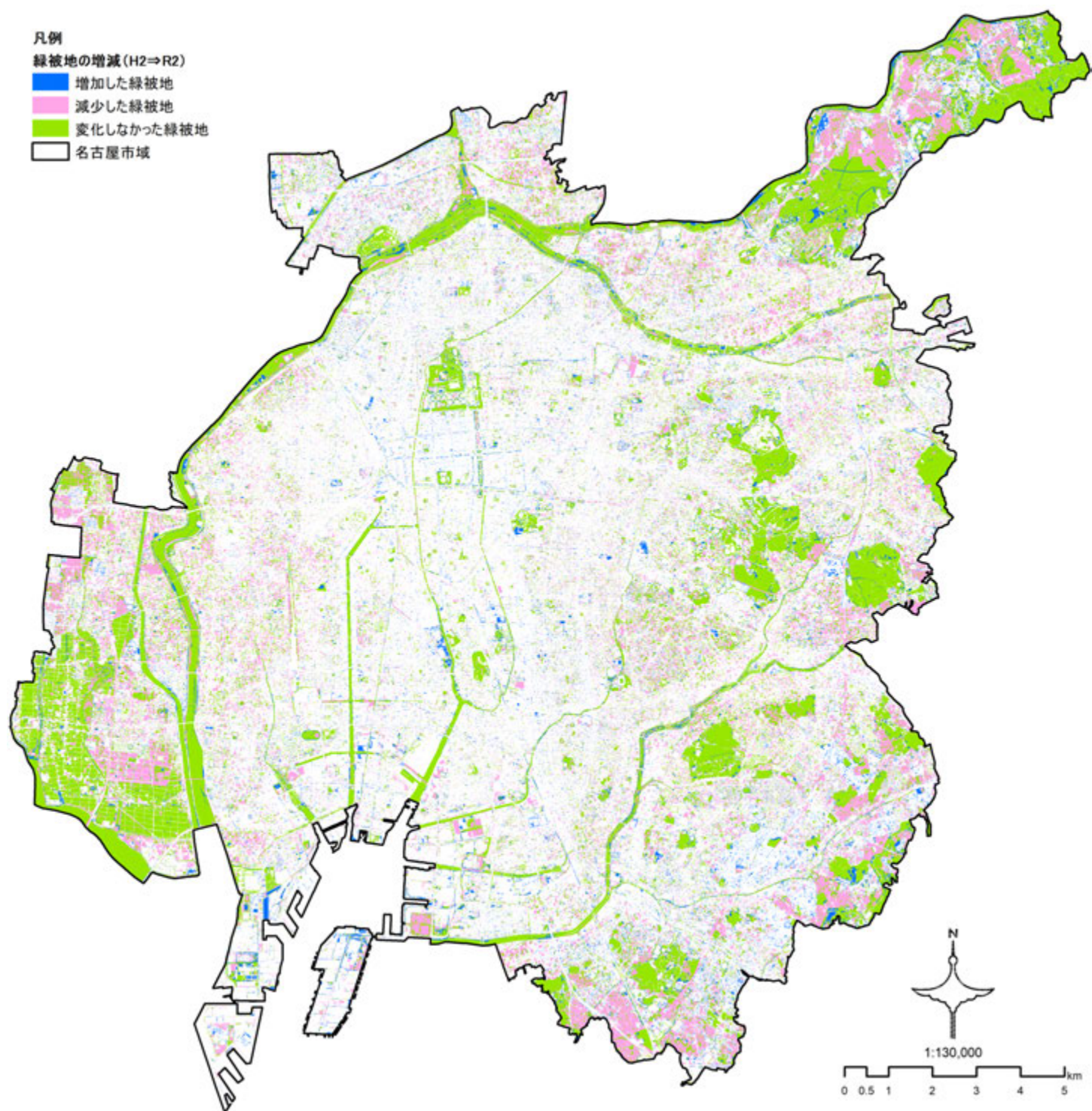


図 I-5：名古屋市 緑被地増減図（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図は H2 及び R2 それぞれの全緑被地をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

(2) 4 種別の緑被率

令和 2(2020)年の 4 種別の緑被率は、樹林地が 10.7% (3,477.67ha)、芝・草地が 5.3% (1,720.13ha)、農地が 2.6% (851.68ha)、水面が 3.0% (971.88ha) であった。

平成 2(1990)年を基準とすると、それ以降、緑被率は 4 種別全体で減少しており、その中でも農地の減少が 4.2 ポイント減と最も大きく、次いで芝・草地 (2.1 ポイント減)、樹林地 (1.8 ポイント減) の減少が大きい状況であった。

表 I-10 : 4 種別の緑被率の概況

		(平成 2(1990)年)	⇒	(令和 2(2020)年)	
↓ 《減少》	水 面	: 3.1%	⇒	3.0%	(0.1 ポイント減少)
	樹 林 地	: 12.5%	⇒	10.7%	(1.8 ポイント減少)
	芝・草地	: 7.4%	⇒	5.3%	(2.1 ポイント減少)
	農 地	: 6.8%	⇒	2.6%	(4.2 ポイント減少)

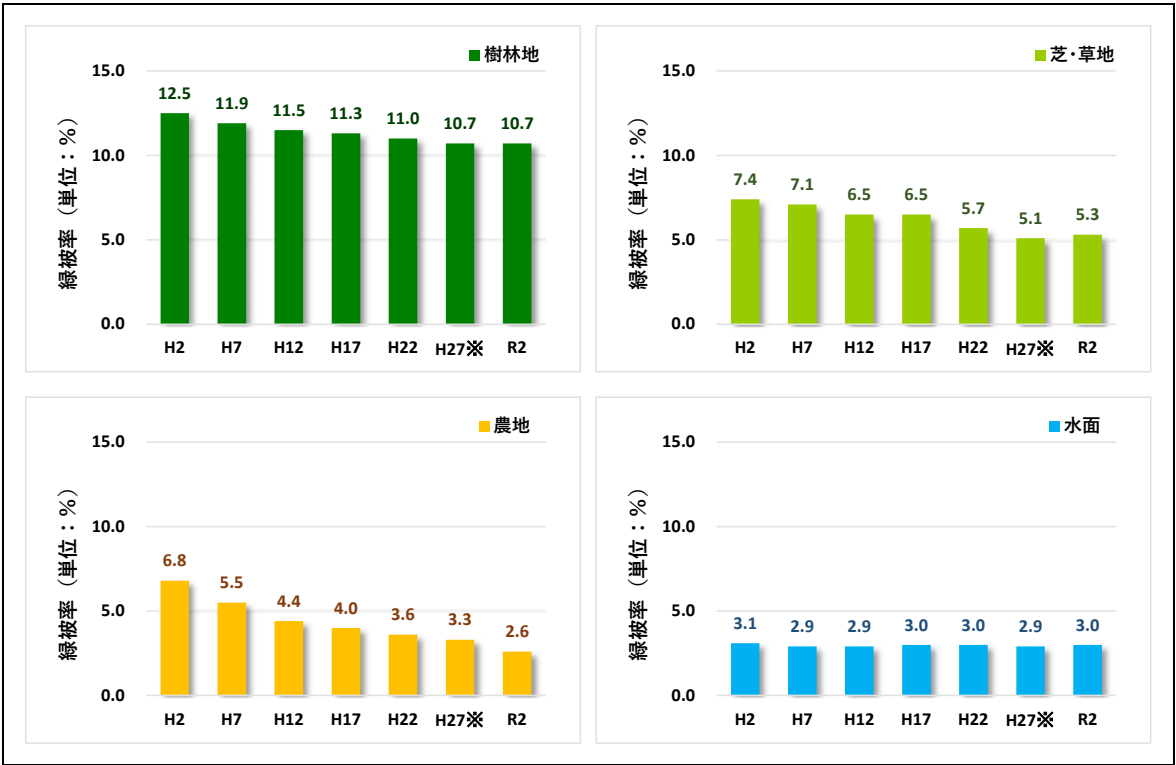


図 I-6 : 4 種別の緑被率の推移

※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

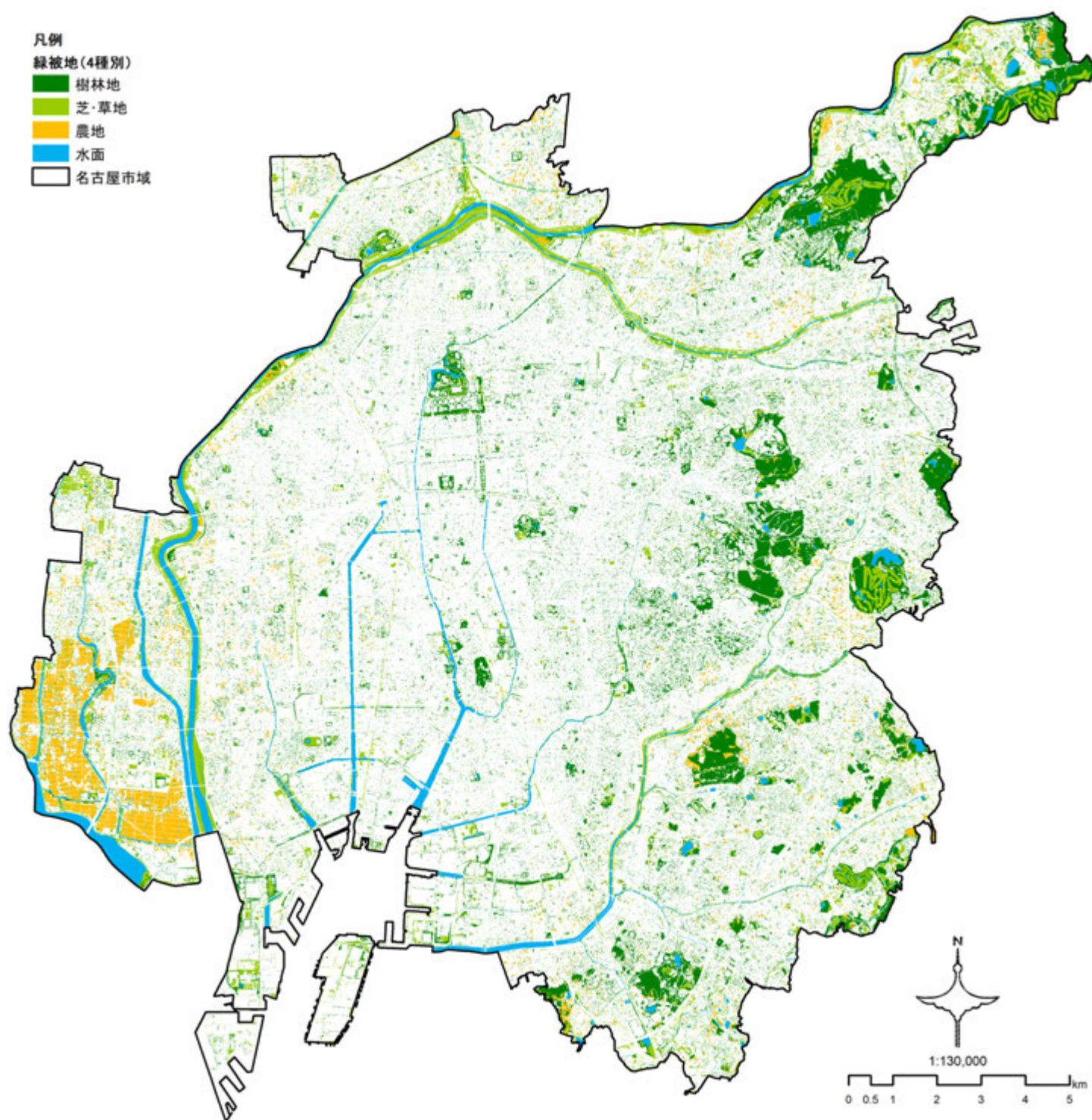


図 I-7 : 名古屋市 現況緑被地図【4種別】(令和2年)

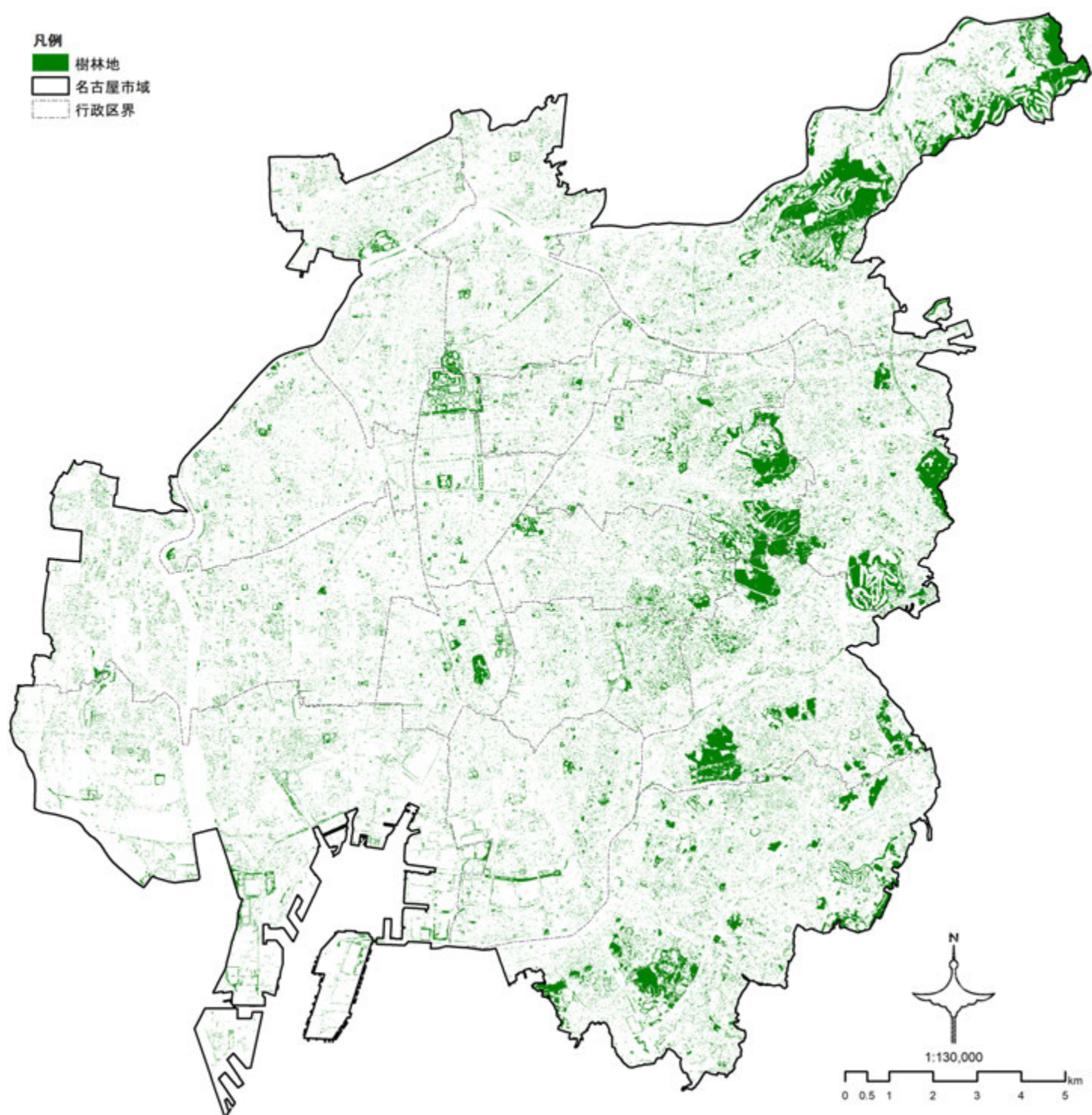


図 I -8 : 名古屋市 樹林地分布図 (令和 2 年)

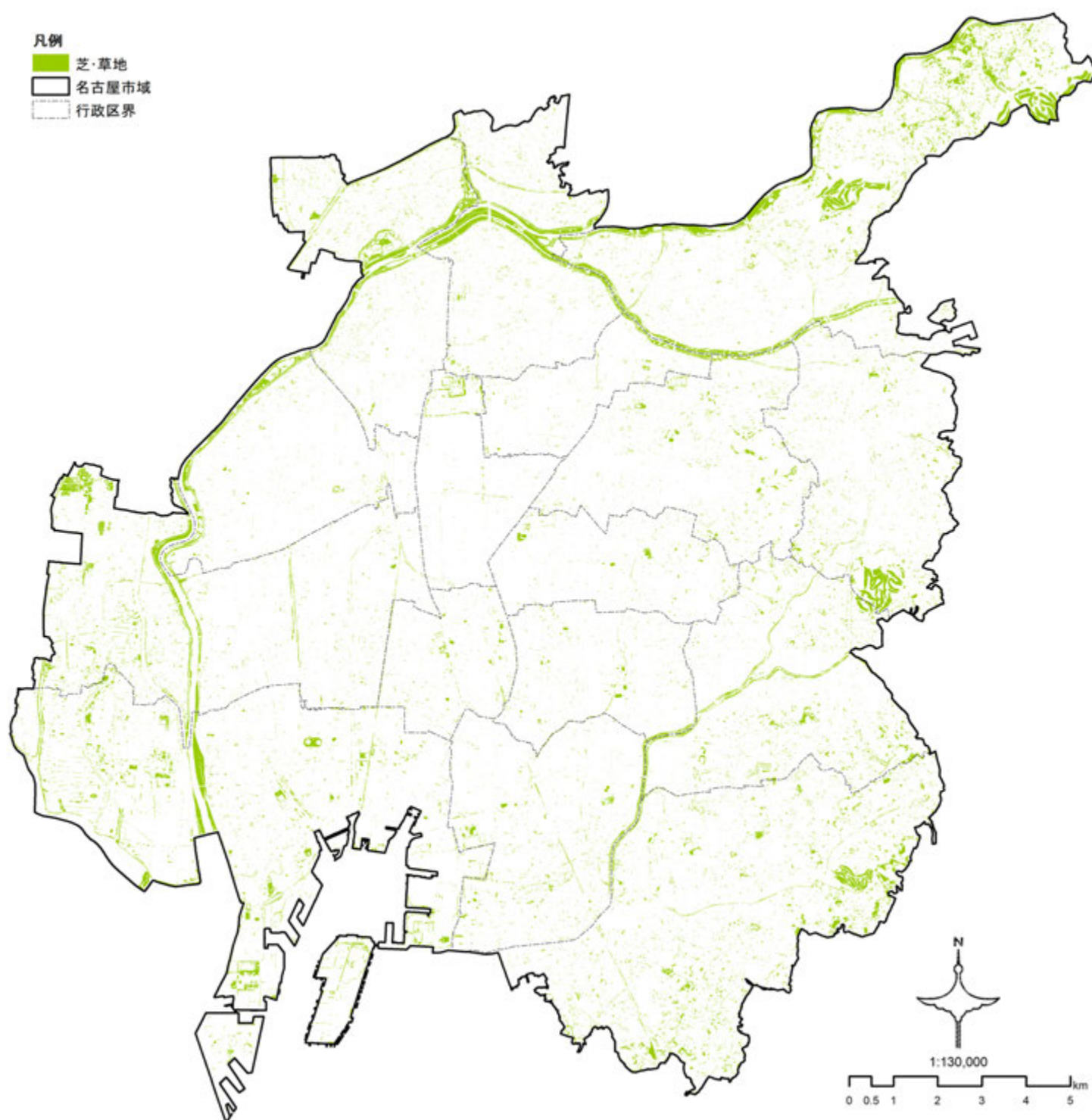


図 I-9 : 名古屋市 芝・草地分布図 (令和 2 年)

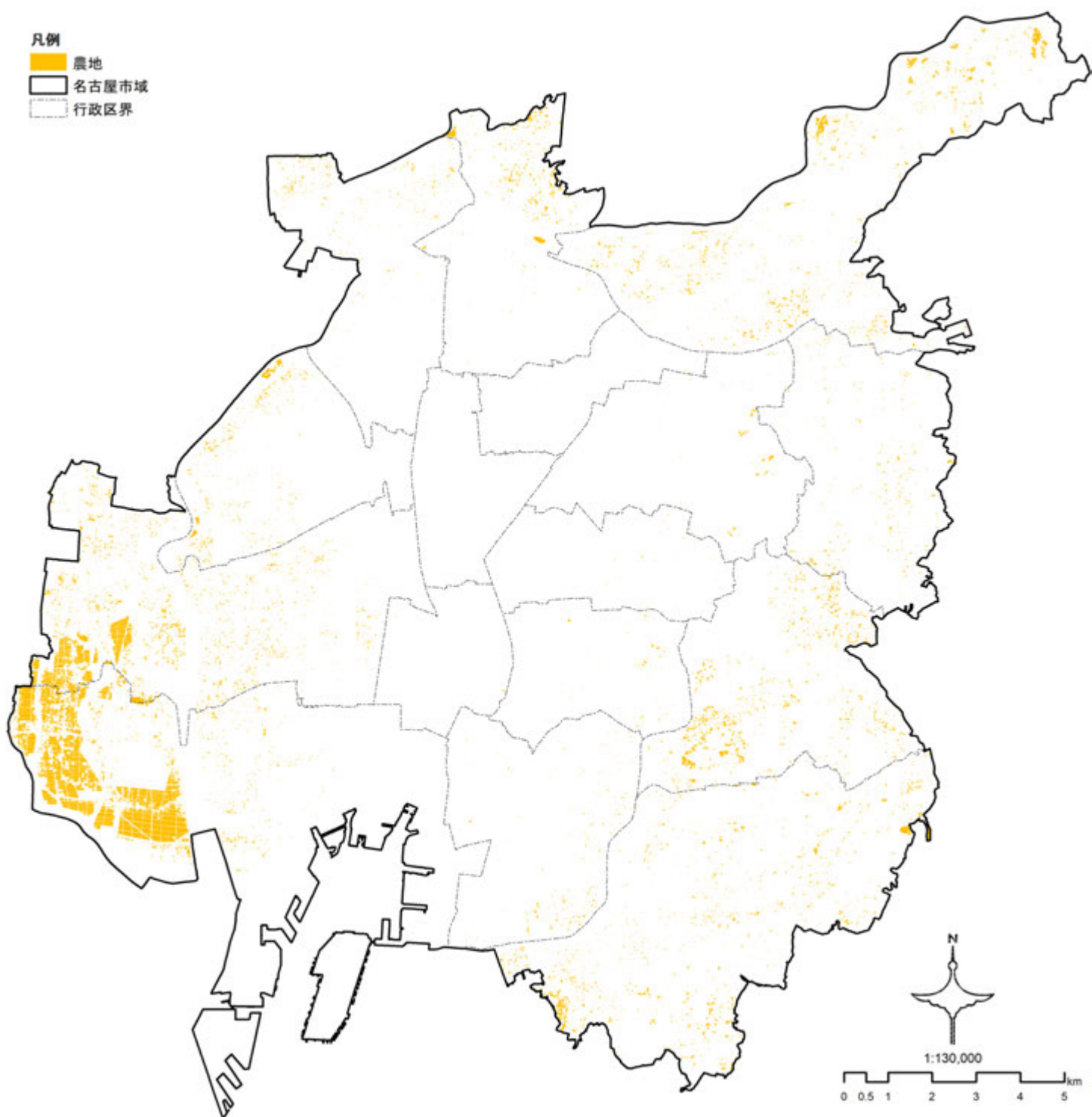


図 I-10 : 名古屋市 農地分布図 (令和 2 年)

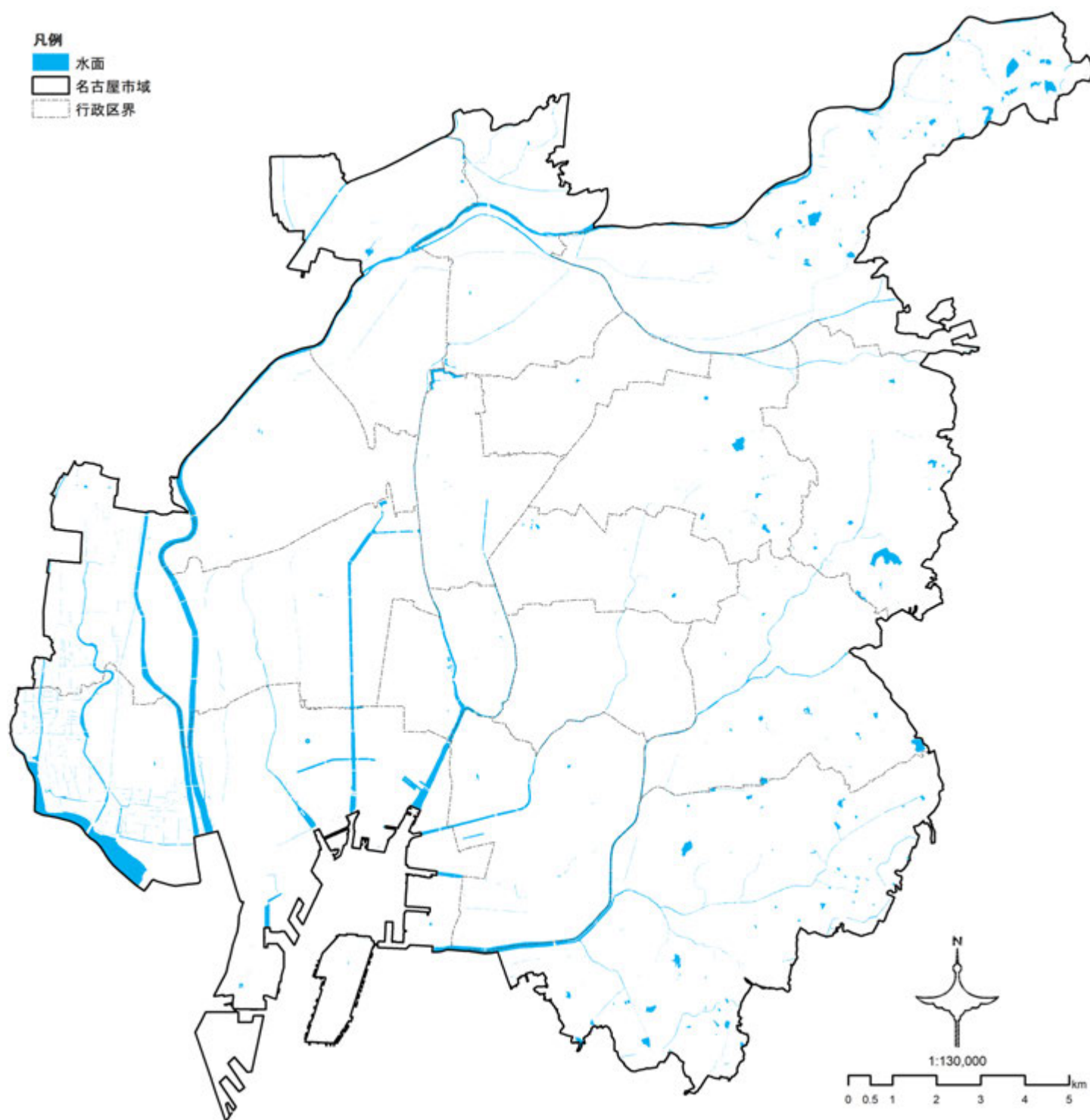


図 I-11 : 名古屋市 水面分布図 (令和 2 年)

(3) 細種別の緑被率

① 細種別の緑被率の状況

令和 2(2020)年の細種別の緑被率は、高い順に高木が 7.4% (2,427.13ha)、草地が 3.2% (1,036.07ha)、河川が 2.5% (826.04ha)、低木が 2.2% (724.19ha) であった。(表 I-12(p. 21) 参照)

平成 2(1990)年を基準とすると、それ以降、全体的には減少しているが、芝地 (0.4 ポイント増) と街路樹高木 (0.1 ポイント増) がそれぞれ微増している状況であった。なお、減少率が大きかったのは、草地 (2.5 ポイント減)、畑 (2.2 ポイント減)、高木 (1.9 ポイント減)、水田 (1.7 ポイント減) であった。(表 I-11、図 I-12、表 I-14(p. 21) 参照)

表 I-11：細種別の緑被率の概況

		(平成 2(1990)年)		(令和 2(2020)年)	(増減)
《増加》 ↑	芝地	1.7%	⇒	2.1%	(0.4 ポイント増加)
	街路樹高木	0.3%	⇒	0.4%	(0.1 ポイント増加)
	街路樹低木	0.1%	⇒	0.1%	(0.0 ポイント)
	河川	2.6%	⇒	2.5%	(0.1 ポイント減少)
	ため池	0.5%	⇒	0.4%	(0.1 ポイント減少)
	低木	2.3%	⇒	2.2%	(0.1 ポイント減少)
	その他農地	0.2%	⇒	0.1%	(0.1 ポイント減少)
	竹林	0.6%	⇒	0.5%	(0.1 ポイント減少)
	果樹園	0.4%	⇒	0.2%	(0.2 ポイント減少)
	水田	3.1%	⇒	1.4%	(1.7 ポイント減少)
↓ 《減少》	高木	9.3%	⇒	7.4%	(1.9 ポイント減少)
	畑	3.2%	⇒	1.0%	(2.2 ポイント減少)
	草地	5.7%	⇒	3.2%	(2.5 ポイント減少)



図 I-12：細種別の緑被率の推移 (1/2)

※ H27 調査は調査手法が異なるため、集計除外とする。

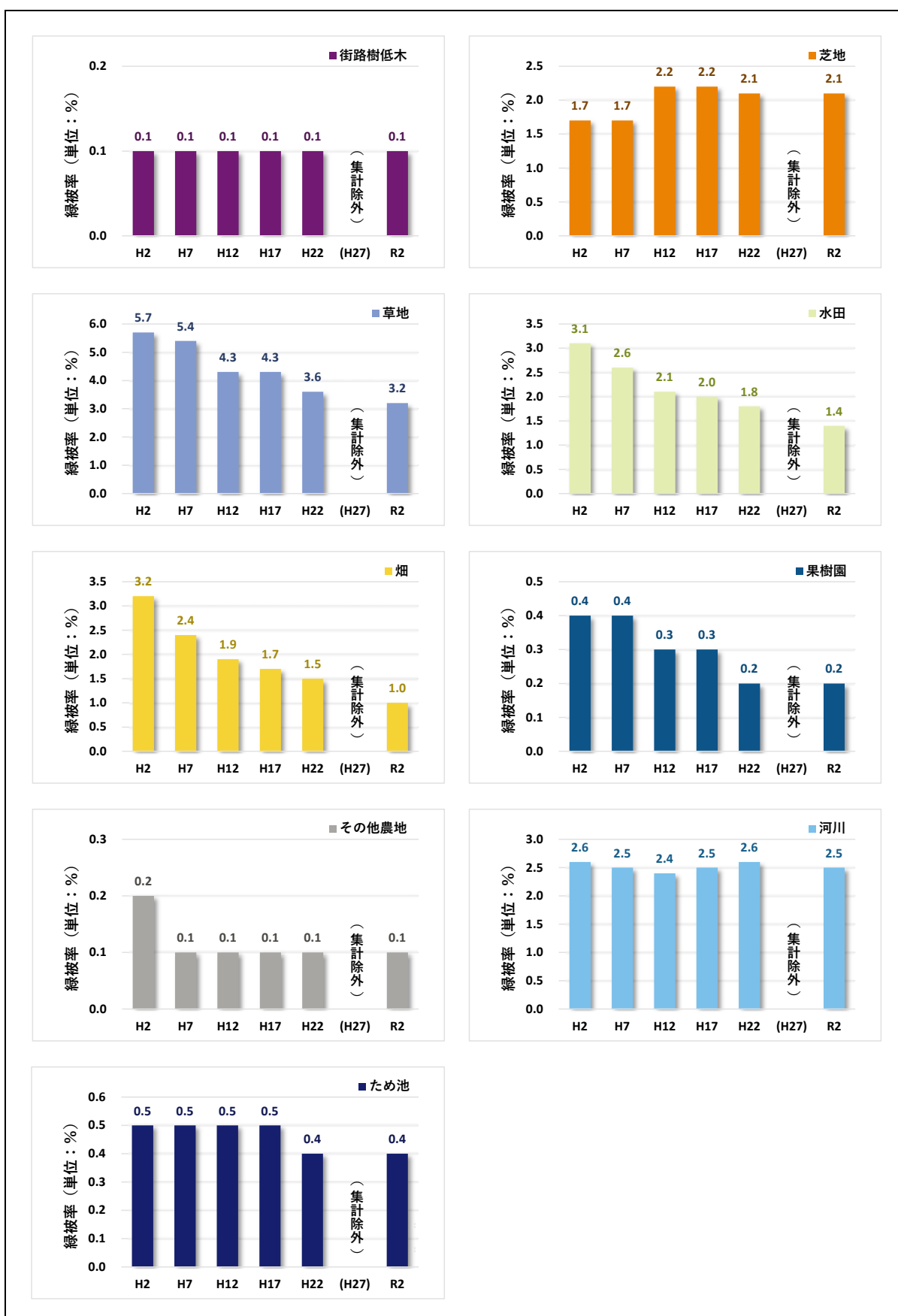


図 I-12 : 細種別の緑被率の推移 (2/2)

※ H27 調査は調査手法が異なるため、集計除外とする。

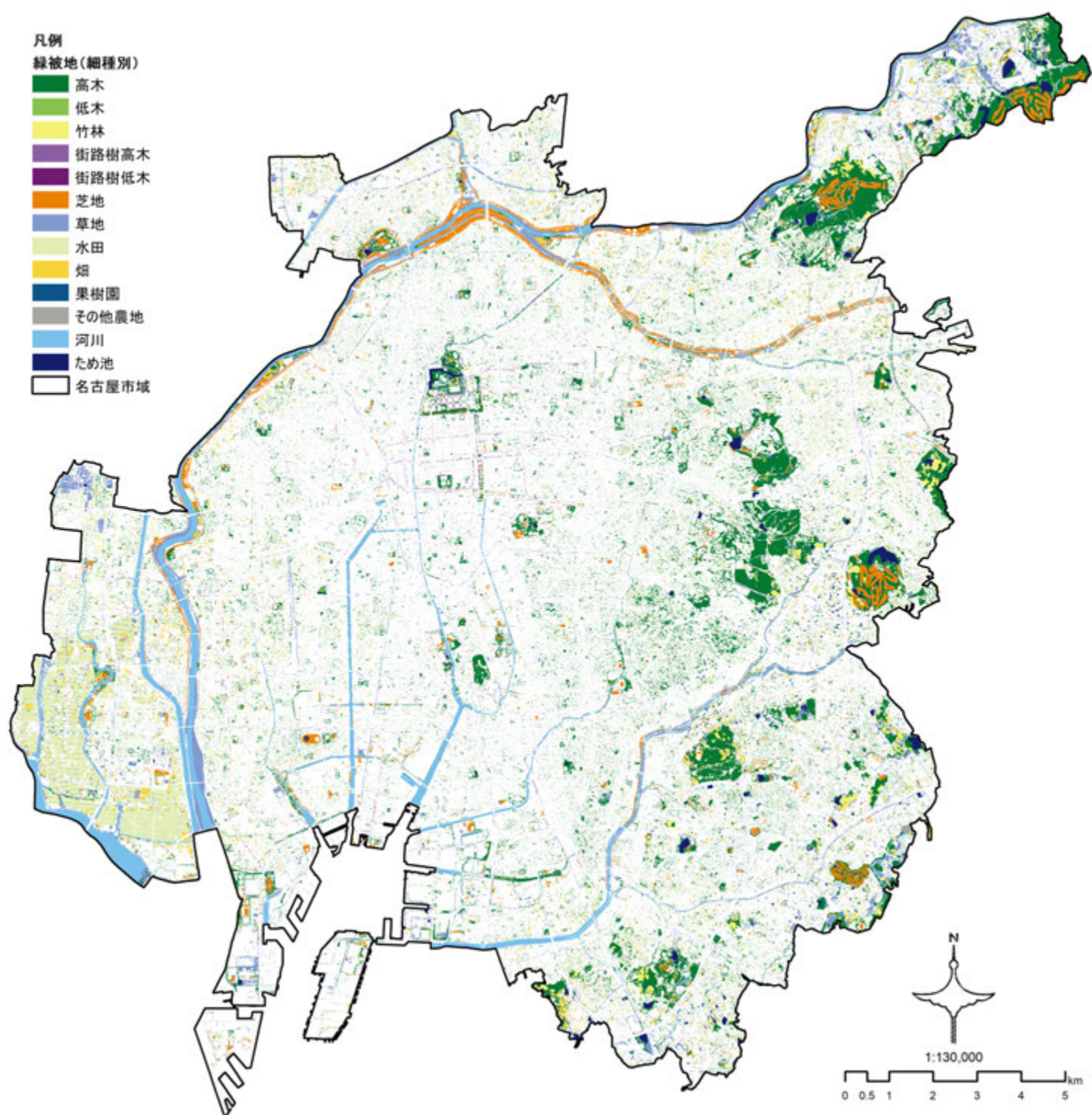


図 I-13 : 名古屋市 現況緑被地図【細種別】(令和 2 年)

表 I-12：緑被地面積及び緑被率の推移

緑被種別		平成 2(1990) 年		平成 7(1995) 年		平成 12(2000) 年		平成 17(2005) 年		平成 22(2010) 年		平成 27(2015) 年※		令和 2(2020) 年	
4 種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
樹林地	高木	3,023.97	9.3	2,886.75	8.8	2,719.67	8.3	2,698.23	8.3	2,564.82	7.9	-	-	2,427.13	7.4
	低木	754.30	2.3	689.78	2.1	731.91	2.2	698.32	2.1	735.28	2.3	-	-	724.19	2.2
	竹林	194.69	0.6	148.99	0.5	123.64	0.4	114.62	0.4	103.63	0.3	-	-	147.14	0.5
	街路樹高木	82.43	0.3	123.59	0.4	138.21	0.4	136.97	0.4	133.52	0.4	-	-	132.38	0.4
	街路樹低木	29.00	0.1	35.49	0.1	38.17	0.1	37.98	0.1	41.62	0.1	-	-	46.83	0.1
	小計	4,084.39	12.5	3,884.60	11.9	3,751.61	11.5	3,686.11	11.3	3,578.87	11.0	3,491.26	10.7	3,477.67	10.7
芝草地	芝地	539.99	1.7	562.97	1.7	711.34	2.2	719.47	2.2	684.15	2.1	-	-	684.06	2.1
	草地	1,869.08	5.7	1,761.29	5.4	1,414.32	4.3	1,391.80	4.3	1,169.39	3.6	-	-	1,036.07	3.2
	小計	2,409.07	7.4	2,324.26	7.1	2,125.67	6.5	2,111.26	6.5	1,853.54	5.7	1,678.03	5.1	1,720.13	5.3
農地	水田	1,007.73	3.1	838.47	2.6	697.93	2.1	656.70	2.0	592.56	1.8	-	-	444.64	1.4
	畑	1,029.90	3.2	787.71	2.4	611.57	1.9	549.20	1.7	479.81	1.5	-	-	331.15	1.0
	果樹園	123.32	0.4	118.30	0.4	91.04	0.3	84.06	0.3	79.43	0.2	-	-	50.80	0.2
	その他農地	71.05	0.2	40.55	0.1	33.48	0.1	30.03	0.1	31.38	0.1	-	-	25.09	0.1
	小計	2,232.00	6.8	1,785.02	5.5	1,434.02	4.4	1,319.99	4.0	1,183.18	3.6	1,062.27	3.3	851.68	2.6
水面	河川	832.85	2.6	815.34	2.5	798.59	2.4	820.51	2.5	835.66	2.6	-	-	826.04	2.5
	ため池	172.19	0.5	147.42	0.5	161.28	0.5	150.12	0.5	143.26	0.4	-	-	145.84	0.4
	小計	1,005.04	3.1	962.76	2.9	959.87	2.9	970.63	3.0	978.92	3.0	959.87	2.9	971.88	3.0
合計		9,730.50	29.8	8,956.63	27.4	8,271.18	25.3	8,087.99	24.8	7,594.51	23.3	7,191.43	22.0	7,021.36	21.5

※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

表 I-13：緑被地面積及び緑被率の前回調査からの変化状況

緑被種別		H2⇒H7 増減		H7⇒H12 増減		H12⇒H17 増減		H17⇒H22 増減		H22⇒H27※ 増減		H27※⇒R2 増減	
4 種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
樹林地	高木	▲137.22	▲0.5	▲167.08	▲0.5	▲21.44	0.0	▲133.41	▲0.4	-	-	-	-
	低木	▲64.52	▲0.2	42.13	0.1	▲33.59	▲0.1	36.96	0.2	-	-	-	-
	竹林	▲45.70	▲0.1	▲25.35	▲0.1	▲9.02	0.0	▲10.99	▲0.1	-	-	-	-
	街路樹高木	41.16	0.1	14.62	0.0	▲1.24	0.0	▲3.45	0.0	-	-	-	-
	街路樹低木	6.49	0.0	2.68	0.0	▲0.19	0.0	3.64	0.0	-	-	-	-
	小計	▲199.79	▲0.6	▲132.99	▲0.4	▲65.50	▲0.2	▲107.24	▲0.3	▲87.61	▲0.3	▲13.59	0.0
芝草地	芝地	22.98	0.0	148.37	0.5	8.13	0.0	▲35.32	▲0.1	-	-	-	-
	草地	▲107.79	▲0.3	▲346.97	▲1.1	▲22.52	0.0	▲222.41	▲0.7	-	-	-	-
	小計	▲84.81	▲0.3	▲198.59	▲0.6	▲14.41	0.0	▲257.72	▲0.8	▲175.51	▲0.6	42.10	0.2
農地	水田	▲169.26	▲0.5	▲140.54	▲0.5	▲41.23	▲0.1	▲64.14	▲0.2	-	-	-	-
	畑	▲242.19	▲0.8	▲176.14	▲0.5	▲62.37	▲0.2	▲69.39	▲0.2	-	-	-	-
	果樹園	▲5.02	0.0	▲27.26	▲0.1	▲6.98	0.0	▲4.63	▲0.1	-	-	-	-
	その他農地	▲30.50	▲0.1	▲7.07	0.0	▲3.45	0.0	1.35	0.0	-	-	-	-
	小計	▲446.98	▲1.3	▲351.00	▲1.1	▲114.03	▲0.4	▲136.81	▲0.4	▲120.91	▲0.3	▲210.59	▲0.7
水面	河川	▲17.51	▲0.1	▲16.75	▲0.1	21.92	0.1	15.15	0.1	-	-	-	-
	ため池	▲24.77	0.0	13.86	0.0	▲11.16	0.0	▲6.86	▲0.1	-	-	-	-
	小計	▲42.28	▲0.2	▲2.89	0.0	10.76	0.1	8.29	0.0	▲19.05	▲0.1	12.01	0.1
合計		▲773.87	▲2.4	▲685.45	▲2.1	▲183.19	▲0.5	▲493.48	▲1.5	▲403.08	▲1.3	▲170.07	▲0.5

※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

表 I-14：令和 2 年度調査の緑被地面積及び緑被率の既往調査からの変化状況

緑被種別		H2⇒R2 増減		H7⇒R2 増減		H12⇒R2 増減		H17⇒R2 増減		H22⇒R2 増減		H27※⇒R2 増減	
4 種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
樹林地	高木	▲596.84	▲1.9	▲459.62	▲1.4	▲292.54	▲0.9	▲271.10	▲0.9	▲137.69	▲0.5	-	-
	低木	▲30.11	▲0.1	34.41	0.1	▲7.72	0.0	25.87	0.1	▲11.09	▲0.1	-	-
	竹林	▲47.55	▲0.1	▲1.85	0.0	23.50	0.1	32.52	0.1	43.51	0.2	-	-
	街路樹高木	49.95	0.1	8.79	0.0	▲5.83	0.0	▲4.59	0.0	▲1.14	0.0	-	-
	街路樹低木	17.83	0.0	11.34	0.0	8.66	0.0	8.85	0.0	5.21	0.0	-	-
	小計	▲606.72	▲1.8	▲406.93	▲1.2	▲273.94	▲0.8	▲208.44	▲0.6	▲101.20	▲0.3	▲13.59	0.0
芝草地	芝地	144.07	0.4	121.09	0.4	▲27.28	▲0.1	▲35.41	▲0.1	▲0.09	0.0	-	-
	草地	▲833.01	▲2.5	▲725.22	▲2.2	▲378.25	▲1.1	▲355.73	▲1.1	▲133.32	▲0.4	-	-
	小計	▲688.94	▲2.1	▲604.13	▲1.8	▲405.54	▲1.2	▲391.13	▲1.2	▲133.41	▲0.4	42.10	0.2
農地	水田	▲563.09	▲1.7	▲393.83	▲1.2	▲253.29	▲0.7	▲212.06	▲0.6	▲147.92	▲0.4	-	-
	畑	▲698.75	▲2.2	▲456.56	▲1.4	▲280.42	▲0.9	▲218.05	▲0.7	▲148.66	▲0.5	-	-
	果樹園	▲72.52	▲0.2	▲67.50	▲0.2	▲40.24	▲0.1	▲33.26	▲0.1	▲28.63	0.0	-	-
	その他農地	▲45.96	▲0.1	▲15.46	0.0	▲8.39	0.0	▲4.94	0.0	▲6.29	0.0	-	-
	小計	▲1,380.32	▲4.2	▲933.34	▲2.9	▲582.34	▲1.8	▲468.31	▲1.4	▲331.50	▲1.0	▲210.59	▲0.7
水面	河川	▲6.81	▲0.1	10.70	0.0	27.45	0.1	5.53	0.0	▲9.62	▲0.1	-	-
	ため池	▲26.35	▲0.1	▲1.58	▲0.1	▲15.44	▲0.1	▲4.28	▲0.1	2.58	0.0	-	-
	小計	▲33.16	▲0.1	9.12	0.1	12.01	0.1	1.25	0.0	▲7.04	0.0	12.01	0.1
合計		▲2,709.14	▲8.3	▲1,935.27	▲5.9	▲1,249.82	▲3.8	▲1,066.63	▲3.3	▲573.15	▲1.8	▲170.07	▲0.5

※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

② 細種別の緑被率の変化

緑被地面積の増減を細種別で見たところ、500ha 程度以上減少していたのは、高木、低木、草地、水田、畑であり、その一方、高木、草地については、500ha 程度以上増加もしていた。（図 I-14 参照）

これらは緑化の推進や、植生の変化等が主な要因として考えられたが、特に、高木では戸田川緑地の整備（中川区・港区、平成 6(1994)年度開園）等が、草地では千音寺の土地区画整理事業（中川区、事業年度：平成 23(2011)年度～令和 9(2027)年度）による一時的な草地化等が影響を及ぼしていたと考えられた。（図 I-15(p. 23)、図 I-21(p. 29)参照）

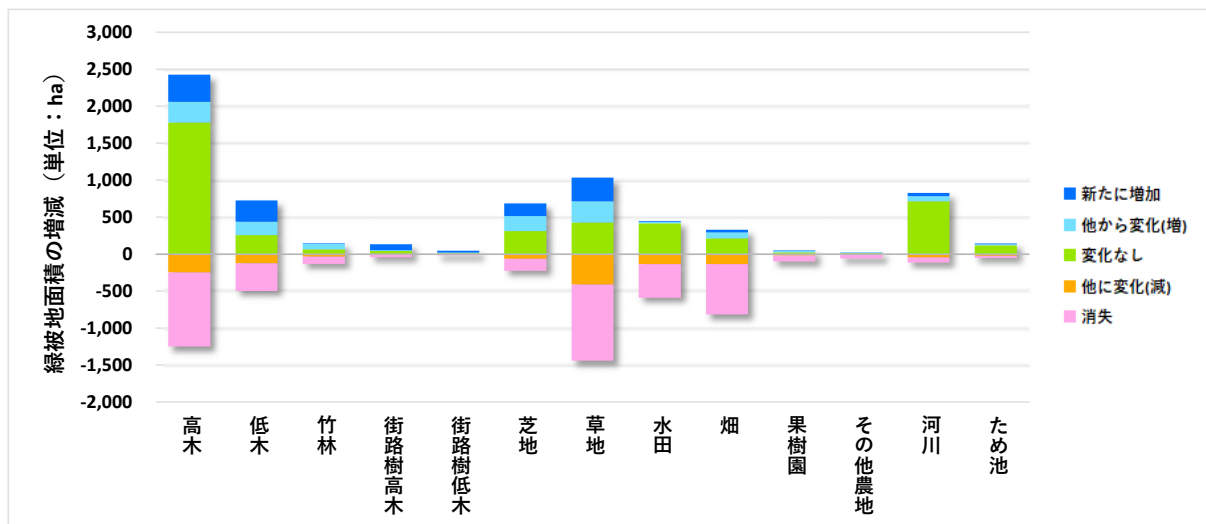


図 I-14：細種別緑被地面積の増減（平成2年から令和2年の30年間の変化）

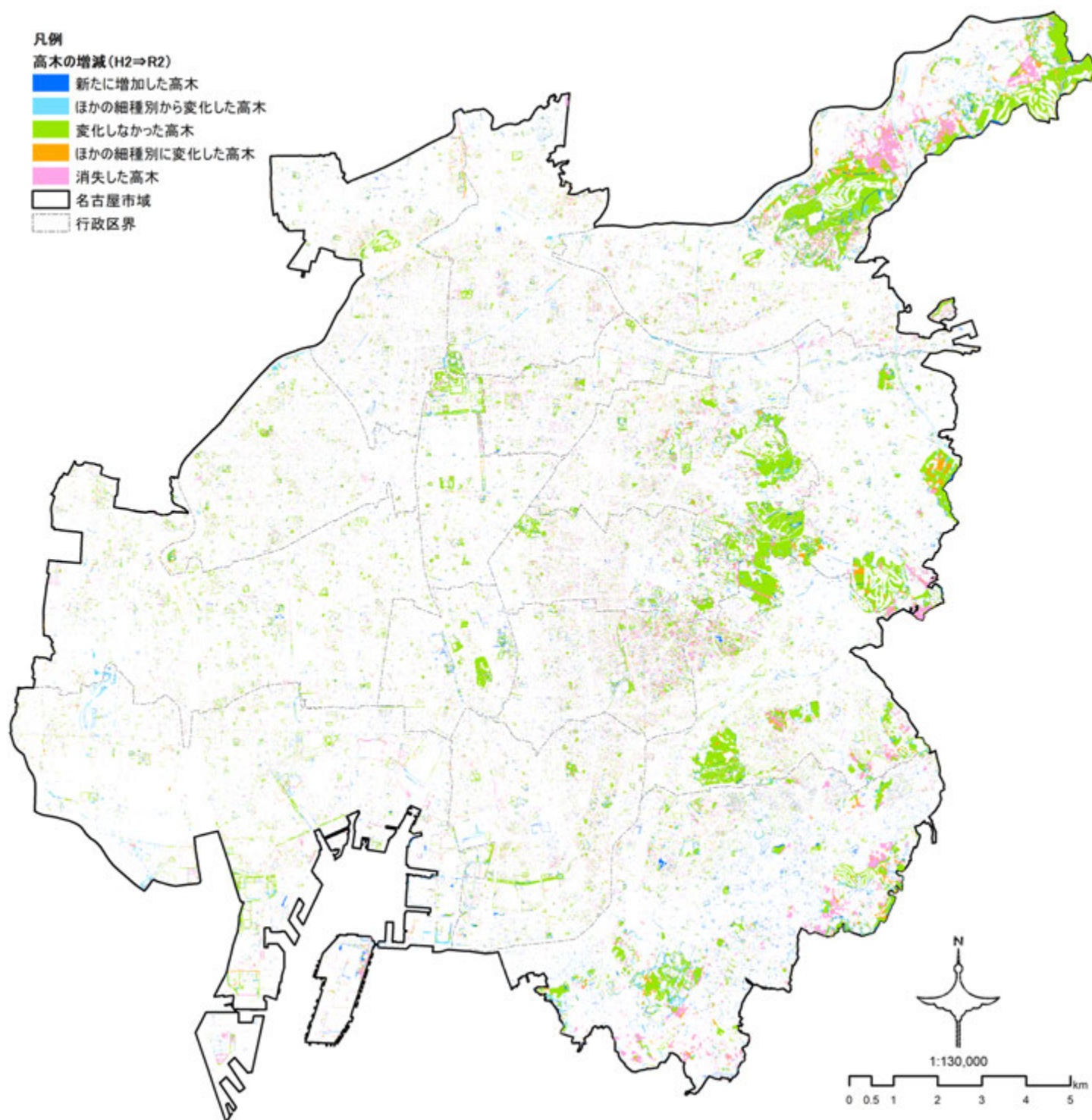


図 I-15：細種別緑被地 増減図【樹林地－高木】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地（高木）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

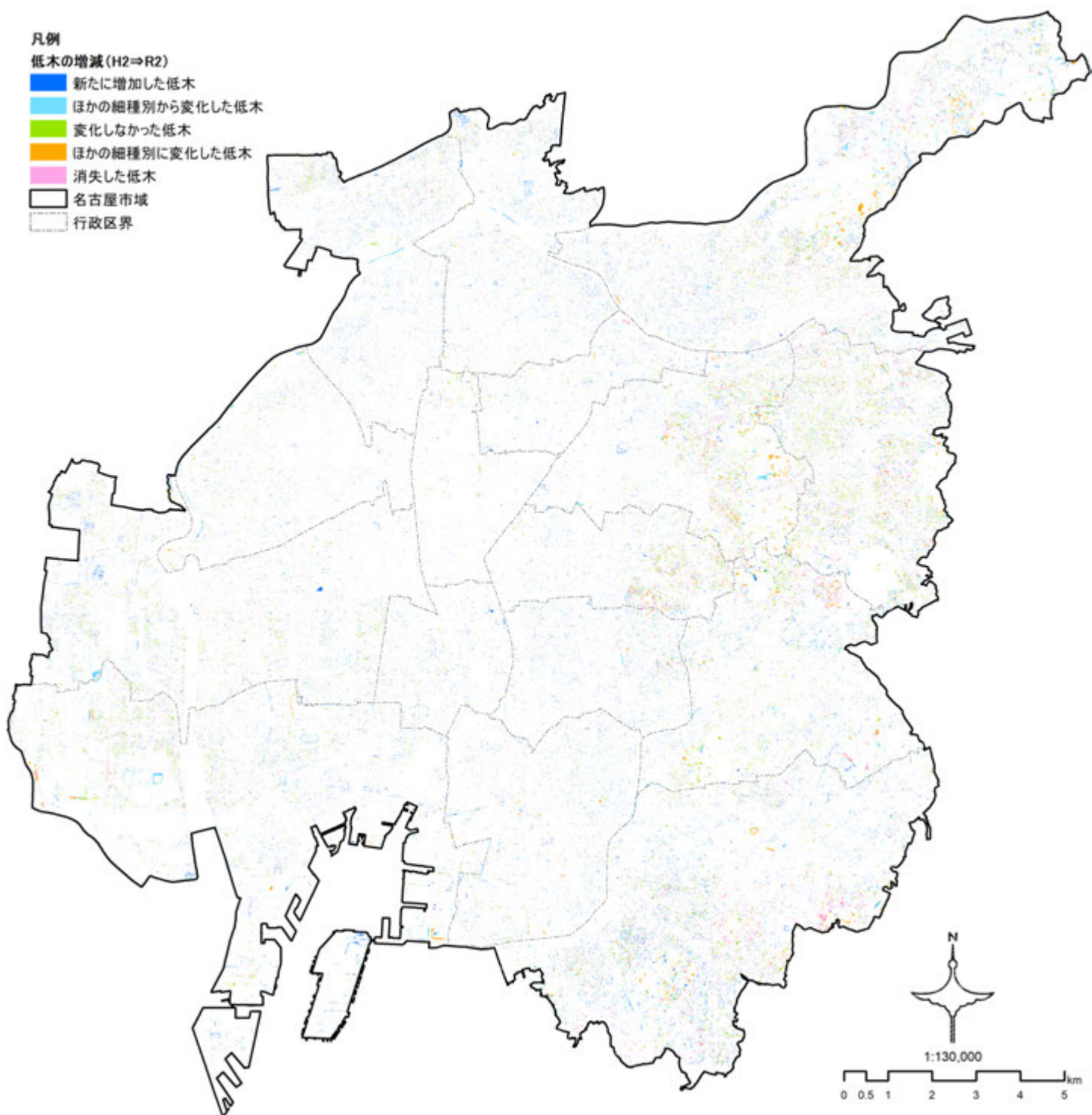


図 I-16：細種別緑被地 増減図【樹林地－低木】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図はH2及びR2それぞれの緑被地（低木）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

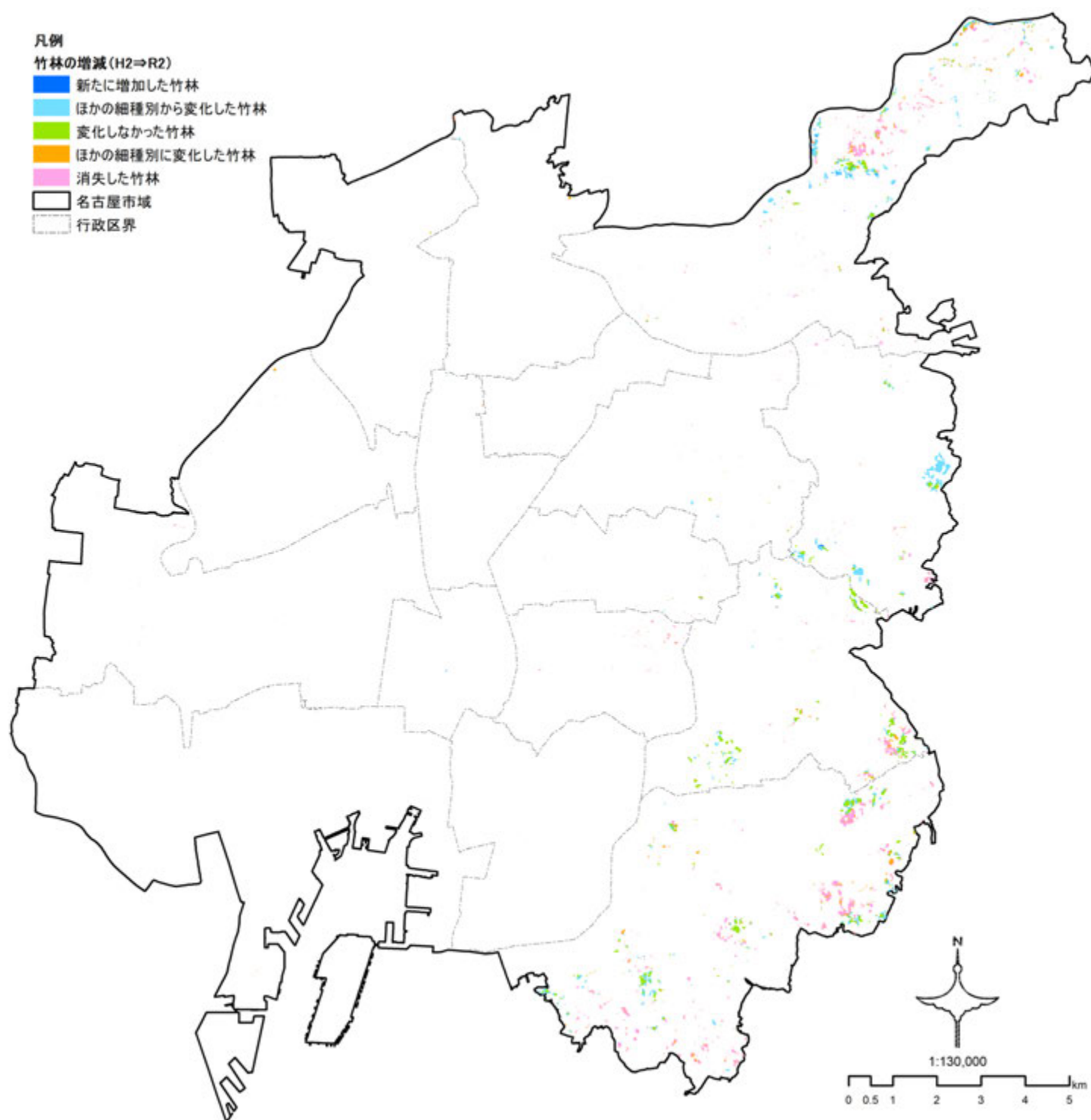


図 I-17：細種別緑被地 増減図【樹林地－竹林】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地（竹林）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

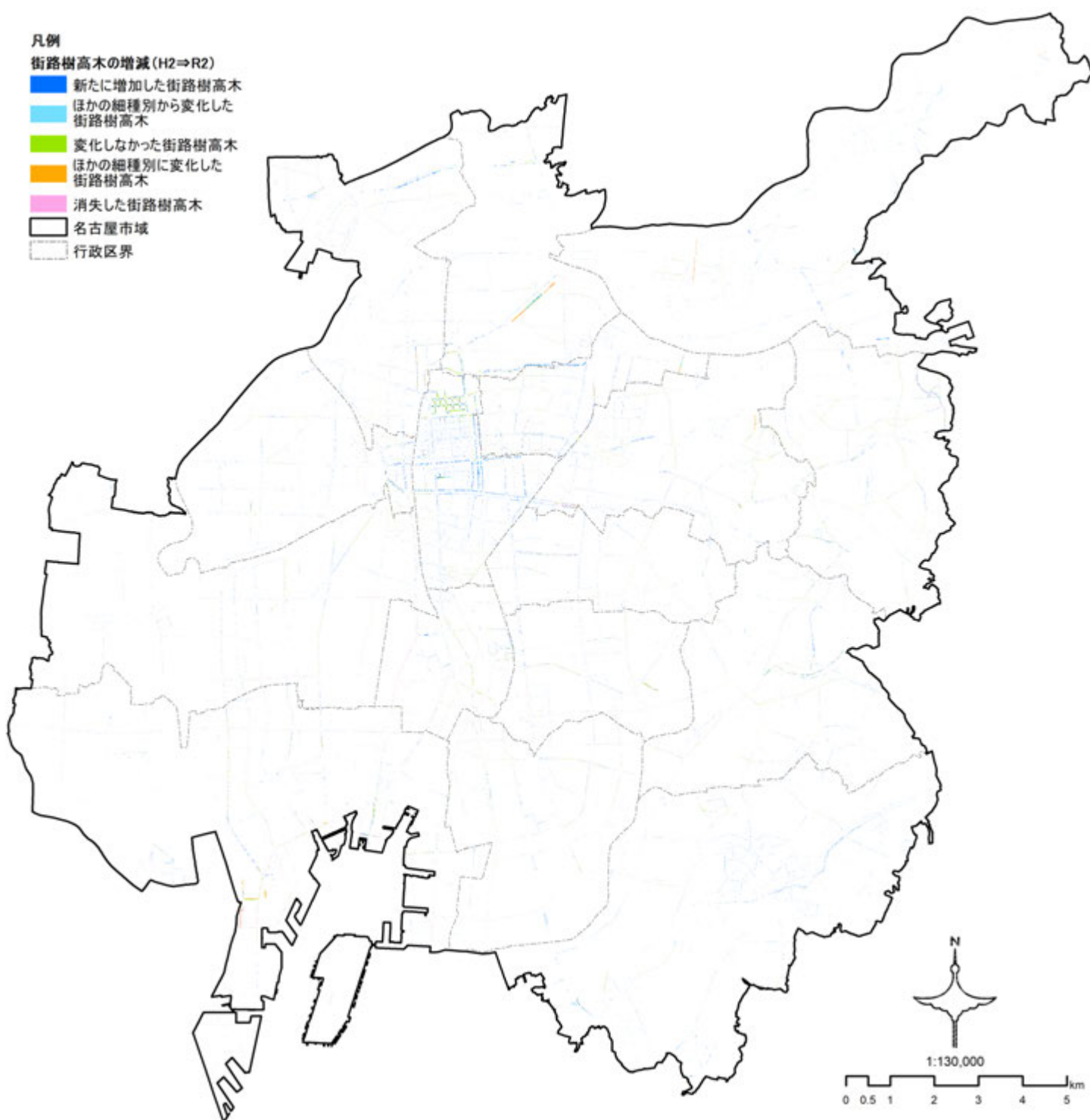


図 I-18：細種別緑被地 増減図【樹林地－街路樹高木】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図はH2及びR2それぞれの緑被地（街路樹高木）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

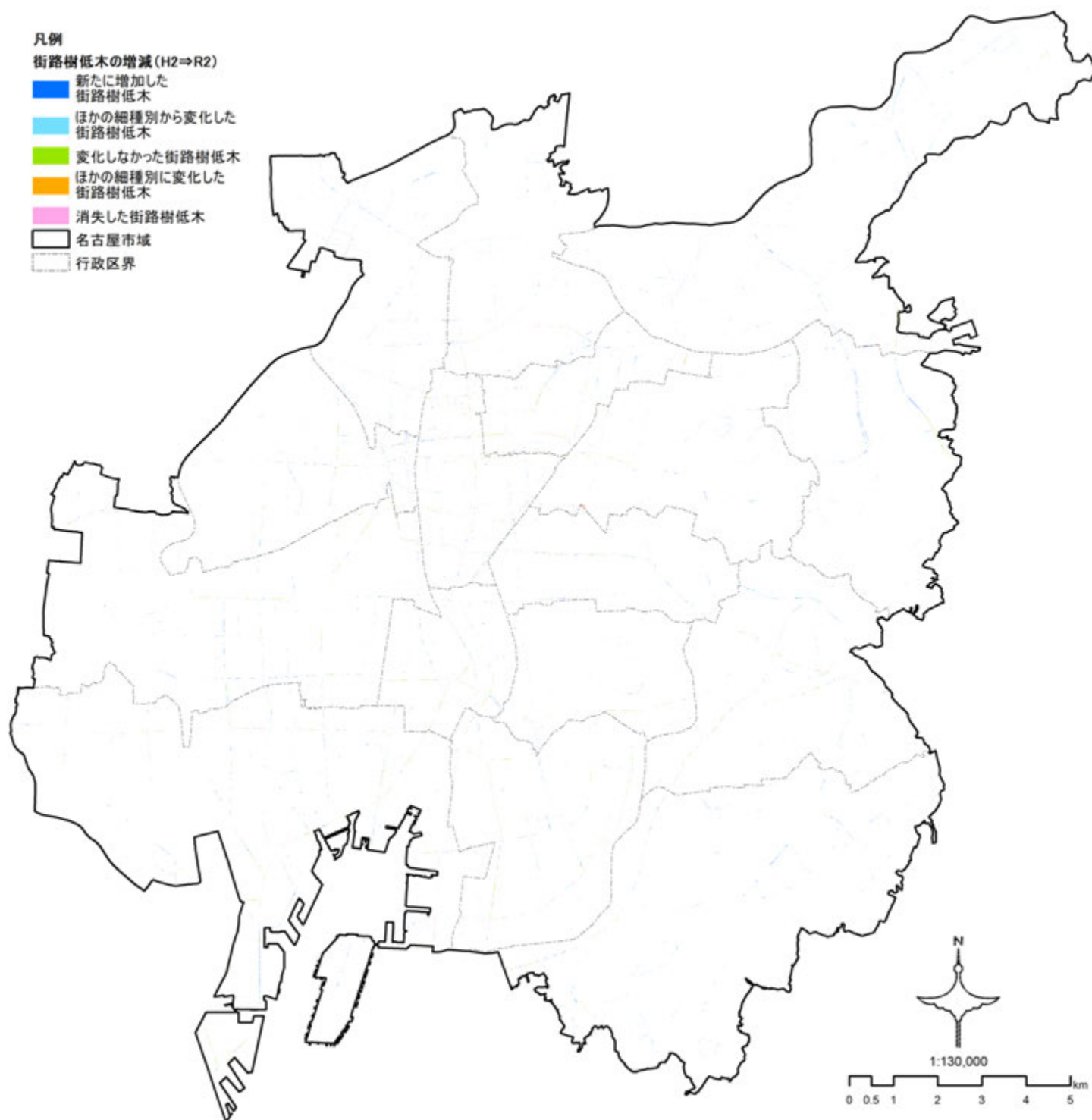


図 I-19：細種別緑被地 増減図【樹林地－街路樹低木】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地（街路樹低木）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

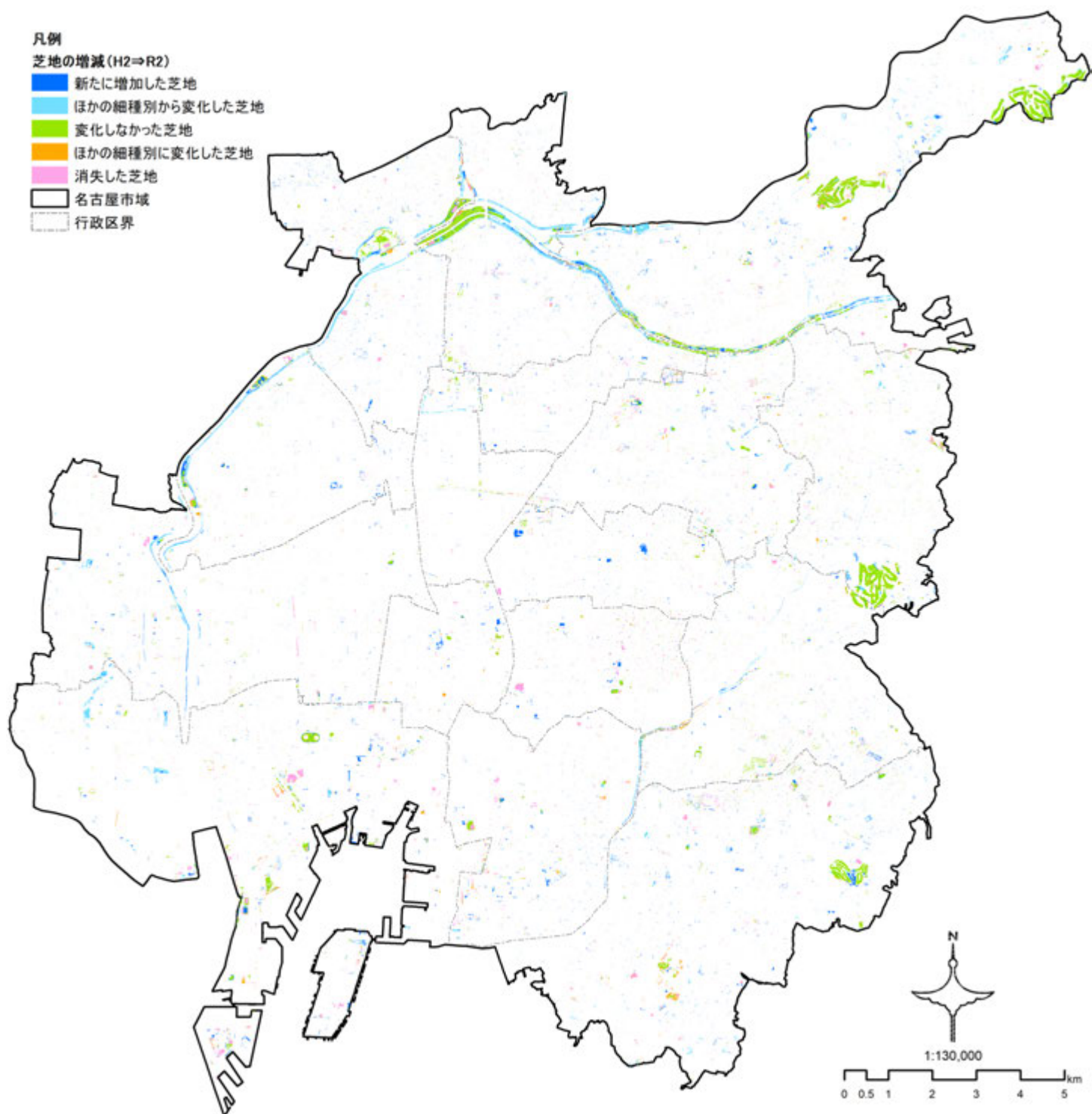


図 I-20：細種別緑被地 増減図【芝・草地－芝地】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図はH2及びR2それぞれの緑被地（芝地）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

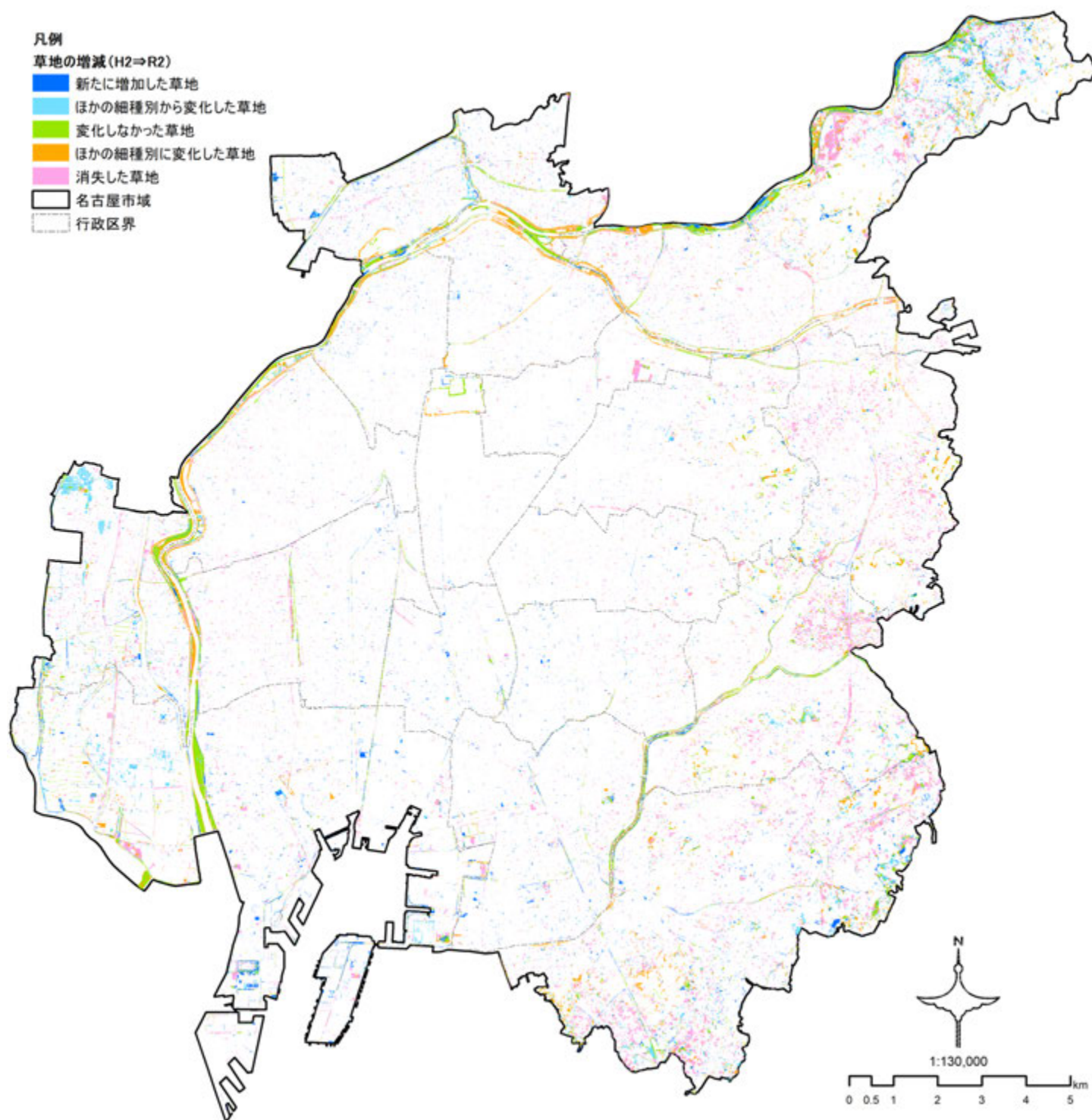


図 I-21：細種別緑被地 増減図【芝・草地－草地】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地（草地）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

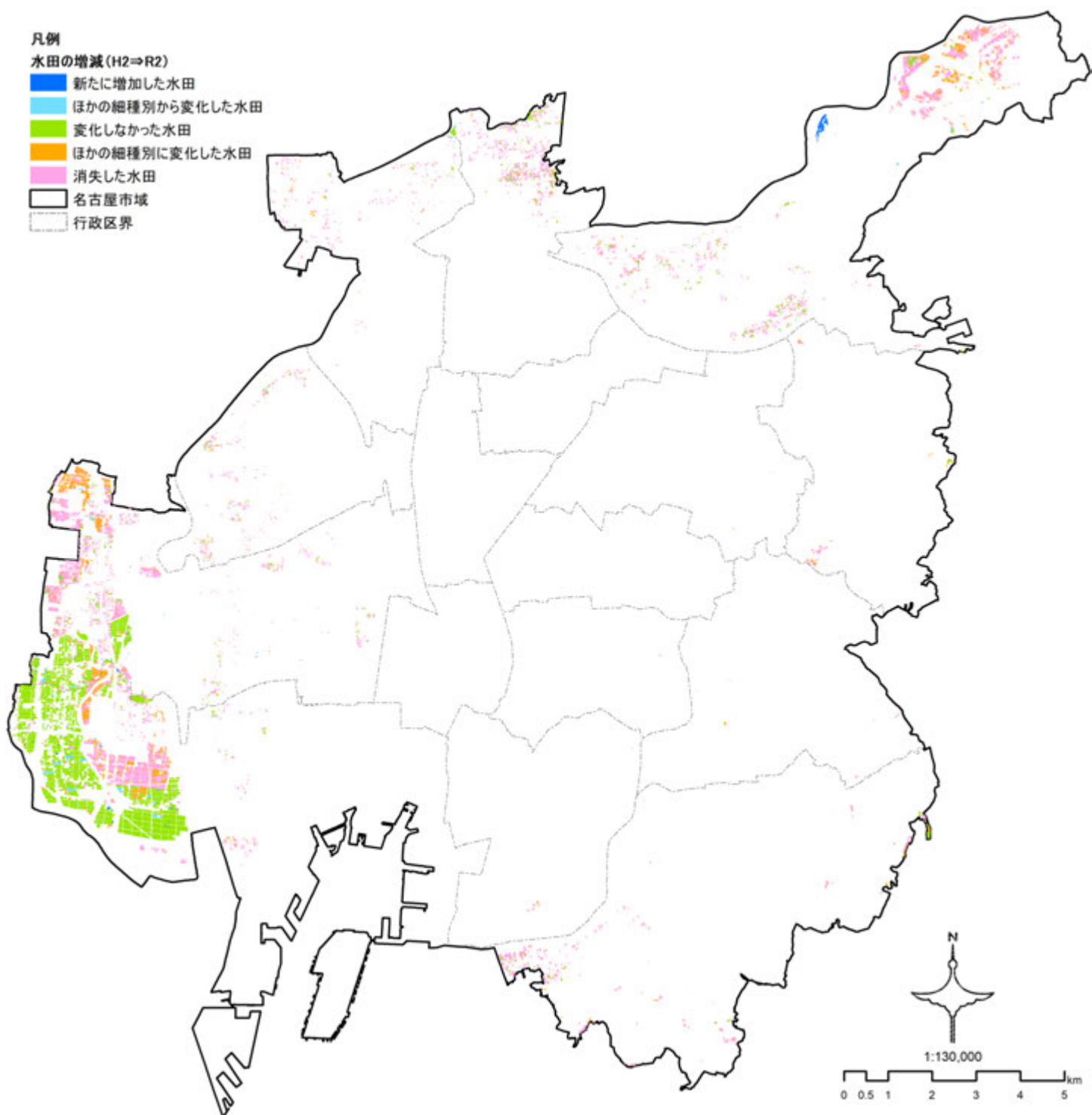


図 I-22：細種別緑被地 増減図【農地－水田】（平成 2 年から令和 2 年の 30 年間の変化）

注 1）本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地（水田）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

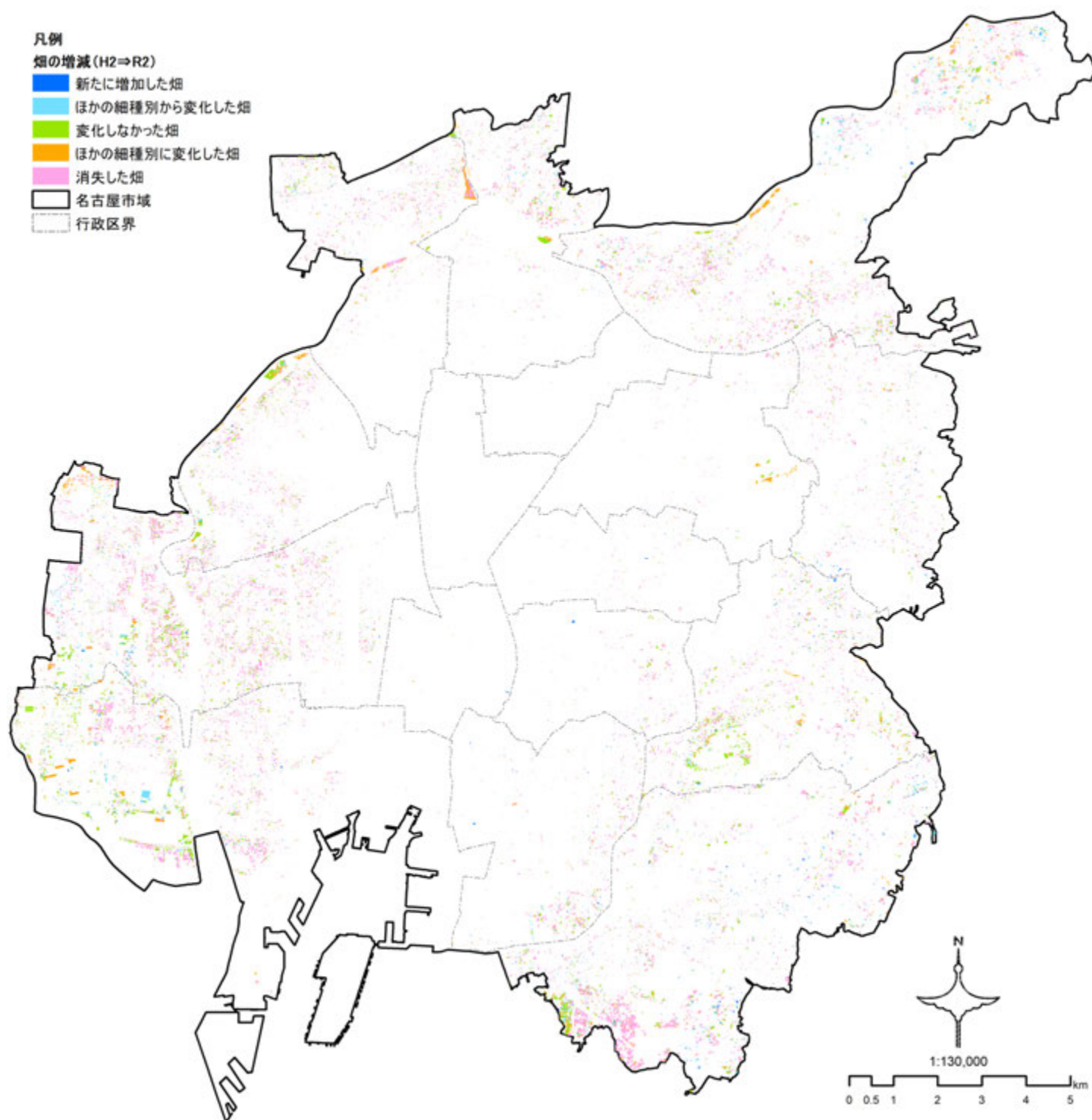


図 I-23：細種別緑被地 増減図【農地－畑】（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地（畑）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

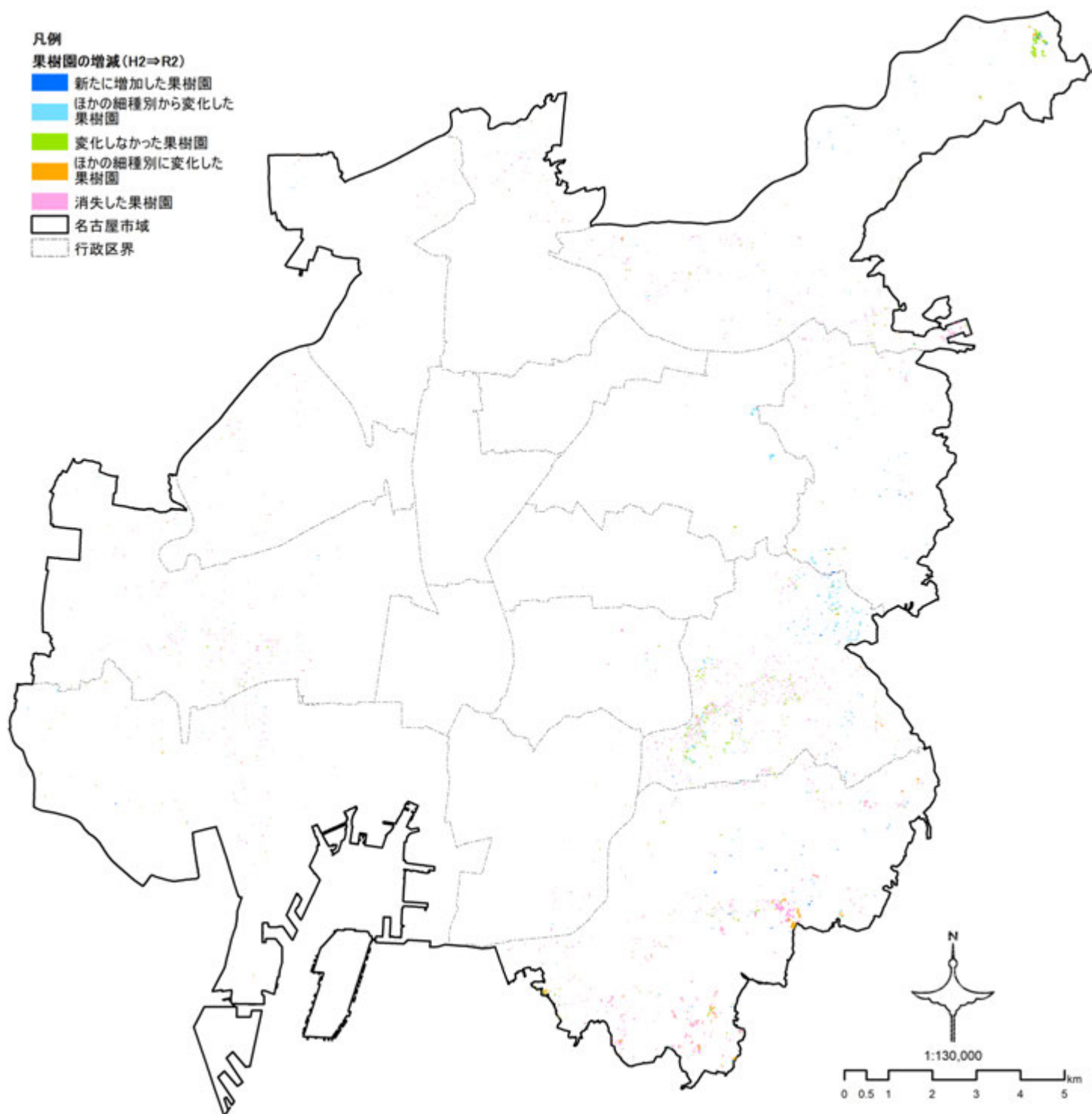


図 I-24 : 細種別緑被地 増減図【農地—果樹園】(平成 2 年から令和 2 年の 30 年間の変化)

注 1) 本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地(果樹園)をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

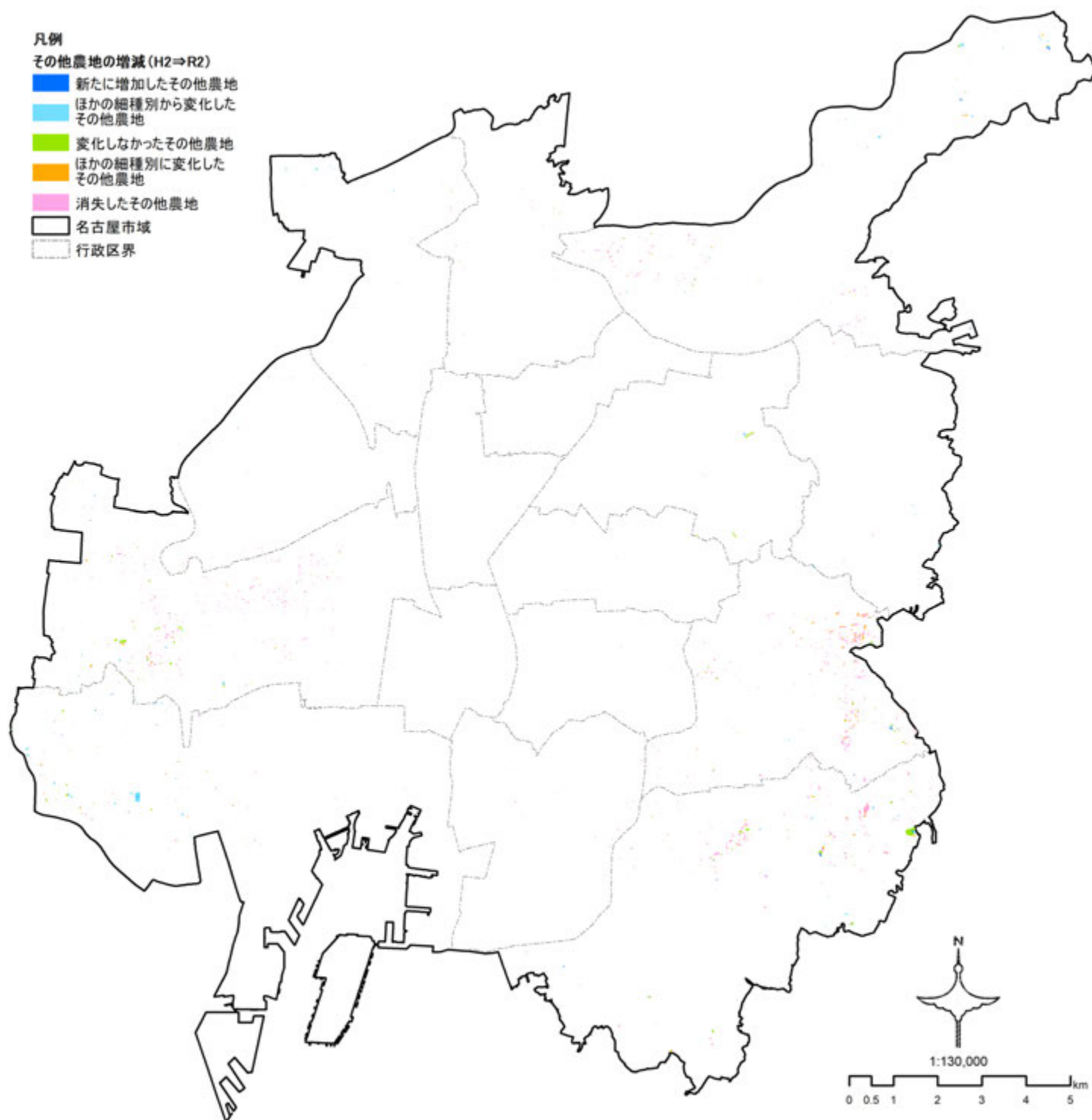


図 I-25 : 細種別緑被地 増減図【農地—その他の農地】(平成2年から令和2年の30年間の変化)

注1) 本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地(その他の農地)をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

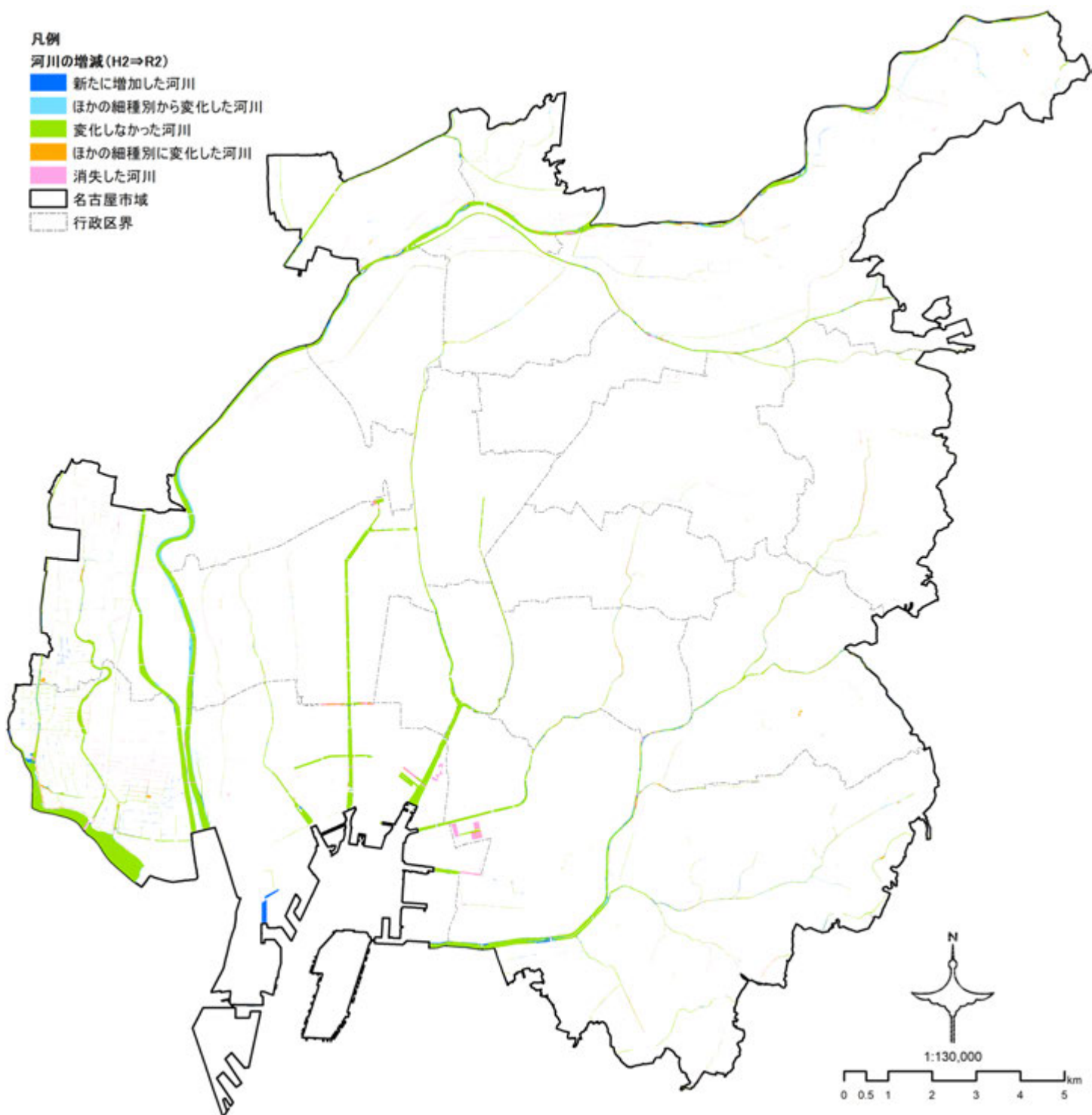


図 I-26：細種別緑被地 増減図【水面－河川】（平成 2 年から令和 2 年の 30 年間の変化）

注 1）本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地（河川）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

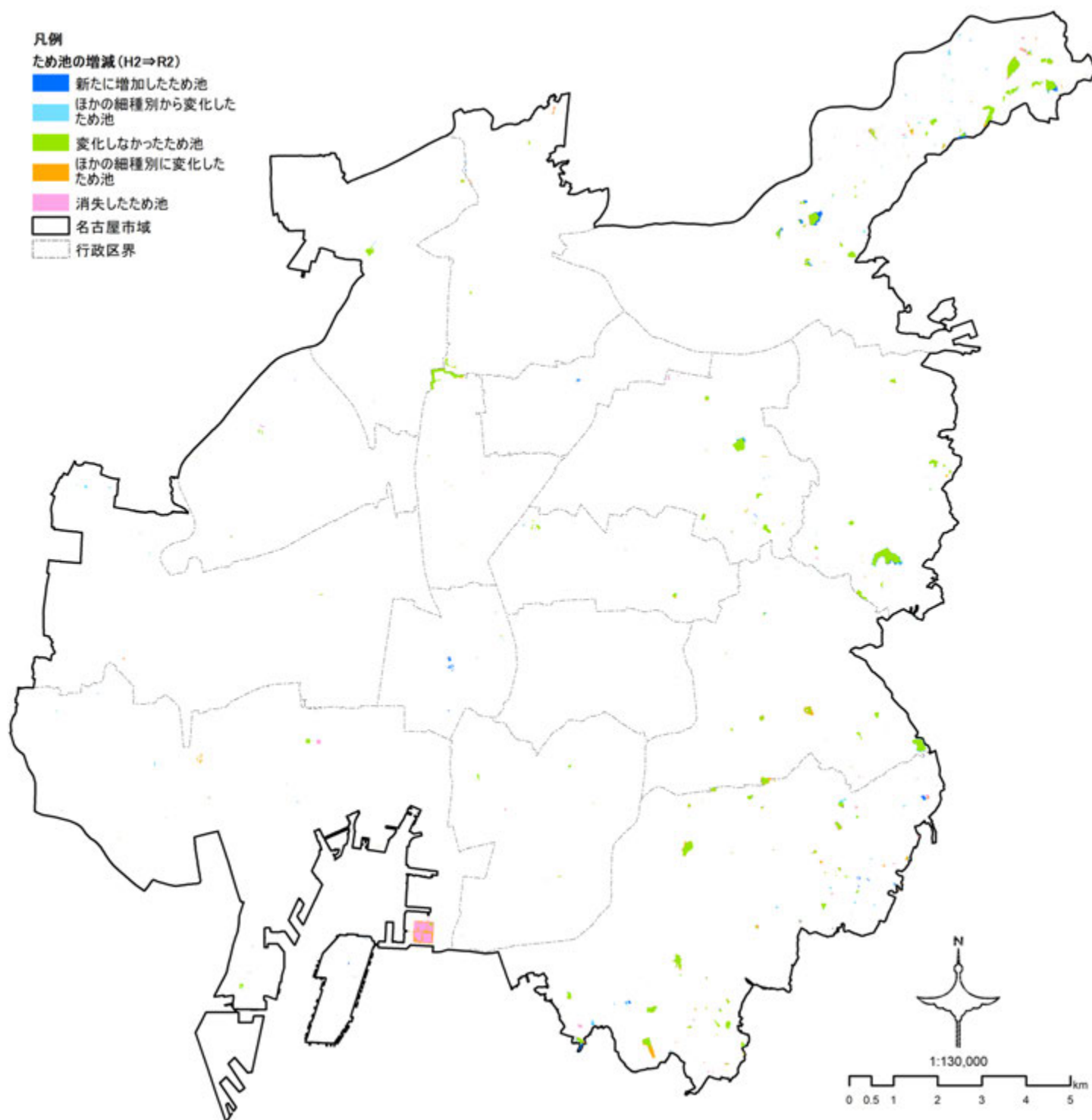


図 I-27 : 細種別緑被地 増減図【水面－ため池】(平成 2 年から令和 2 年の 30 年間の変化)

注 1) 本図は H2 及び R2 それぞれの緑被地 (ため池) をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

3-2. 緑被地のまとまり度

面積が広い、連続性があるなどの“まとまりの大きな緑”は、生物の生息・生育空間として、また、環境の改善、防災性の向上、美しい景観の形成、レクリエーションの場の提供、季節感や安らぎ感の充実などの効果を発揮し、緑被地のまとまり度は都市の緑が果たしている役割を評価する上で重要な指標である。本節においては、本市の緑について、まとまり度の視点から概観した。

3-2-1. 緑被地全体のまとまり度

(1) 緑被地全体のまとまり度

1ha以上のまとまった緑被地は、庄内川をはじめとする河川沿いのほか、東部地域においては樹林地や芝・草地として、西部地域においては農地として分布するものが多い状況であった。

(2) 緑被地全体のまとまり度の変化

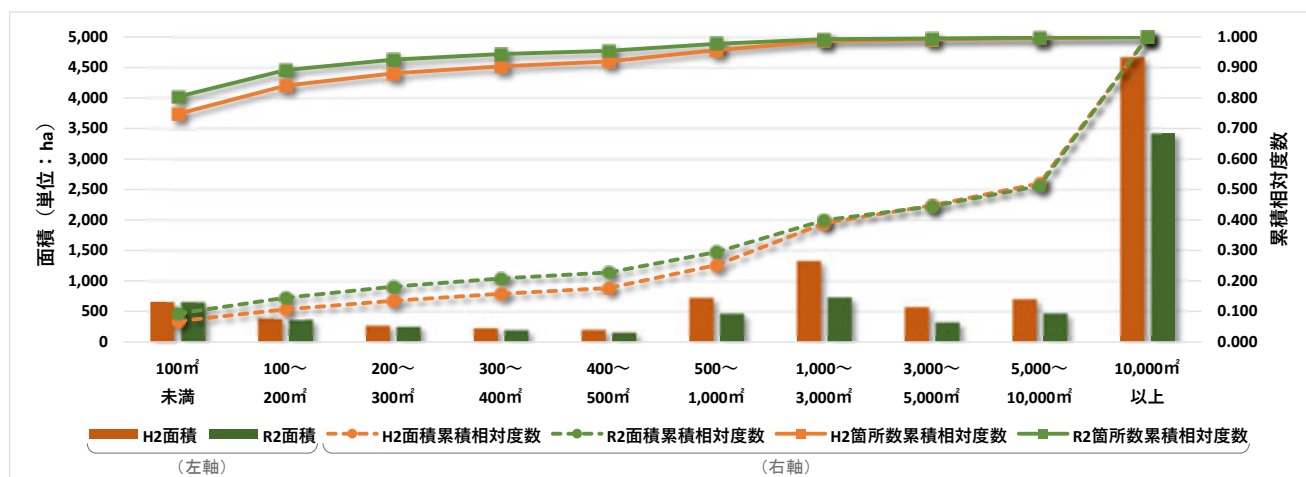
1ha以上の緑被地は合計面積3,423.39ha(計672箇所)であり、箇所数は全体の0.2%に過ぎないが、面積は全緑被地の約半分を占めていた。

平成2(1990)年からの変化を見ると、およそ200㎡を境にして、比較的大きなまとまりのある緑被地は面積・箇所数ともに減少し、小規模な緑被地の箇所数は増えている傾向にあることから、緑被地の細分化が進行していると考えられた。

表I-15：緑被地全体のまとまり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和2(2020)年				緑被地全体増減(R2-H2)	
	緑被地面積(ha)	面積累積相対度数	箇所数(箇所)	箇所数累積相対度数	緑被地面積(ha)	面積累積相対度数	箇所数(箇所)	箇所数累積相対度数	緑被地面積(ha)	箇所数(箇所)
100㎡未満	658.13	0.068	198,570	0.748	654.51	0.093	239,679	0.804	▲3.62	41,109
100㎡以上 200㎡未満	387.38	0.107	24,766	0.841	366.95	0.145	26,121	0.892	▲20.43	1,355
200㎡以上 300㎡未満	268.00	0.135	10,571	0.881	250.97	0.181	10,288	0.926	▲17.03	▲283
300㎡以上 400㎡未満	220.16	0.158	6,356	0.904	185.58	0.208	5,366	0.944	▲34.58	▲990
400㎡以上 500㎡未満	190.56	0.177	4,150	0.920	144.21	0.228	3,230	0.955	▲46.35	▲920
500㎡以上 1,000㎡未満	727.05	0.252	9,700	0.957	467.30	0.295	6,740	0.978	▲259.75	▲2,960
1,000㎡以上 3,000㎡未満	1,330.06	0.389	7,949	0.987	733.97	0.399	4,489	0.993	▲596.09	▲3,460
3,000㎡以上 5,000㎡未満	573.87	0.448	1,553	0.992	321.78	0.445	837	0.995	▲252.09	▲716
5,000㎡以上 10,000㎡未満	701.55	0.520	1,049	0.996	472.29	0.512	671	0.998	▲229.26	▲378
10,000㎡以上(1ha以上)	4,673.74	1.000	975	1.000	3,423.39	1.000	672	1.000	▲1,250.35	▲303
合計	9,730.50		265,639		7,020.95		298,093		▲2,709.55	32,454

注1) 令和2年の「緑被地全体のまとまり度」は、緑被種別は全て無視して隣接する緑被地を統合し、空間的に接合したまとまりのある緑被地別に集計したものである。そのため、「樹林地のまとまり度」、「芝・草地のまとまり度」、「農地のまとまり度」、「水面のまとまり度」を合計しても本表の数値とは一致しない。また、緑被種別(細種別)に集計した「令和2(2020)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編 参照)とも一致しない。



図I-28：緑被地全体のまとまり度別の変化

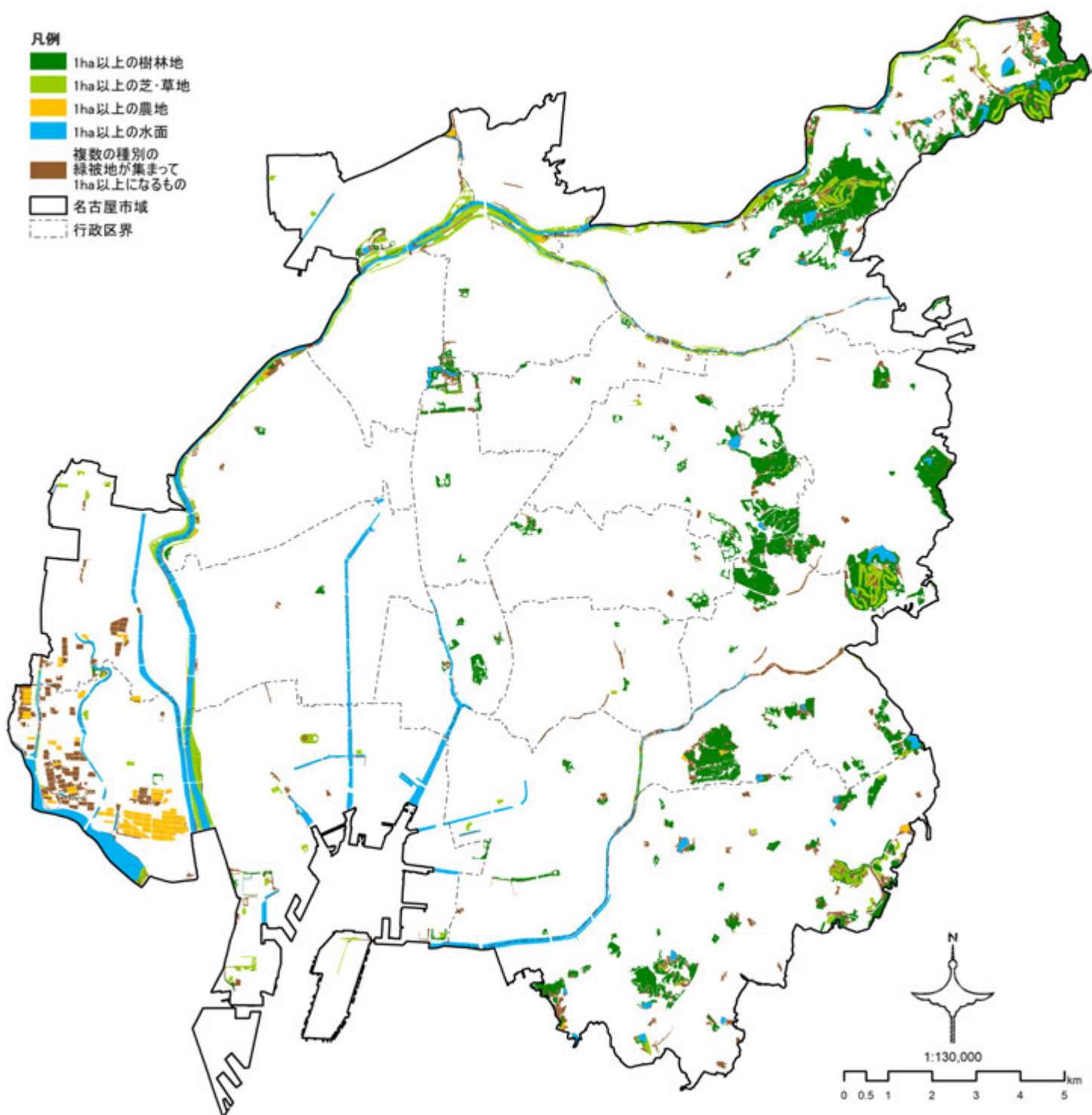


図 I-29：まとまりのある緑被地 分布図（令和2年）

注1）本図は、4種別ごとに統合しそれぞれ1ha以上となるまとまりのある緑被地と、全緑被種別を統合し1ha以上となるまとまりのある緑被地を示している。

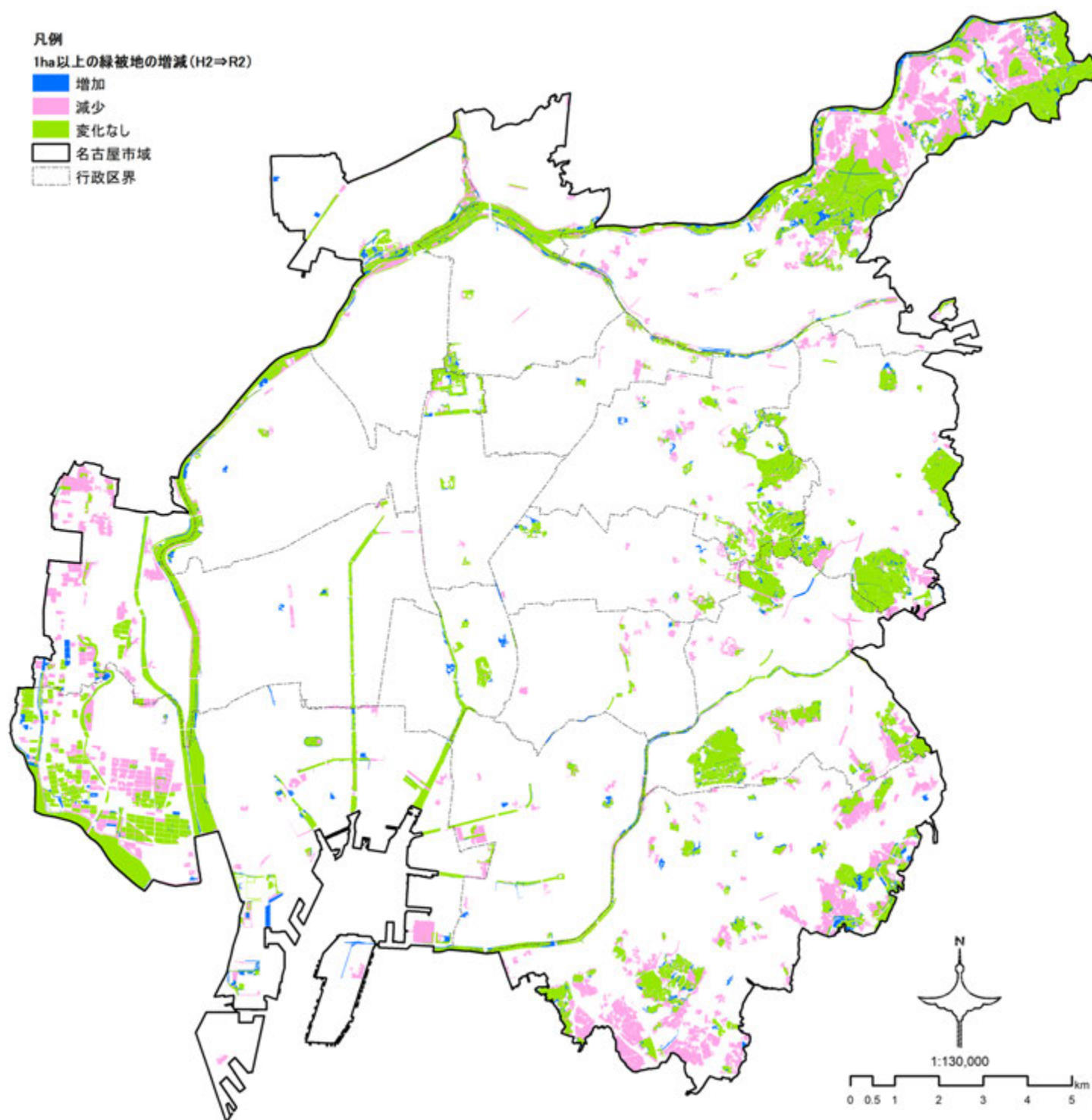


図 I-30 : まとまりのある緑被地 増減図（平成2年から令和2年の30年間の変化）

注1）本図は、全緑被種別を各年それぞれ統合し、1ha以上のまとまりのある緑被地としてその変化状況を示したものである。

3-2-2. 緑被種別のまとまり度

(1) 樹林地のまとまり度

樹林地のまとまり度を見ると、箇所数は100㎡未満のものが圧倒的に多く全体の85%を占めた。1ha以上のまとまりのある樹林地は227箇所あり、全体の中で箇所数はごく少ないが、面積は全樹林地の4割弱を占めた。(表Ⅰ-16参照)

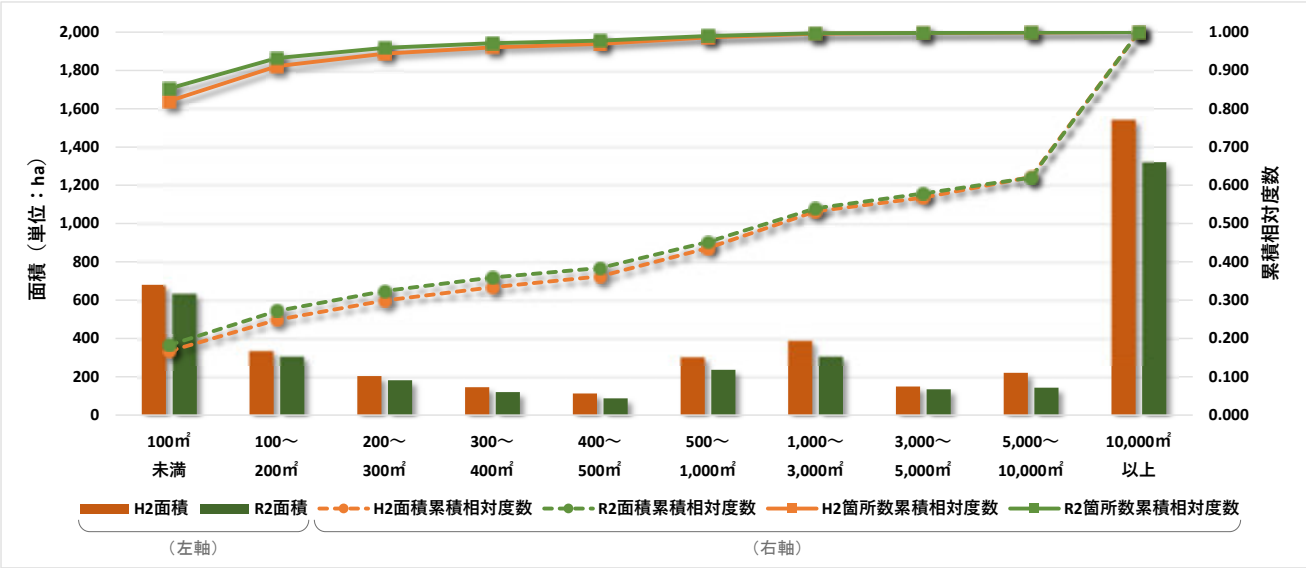
1ha以上のまとまりのある樹林地の分布を見ると、規模の大きな樹林地は主に東部地域に分布している。(図Ⅰ-32(p.41)参照)

なお、平成2(1990)年との比較を見ると、1ha以上のまとまりのある樹林地は、特に守山区や緑区等において減少している状況で、これらは宅地化等の市街地の開発により減少したものと考えられた。また一方、100㎡未満の箇所数は増加しており、これは規模の大きな樹林地の細分化や、宅地化等に伴う緑化、都心部等における街路樹の生長等によるものと考えられた。

表Ⅰ-16：樹林地のまとまり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和2(2020)年				樹林地増減(R2-H2)	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100㎡未満	680.37	0.167	211,581	0.820	637.22	0.183	239,203	0.853	▲43.15	27,622
100㎡以上 200㎡未満	336.57	0.249	23,558	0.911	308.17	0.272	22,180	0.932	▲28.40	▲1,378
200㎡以上 300㎡未満	204.06	0.299	8,331	0.944	182.33	0.324	7,515	0.959	▲21.73	▲816
300㎡以上 400㎡未満	144.93	0.334	4,193	0.960	119.50	0.359	3,458	0.971	▲25.43	▲735
400㎡以上 500㎡未満	112.44	0.362	2,346	0.969	87.54	0.384	1,962	0.978	▲24.90	▲384
500㎡以上 1,000㎡未満	303.97	0.436	4,432	0.986	236.17	0.452	3,445	0.990	▲67.80	▲987
1,000㎡以上 3,000㎡未満	389.99	0.532	2,546	0.996	308.45	0.540	1,923	0.997	▲81.54	▲623
3,000㎡以上 5,000㎡未満	148.88	0.568	417	0.998	134.83	0.579	355	0.998	▲14.05	▲62
5,000㎡以上 10,000㎡未満	221.08	0.622	319	0.999	143.34	0.620	211	0.999	▲77.74	▲108
10,000㎡以上(1ha以上)	1,542.10	1.000	282	1.000	1,320.02	1.000	227	1.000	▲222.08	▲55
合計	4,084.39		258,005		3,477.57		280,479		▲606.82	22,474

注1) 令和2年の「樹林地のまとまり度」は、樹林地の細種別(高木、低木、竹林、街路樹高木、街路樹低木)の緑被地を統合し、これらのまとまり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別(細種別)に集計した「令和2(2020)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編参照)とは異なる。



図Ⅰ-31：樹林地のまとまり度別の変化

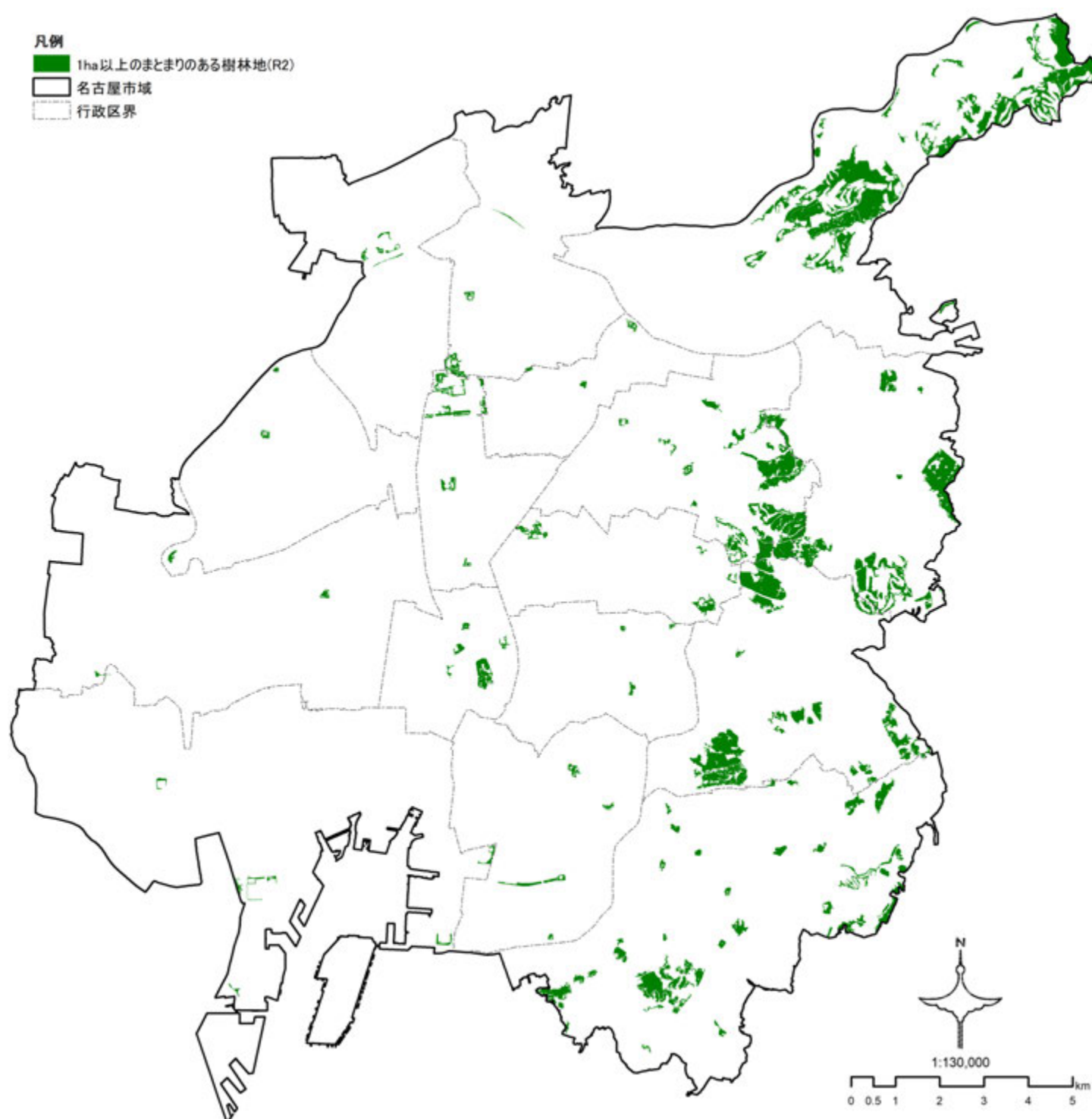


図 I-32 : まとまりのある樹林地 分布図 (令和2年)

注1) 本図は全緑被地のうち樹林地のみを抽出・統合し、1ha以上のまとまりのある樹林地としてその分布状況を示したものである。

(2) 芝・草地のまとまり度

芝・草地のまとまり度は、階級が 100 m²未満の箇所が全体の約 50%を占めた。(表 I-17 参照)

平成 2(1990)年と比較すると、令和 2(2020)年の面積・箇所数はほとんどの階級で減少しているが、1ha 以上の箇所数は 36 箇所増加(面積は 231.8ha 減少)した。これは、大面積の芝・草地が細分化されたものと考えられた。特に、1ha 以上のまとまりのある芝・草地は、庄内川、矢田川をはじめとした河川敷や、守山区、名東区、緑区のゴルフコース等に比較的まとまって存在している。(図 I-34(p.43)参照)

平成 2 年からの変化を見ると、河川敷の芝・草地は、河道の変化や植生の変化(遷移)等によりその増減が見られ、それ以外の街中にあった芝・草地は、その大小を含め、未利用地の市街化等により減少したと考えられた。

表 I-17：芝・草地のまとまり度別の変化

階級	平成 2(1990) 年				令和 2(2020) 年				芝・草地増減(R2-H2)	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100 m ² 未満	112.27	0.047	42,723	0.588	98.07	0.057	21,995	0.534	▲14.20	▲20,728
100 m ² 以上 200 m ² 未満	138.08	0.104	11,445	0.746	108.20	0.120	7,586	0.718	▲29.88	▲3,859
200 m ² 以上 300 m ² 未満	116.34	0.152	5,451	0.821	83.59	0.169	3,429	0.802	▲32.75	▲2,022
300 m ² 以上 400 m ² 未満	95.72	0.192	3,019	0.862	66.81	0.207	1,923	0.848	▲28.91	▲1,096
400 m ² 以上 500 m ² 未満	80.98	0.226	1,928	0.889	51.62	0.237	1,157	0.877	▲29.36	▲771
500 m ² 以上 1,000 m ² 未満	267.65	0.337	4,135	0.946	171.04	0.337	2,464	0.936	▲96.61	▲1,671
1,000 m ² 以上 3,000 m ² 未満	428.85	0.515	2,858	0.985	304.81	0.514	1,833	0.981	▲124.04	▲1,025
3,000 m ² 以上 5,000 m ² 未満	189.20	0.593	547	0.992	126.11	0.587	325	0.989	▲63.09	▲222
5,000 m ² 以上 10,000 m ² 未満	221.57	0.685	386	0.998	183.26	0.694	260	0.995	▲38.31	▲126
10,000 m ² 以上(1ha 以上)	758.39	1.000	163	1.000	526.59	1.000	199	1.000	▲231.80	▲36
合計	2,409.05		72,655		1,720.10		41,171		▲688.95	▲31,484

注 1) 令和 2 年の「芝・草地のまとまり度」は、芝・草地の細種別(芝地、草地)の緑被地を統合し、これらのまとまり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別(細種別)に集計した「令和 2(2020)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編 参照)とは異なる。

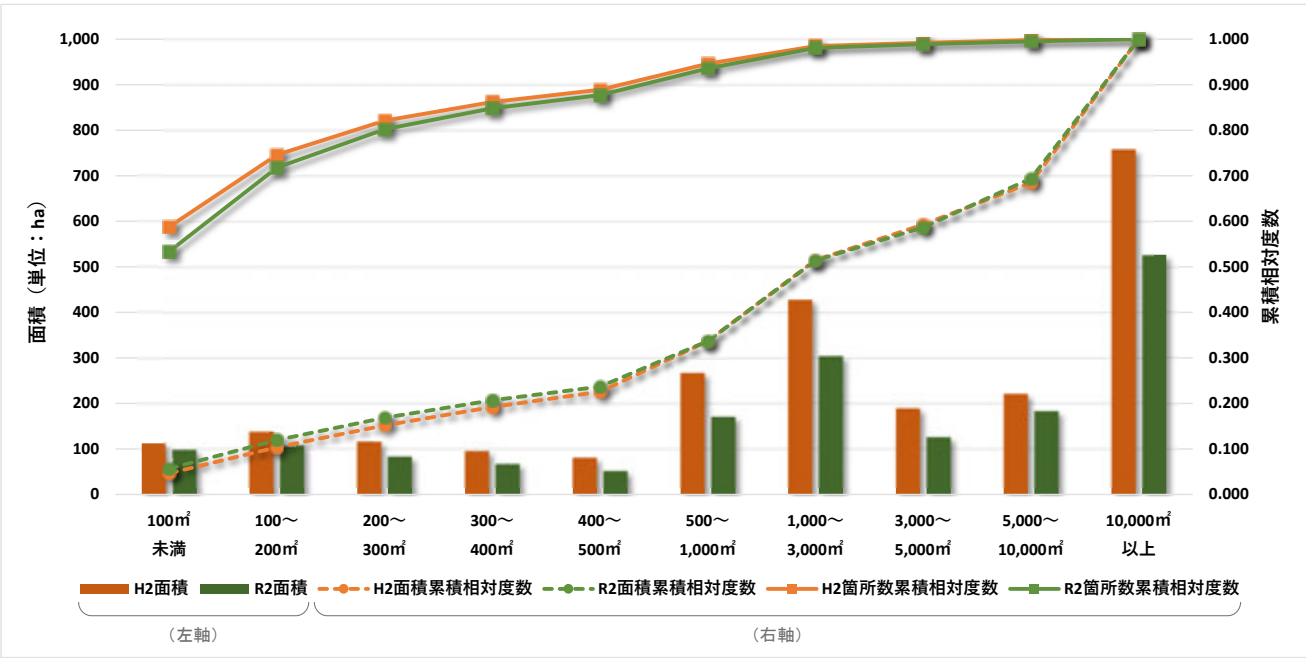


図 I-33：芝・草地のまとまり度別の変化

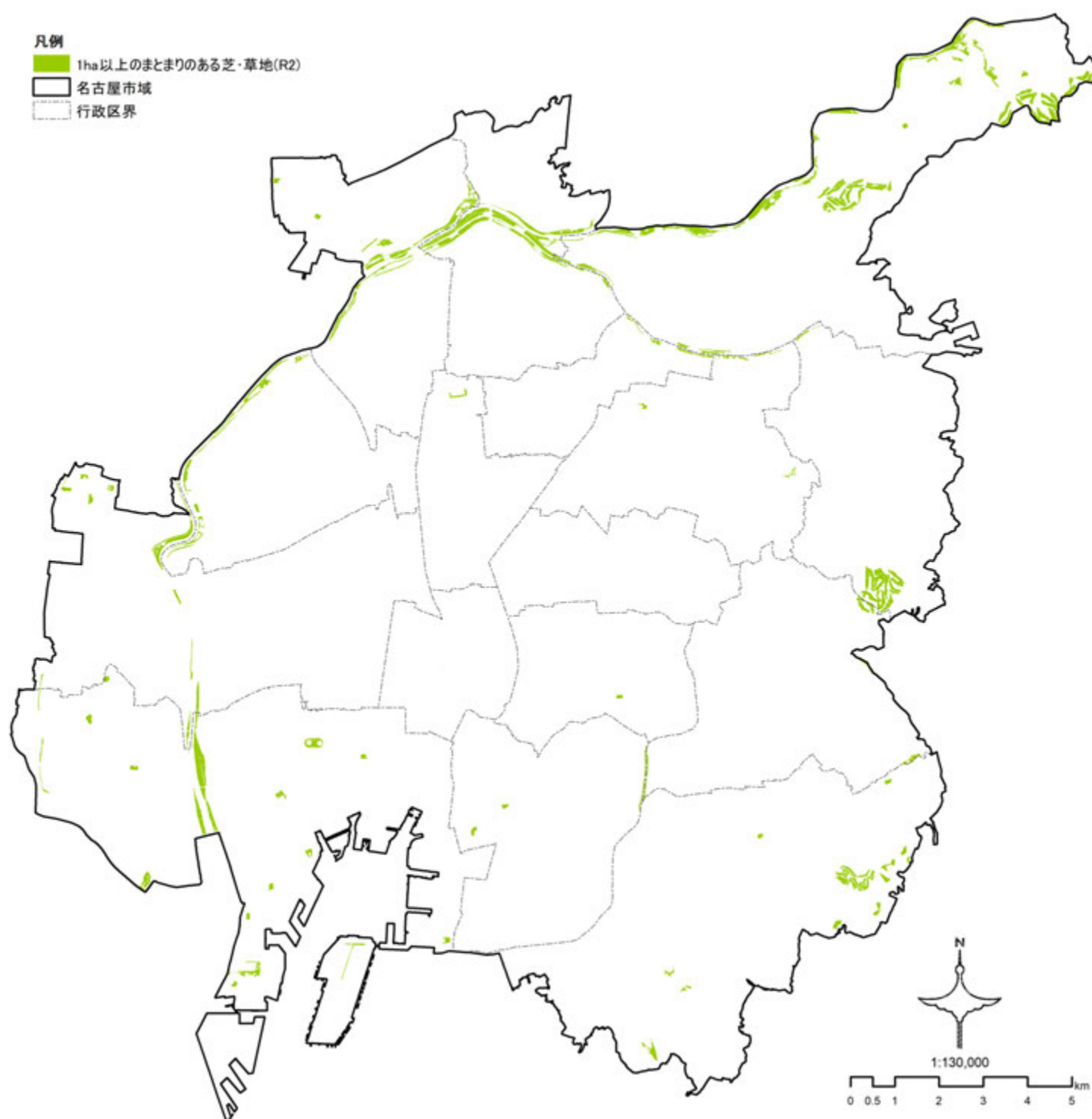


図 I-34 : まとまりのある芝・草地 分布図 (令和2年)

注1) 本図は全緑被地のうち芝・草地のみを抽出・統合し、1ha以上のまとまりのある芝・草地としてその分布状況を示したものである。

(3) 農地のまとまり度

農地のまとまり度は、樹林地や芝・草地と異なり小規模な農地の箇所数が少なく、比較的大きなまとまりを持つ農地が多い状況であった。(表 I-18 参照)

平成 2(1990)年と比較すると、令和 2(2020)年の面積・箇所数は全ての階級で大きく減少した。これは、都市農業の衰退や農地転用による宅地化等に起因すると考えられる。特に、1ha 以上のまとまりのある農地の変化を見ると、中川区、守山区、緑区の農地が大きく減少しており、これらは土地区画整理や宅地化等の市街地の開発により減少したと考えられた。なお、港区のまとまりのある農地は、多少増減があるものの、他区と比較すれば残存している状況であった。

表 I-18：農地のまとまり度別の変化

階級	平成 2(1990) 年				令和 2(2020) 年				農地増減(R2-H2)	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100 ㎡未満	19.57	0.009	3,234	0.142	10.52	0.012	1,670	0.164	▲9.05	▲1,564
100 ㎡以上 200 ㎡未満	61.36	0.036	4,132	0.324	33.19	0.051	2,242	0.384	▲28.17	▲1,890
200 ㎡以上 300 ㎡未満	73.59	0.069	2,980	0.455	35.76	0.093	1,450	0.527	▲37.83	▲1,530
300 ㎡以上 400 ㎡未満	72.68	0.102	2,101	0.547	31.56	0.130	913	0.616	▲41.12	▲1,188
400 ㎡以上 500 ㎡未満	70.93	0.134	1,588	0.617	29.93	0.166	668	0.682	▲41.00	▲920
500 ㎡以上 1,000 ㎡未満	272.92	0.256	3,843	0.786	108.69	0.293	1,545	0.833	▲164.23	▲2,298
1,000 ㎡以上 3,000 ㎡未満	567.16	0.510	3,369	0.934	178.38	0.503	1,081	0.940	▲388.78	▲2,288
3,000 ㎡以上 5,000 ㎡未満	260.87	0.627	689	0.964	98.85	0.619	257	0.965	▲162.02	▲432
5,000 ㎡以上 10,000 ㎡未満	411.97	0.811	589	0.990	190.59	0.842	273	0.992	▲221.38	▲316
10,000 ㎡以上 (1ha 以上)	420.94	1.000	220	1.000	134.20	1.000	85	1.000	▲286.74	▲135
合計	2,232.00		22,745		851.67		10,184		▲1,380.33	▲12,561

注 1) 令和 2 年の「農地のまとまり度」は、農地の細種別（水田、畑、果樹園、その他農地）の緑被地を統合し、これらのまとまり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別（細種別）に集計した「令和 2(2020)年度緑被調査『緑被種別まとまり度（面積及び箇所数）』」（参考資料編 参照）とは異なる。

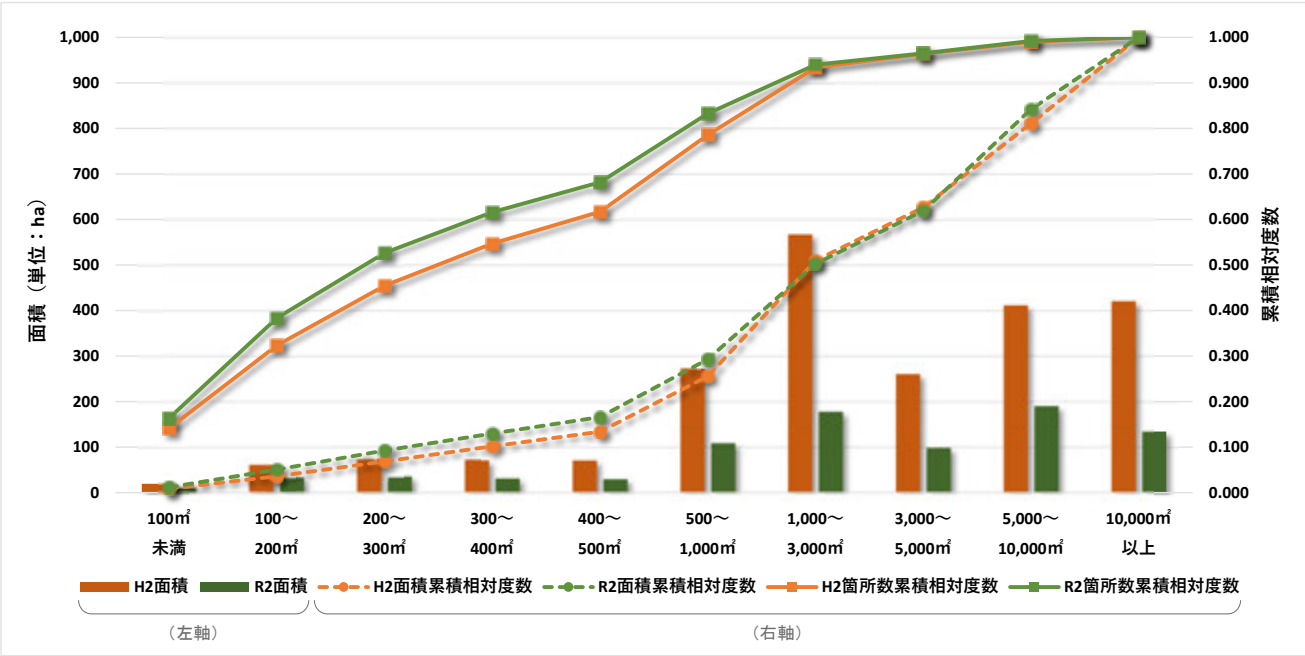


図 I-35：農地のまとまり度別の変化

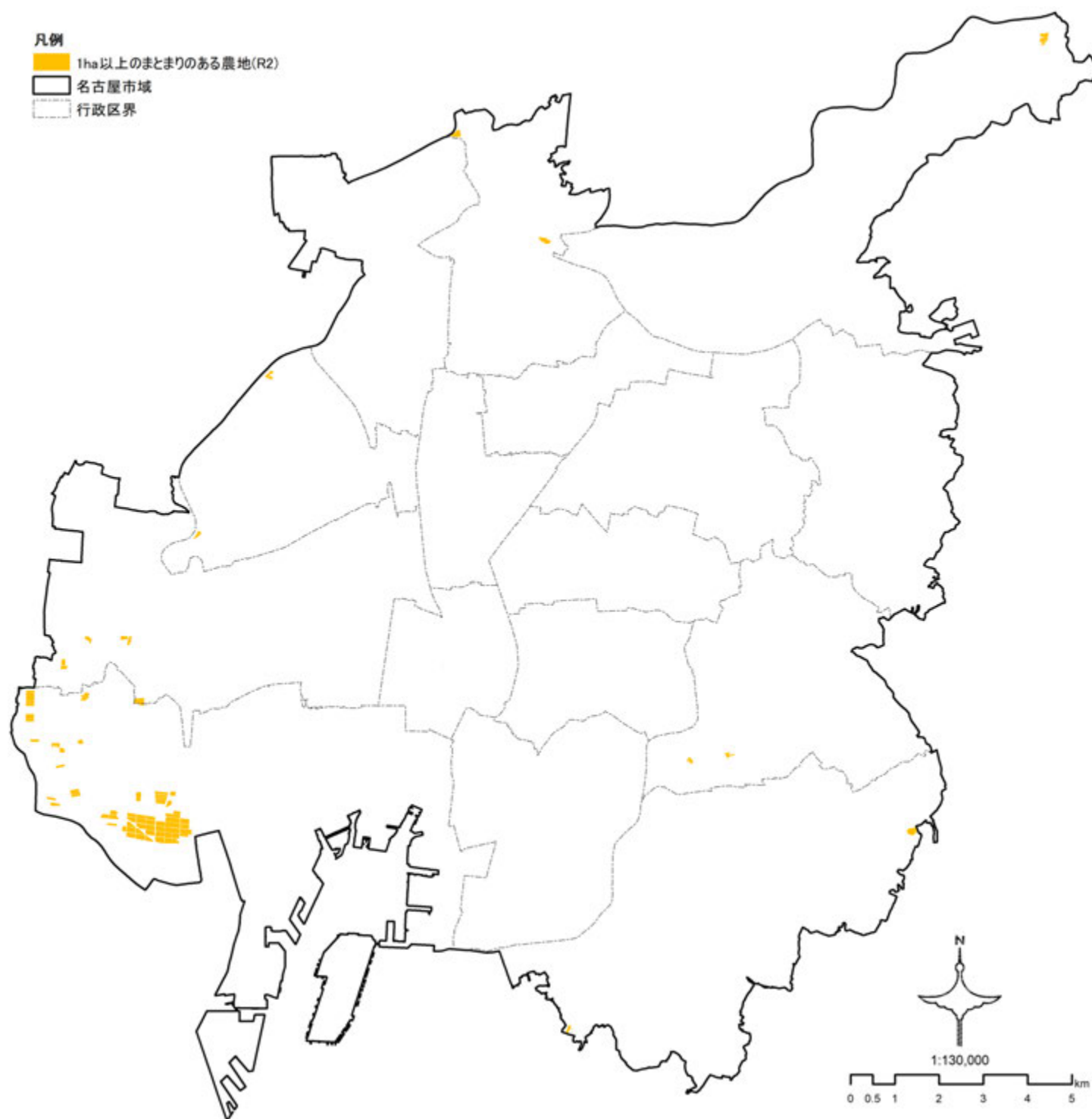


図 I-36 : まとまりのある農地 分布図（令和2年）

注1）本図は全緑被地のうち農地のみを抽出・統合し、1ha以上のまとまりのある農地としてその分布状況を示したものである。

(4) 水面のまとまり度

水面については1ha以上のまとまりのあるものが全体面積の約8割を占めた。(表 I-19 参照)
これは、河川による連続した水面や東部地域のため池等が大部分を占めているためと考えられた。

1ha以上のまとまりのある水面について、平成2(1990)年からの変化を見ると、ほかの緑被種別ほど減少している箇所は少ないものの、庄内川、矢田川、天白川などで河道の変化によりその増減が見られた。なお、港区8号地や山崎川河口部(南区)のまとまりのある水面の減少は貯木場の埋立てによるものと考えられた。

表 I-19：水面のまとまり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和2(2020)年				水面増減(R2-H2)	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100㎡未満	4.84	0.005	1,159	0.334	4.62	0.005	1,135	0.371	▲0.22	▲24
100㎡以上 200㎡未満	7.24	0.012	517	0.483	6.67	0.012	466	0.524	▲0.57	▲51
200㎡以上 300㎡未満	8.31	0.020	345	0.582	6.86	0.019	275	0.614	▲1.45	▲70
300㎡以上 400㎡未満	7.91	0.028	235	0.650	6.17	0.025	178	0.672	▲1.74	▲57
400㎡以上 500㎡未満	7.48	0.036	169	0.699	5.32	0.030	119	0.711	▲2.16	▲50
500㎡以上 1,000㎡未満	25.40	0.061	374	0.807	19.37	0.050	274	0.801	▲6.03	▲100
1,000㎡以上 3,000㎡未満	49.32	0.110	301	0.893	42.47	0.094	261	0.886	▲6.85	▲40
3,000㎡以上 5,000㎡未満	38.28	0.148	99	0.922	33.00	0.128	87	0.915	▲5.28	▲12
5,000㎡以上 10,000㎡未満	75.62	0.223	105	0.952	66.82	0.197	94	0.945	▲8.80	▲11
10,000㎡以上(1ha以上)	780.64	1.000	166	1.000	780.58	1.000	167	1.000	▲0.06	1
合計	1,005.04		3,470		971.88		3,056		▲33.16	▲414

注1) 令和2年の「水面のまとまり度」は、水面の細種別(河川、ため池)の緑被地を統合し、これらのまとまり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別(細種別)に集計した「令和2(2020)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編 参照)とは異なる。

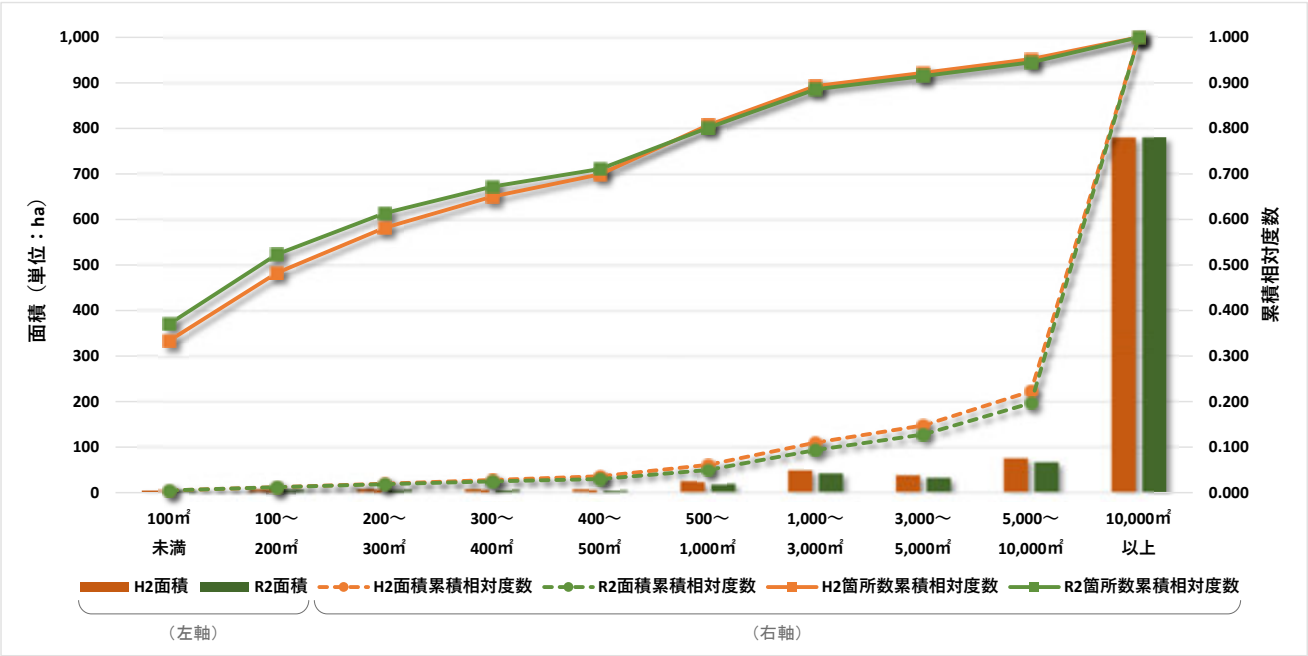


図 I-37：水面のまとまり度別の変化

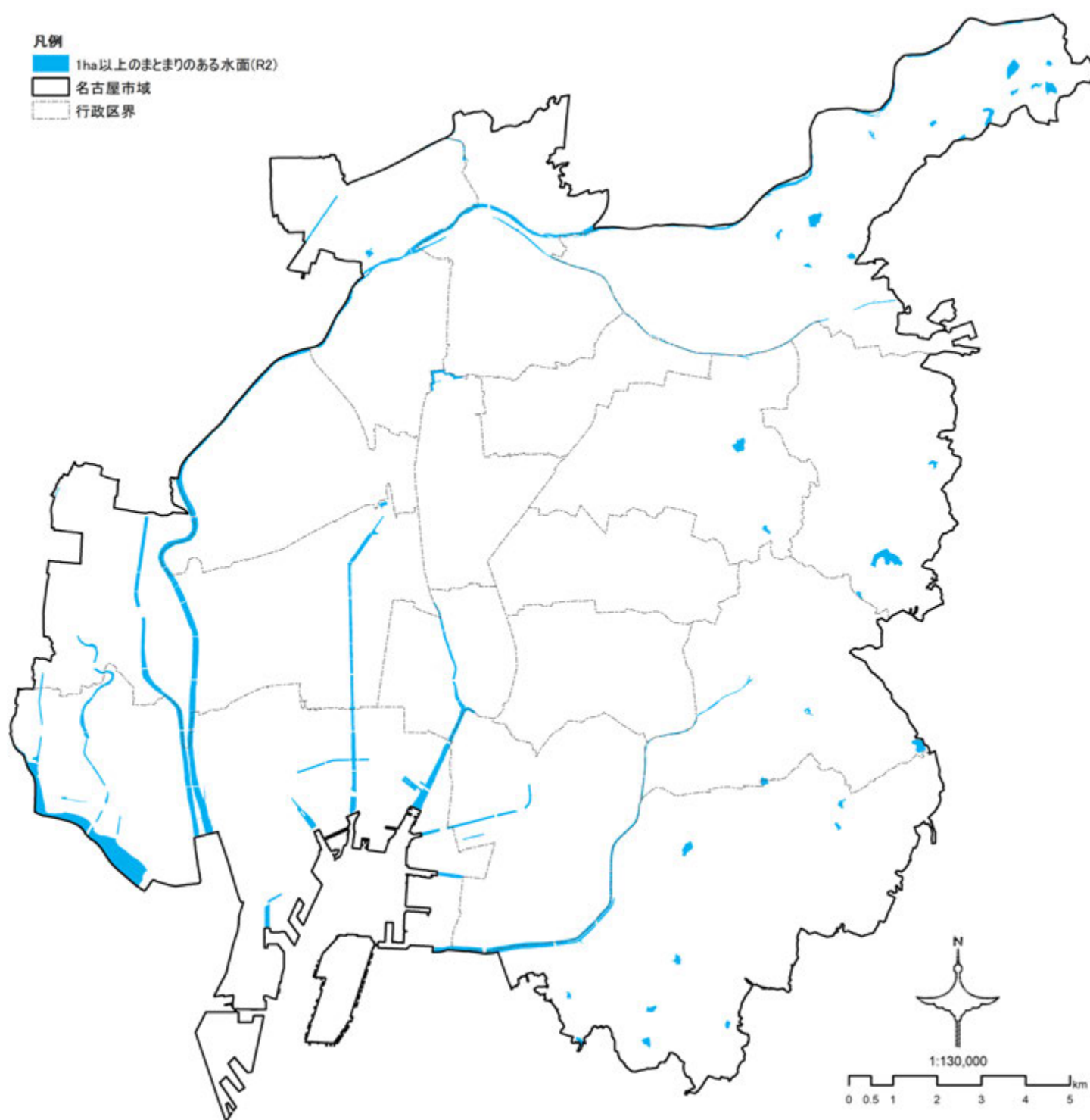


図 I-38 : まとまりのある水面 分布図 (令和2年)

注1) 本図は全緑被地のうち水面のみを抽出・統合し、1ha以上のまとまりのある水面としてその分布状況を示したものである。

3-3 土地利用と緑被率

本節においては、市域を公有地と民有地に区分して土地利用の変化を把握し、それを踏まえ、土地利用別の緑被率の推移を把握して、土地利用と緑被率との関係を概観した。

3-3-1 土地利用別の緑被率

(1) 土地利用の変化

土地利用計量調査の結果から、平成2(1990)年から令和2(2020)年の30年間の土地利用の変化は表I-20及び図I-39のとおりであった。

土地所有区分¹⁾による公有地では、都市公園、道路、その他の公共施設は増加しており、その他のオープンスペース、河川は減少した。これらは主として、土地区画整理事業等に伴う都市インフラの整備や、水面の埋立て、西部地域における水路の減少等によるものと考えられた。

一方、民有地では、未利用地の減少が特に顕著であるとともに、住宅系の増加も著しく、これらも土地区画整理事業等による農地や山林、空地の宅地化によるものと考えられた。

表 I-20：土地利用の変化

土地所有区分	土地利用区分		平成 2 (1990) 年		令和 2 (2020) 年		土地利用増減 (R2-H2)	
			面積 (ha)	構成比率 (%)	面積 (ha)	構成比率 (%)	面積 (ha)	構成比率 (%)
公有地	公園	都市公園	1,134.79	3.5	1,548.26	4.7	413.47	1.2
	緑地等	その他のオープンスペース	696.69	2.1	363.72	1.1	▲332.97	▲1.0
	道路		5,721.20	17.5	6,418.66	19.7	697.46	2.2
	河川等		1,901.56	5.8	1,607.36	4.9	▲294.20	▲0.9
	その他の公共施設		2,182.76	6.7	2,537.88	7.8	355.12	1.1
	小計		11,637.00	35.7	12,475.88	38.2	838.88	2.5
民有地	住居系		7,741.73	23.7	10,111.38	31.0	2,369.65	7.3
	商業系		1,488.30	4.6	2,369.74	7.3	881.44	2.7
	工業系		3,188.18	9.8	2,708.64	8.3	▲479.54	▲1.5
	未利用地		8,581.77	26.3	4,984.36	15.3	▲3,597.41	▲11.0
	小計		20,999.98	64.3	20,174.12	61.8	▲825.86	▲2.5
合計			32,636.98	100.0	32,650.00	100.0	13.02	0.0

注1) H2の数値は、「平成2(1990)年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」を基に当時の定義に合わせて再集計したものであり、「平成2(1990)年度緑被調査『公有・民有地別緑被地面積及び緑被率』」の数値とは異なる。
注2) 「構成比率」は、面積の合計値に対する各項目の面積の比率を示す。

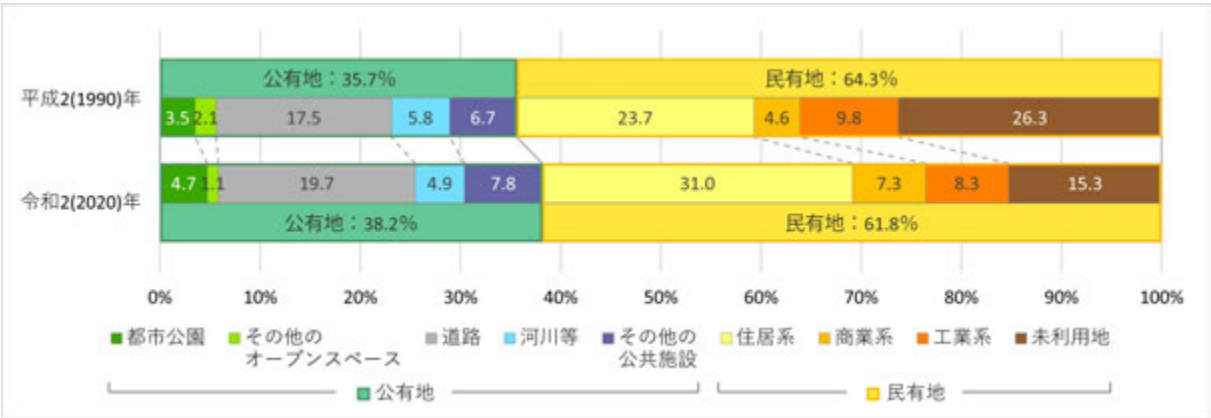


図 I-39：土地利用(構成比率)の変化

¹ 本調査で用いる土地所有区分「公有地」、「民有地」は土地利用区分に応じた便宜的な区分名称であり、実際の土地の所有状況や管理形態等に基づくものでないため、一般的な「公有地」、「民有地」とは異なるが、指標の連続性を考慮して過年度調査の表記に準じたものである。

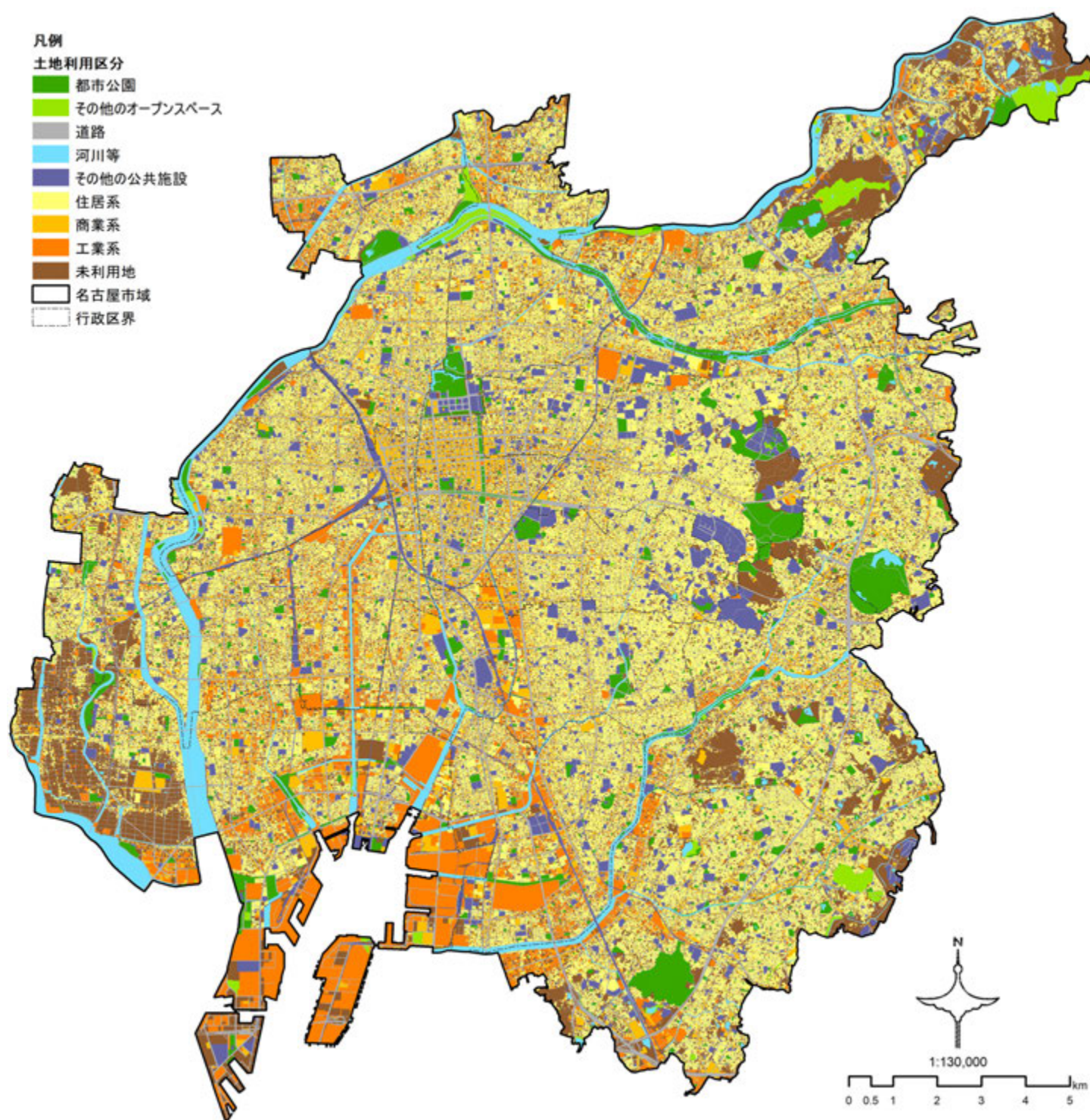


図 I-40：土地利用現況図（平成 29 年）

注 1）本図は、H29 土地利用計量調査ファイルを基に、本調査の土地利用区分で表示したものである。

(2) 土地利用別の緑被率の変化

① 土地利用別緑被率の変化

土地利用別の緑被地面積及び緑被率の変化は表 I-21 のとおりであった。

公有地においては、都市公園が緑被地面積及び緑被率ともに増加しており、緑化の進展が考えられた一方、道路は、緑被地面積は増加しているものの、緑被率は微減しており、これは土地利用面積が 1.12 倍に増加した（道路整備が進んだ）影響と考えられた。

一方、民有地では、商業系は大規模商業施設の緑化等により、緑被率が増加したが、その他の土地利用では緑被率が低下した。特に、未利用地については、農地、山林等の面的な整備による影響が大きいと考えられ、住居系については、緑被率が減少しているだけでなく、土地利用面積が増加しているにもかかわらず、緑被地面積が減少しており、緑化に向けてより一層の施策の推進が必要と考えられた。

表 I-21：土地利用別緑被地面積及び緑被率の変化

土地 所有 区分	土地利用区分	平成 2 (1990) 年			令和 2 (2020) 年			土地利用・緑被地 増減 (R2-H2)		
		土地利用 面積 (ha)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	土地利用 面積 (ha)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	土地利用 面積 (ha)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
公有地	都市公園	1,134.79	694.20	61.2	1,548.26	993.03	64.1	413.47	298.83	2.9
	公園 緑地等 その他の オープンスペース	696.69	460.17	66.1	363.72	276.15	75.9	▲332.97	▲184.02	9.8
	道路	5,721.20	356.05	6.2	6,418.66	371.19	5.8	697.46	15.14	▲0.4
	河川等	1,901.56	1,500.15	78.9	1,607.36	1,382.68	86.0	▲294.20	▲117.47	7.1
	その他の公共施設	2,182.76	459.16	21.0	2,537.88	450.04	17.7	355.12	▲9.12	▲3.3
	小計	11,637.00	3,469.73	29.8	12,475.88	3,473.09	27.8	838.88	3.36	▲2.0
民有地	住居系	7,741.73	1,208.41	15.6	10,111.38	1,057.89	10.5	2,369.65	▲150.52	▲5.1
	商業系	1,488.30	52.24	3.5	2,369.74	114.07	4.8	881.44	61.83	1.3
	工業系	3,188.18	235.57	7.4	2,708.64	172.77	6.4	▲479.54	▲62.80	▲1.0
	未利用地	8,581.77	4,764.53	55.5	4,984.36	2,203.58	44.2	▲3,597.41	▲2,560.95	▲11.3
	小計	20,999.98	6,260.75	29.8	20,174.12	3,548.31	17.6	▲825.86	▲2,712.44	▲12.2
合計		32,636.98	9,730.48	29.8	32,650.00	7,021.40	21.5	13.02	▲2,709.08	▲8.3

注 1) H2 の数値は、「平成 2 (1990) 年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」を基に当時の定義に合わせて再集計したものであり、「平成 2 (1990) 年度緑被調査『公有・民有地別緑被地面積及び緑被率』」の数値とは異なる。また、R2 の数値は、「令和 2 (2020) 年度緑被調査『公有・民有地別緑被地面積及び緑被率』」に基づく。(参考資料編 参照)

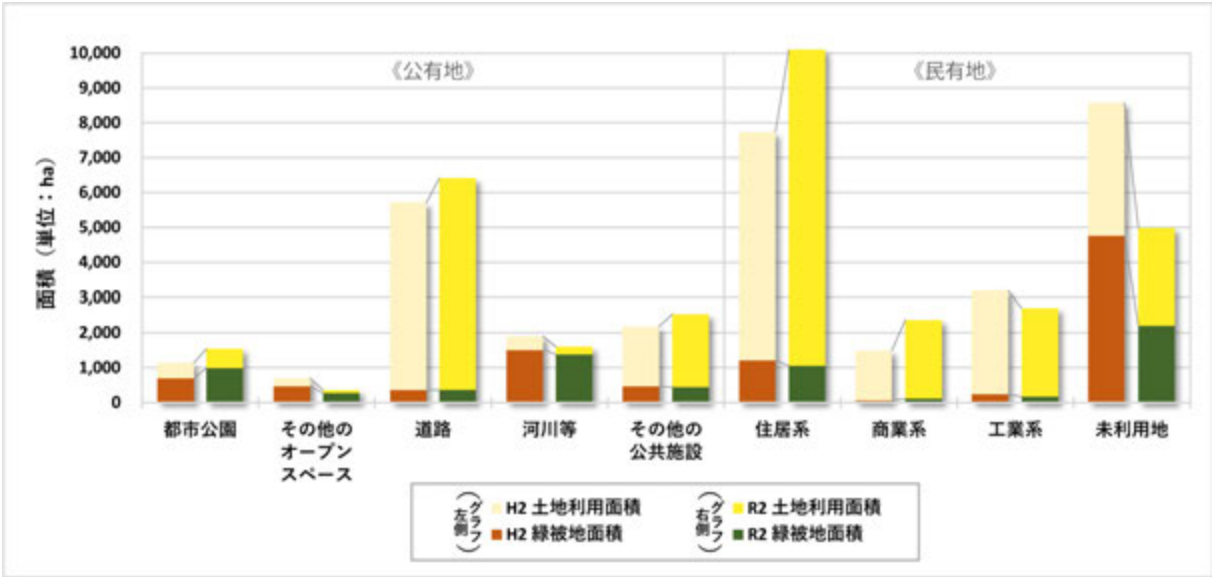


図 I-41：土地利用及び緑被地面積の変化

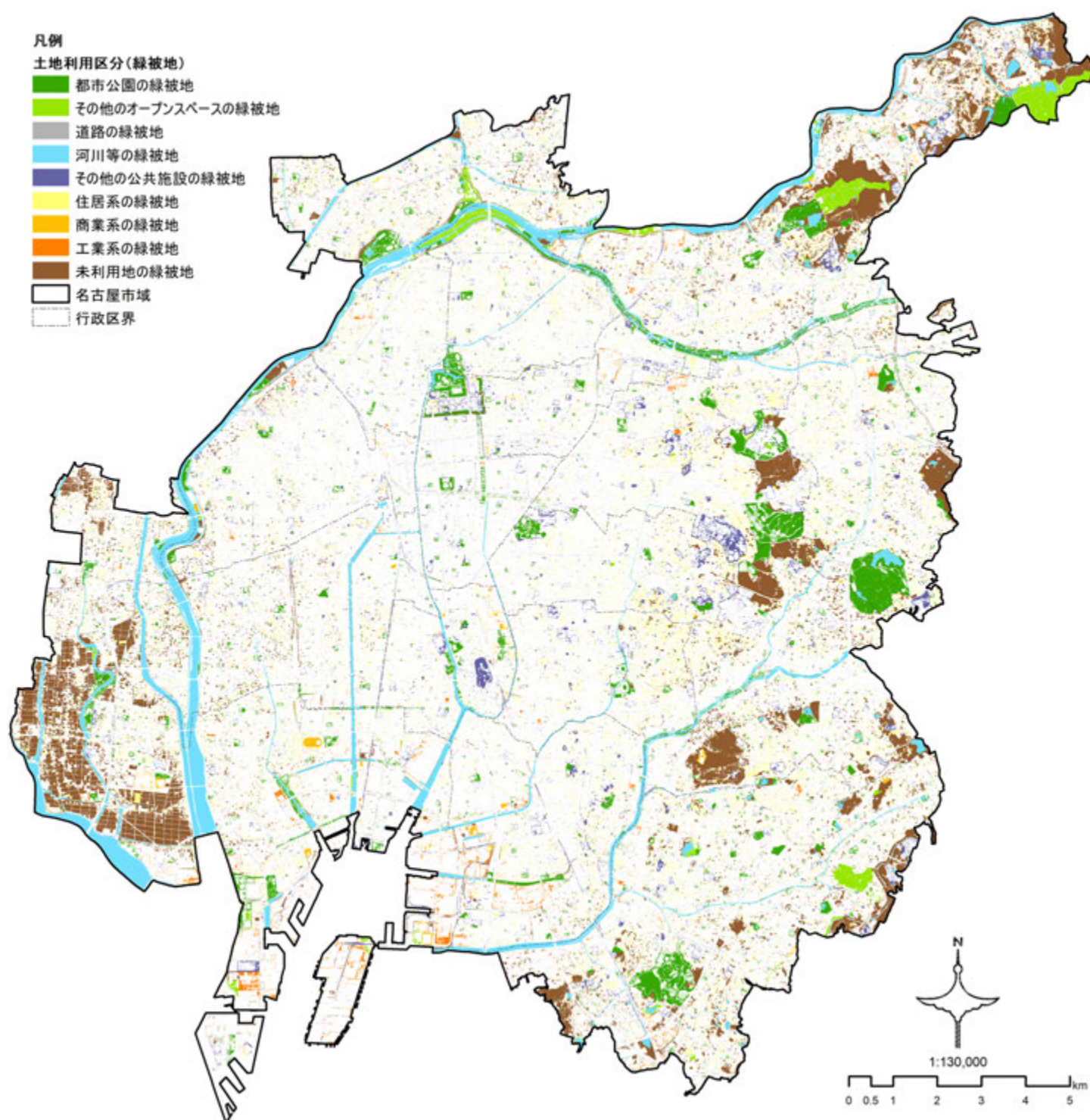


図 I-42 : 土地利用区分別緑被地図 (令和2年)

注1) 本図は、令和2年の緑被地データベースを基に土地利用区分別に彩色したものである。

② 道路の緑被率

道路については前述のとおり、土地利用面積が 1.12 倍に増加していることから、道路整備の進展が示唆され、緑被率が 0.4 ポイント微減している状況であった。この状況の詳細を確認するため、道路の緑被地について細種別に变化状況を整理した。(表 I-22 参照)

その結果、街路樹高木は 46.53ha 増 (0.6 ポイント増)、街路樹低木は 17.17ha 増 (0.2 ポイント増) と、道路緑化の進展が考えられた。その一方、高木は 29.38ha 減 (0.7 ポイント減) となっており、高木は主に道路に面した民有地側の樹木の張り出しが影響していると考えられ、民有地における緑被の減少に準じて減少したものと考えられた。

なお、樹林地以外の緑被種別のうち、草地の減少 (14.38ha 減、0.3 ポイント減)、畑の減少 (8.01ha 減、0.1 ポイント減)、芝地の増加 (5.04ha 増、0.1 ポイント増) が全体面積に対して比較的影響を及ぼしていたが、これらについて分布状況を確認したところ、草地及び芝地は河川沿いの道路 (堤防道路) 際の緑被地が、畑は農地際の緑被地が主に抽出されており、オーバレイ解析に伴う誤差によるものと考えられた。

表 I-22 : 道路の緑被地面積及び緑被率の変化

緑被種別		平成 2 (1990) 年		令和 2 (2020) 年		緑被地増減 (R2-H2)	
4 種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイント)
樹林地	高木	127.65	2.2	98.27	1.5	▲29.38	▲0.7
	低木	32.13	0.6	33.35	0.5	1.22	▲0.1
	竹林	1.81	0.0	1.35	0.0	▲0.46	0.0
	街路樹高木	73.20	1.3	119.73	1.9	46.53	0.6
	街路樹低木	26.97	0.5	44.14	0.7	17.17	0.2
	小計	261.75	4.6	296.84	4.6	35.09	0.0
芝・草地	芝地	8.38	0.1	13.42	0.2	5.04	0.1
	草地	56.31	1.0	41.93	0.7	▲14.38	▲0.3
	小計	64.69	1.1	55.35	0.9	▲9.34	▲0.2
農地	水田	7.42	0.1	6.36	0.1	▲1.06	0.0
	畑	13.16	0.2	5.15	0.1	▲8.01	▲0.1
	果樹園	1.66	0.0	0.63	0.0	▲1.03	0.0
	その他農地	0.95	0.0	0.25	0.0	▲0.70	0.0
	小計	23.18	0.4	12.39	0.2	▲10.79	▲0.2
水面	河川	6.21	0.1	6.48	0.1	0.27	0.0
	ため池	0.22	0.0	0.13	0.0	▲0.09	0.0
	小計	6.43	0.1	6.61	0.1	0.18	0.0
合計		356.05	6.2	371.19	5.8	15.14	▲0.4

注 1) 本表掲載の数値は、「平成 2 (1990) 年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」及び「令和 2 (2020) 年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」の「道路」に基づく。(参考資料編 参照)

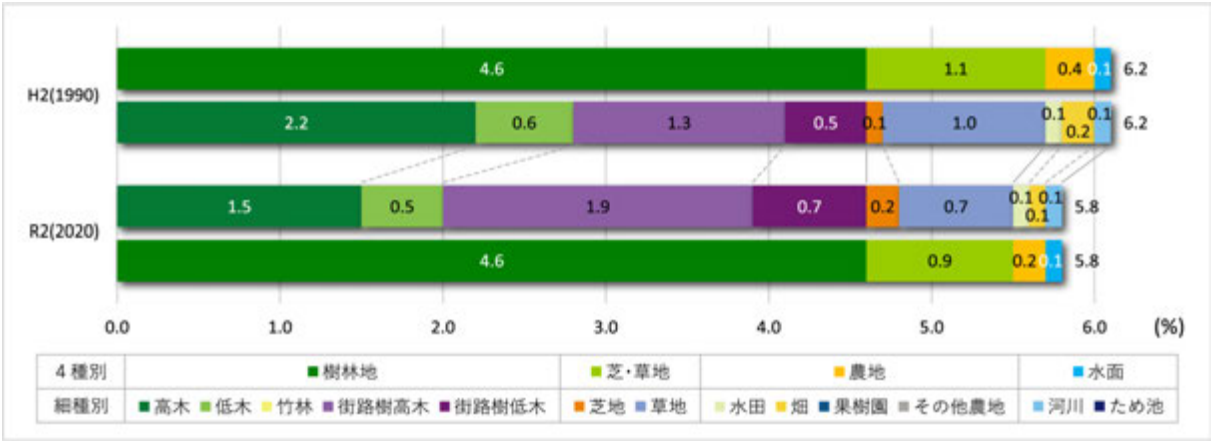


図 I-43 : 道路の緑被率の変化

3-3-2. 用途地域別の緑被率

用途地域¹別の緑被地面積、緑被率は表 I-23、図 I-44 に示すとおりであり、市街化区域の緑被率は 17.7%、市街化調整区域の緑被率は 73.3%であった。

市街化区域と市街化調整区域を比較すると、全種別で市街化調整区域の緑被率が高い状況であったが、その内訳を見ると、芝・草地、農地、水面では市街化調整区域の緑被率が 18 ポイント前後の差を付けて圧倒的に大きくなっている一方で、樹林地については 1.2 ポイント程度の差で、それほどの開きはなかった。

また、用途地域別では、住居系用途地域での緑被率が比較的高く、商業系用途地域での緑被率が低い状況であり、特に、大規模な公園緑地を含む第二種住居地域（緑被率：34.1%）や、東部地域等の丘陵地や庄内川以西にのみ指定されている第一種低層住居専用地域（同：27.9%）の緑被率が高い状況であり、都心域や市街地において指定されている商業地域（同：6.6%）や近隣商業地域（同：6.8%）は緑被率が低い状況であった。

表 I-23：用途地域別の緑被地面積及び緑被率

用途地域	略称	補正面積 (ha)	樹林地		芝・草地		農地		水面		合計	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
第一種低層住居専用地域	1 低専	4,995.45	909.42	18.2	302.04	6.0	130.85	2.6	53.49	1.1	1,395.80	27.9
第二種低層住居専用地域	2 低専	97.95	5.30	5.4	3.10	3.2	1.89	1.9	0.15	0.2	10.44	10.7
第一種中高層住居専用地域	1 中高	1,012.15	116.45	11.5	44.50	4.4	16.76	1.7	5.79	0.6	183.50	18.1
第二種中高層住居専用地域	2 中高	1,959.00	162.56	8.3	58.36	3.0	41.29	2.1	5.79	0.3	268.00	13.7
第一種住居地域	1 住居	7,215.65	686.89	9.5	272.92	3.8	116.26	1.6	111.90	1.6	1,187.97	16.5
第二種住居地域	2 住居	3,134.40	747.37	23.8	223.60	7.1	27.41	0.9	70.27	2.2	1,068.65	34.1
準住居地域	準住居	326.50	21.72	6.7	8.68	2.7	4.65	1.4	0.98	0.3	36.03	11.0
近隣商業地域	近商	2,579.35	119.54	4.6	28.45	1.1	5.73	0.2	20.72	0.8	174.44	6.8
商業地域	商業	2,285.50	115.69	5.1	24.28	1.1	0.26	0.0	11.61	0.5	151.84	6.6
準工業地域	準工	3,558.85	172.28	4.8	131.76	3.7	39.68	1.1	86.78	2.4	430.50	12.1
工業地域	工業	2,579.35	119.55	4.6	101.05	3.9	11.36	0.4	136.25	5.3	368.21	14.3
工業専用地域	工専	653.00	34.26	5.2	35.70	5.5	0.16	0.0	24.31	3.7	94.43	14.5
市街化区域	市街	30,397.15	3,211.03	10.6	1,234.44	4.1	396.30	1.3	528.04	1.7	5,369.81	17.7
市街化調整区域	市調	2,252.85	266.69	11.8	485.68	21.6	455.37	20.2	443.82	19.7	1,651.56	73.3
名古屋市域	市域	32,650.00	3,477.72	10.7	1,720.12	5.3	851.67	2.6	971.86	3.0	7,021.37	21.5

注1）本表掲載の数値は、「令和2(2020)年度緑被調査『用途地域別緑被地面積及び緑被率』」に基づく。（参考資料編 参照）

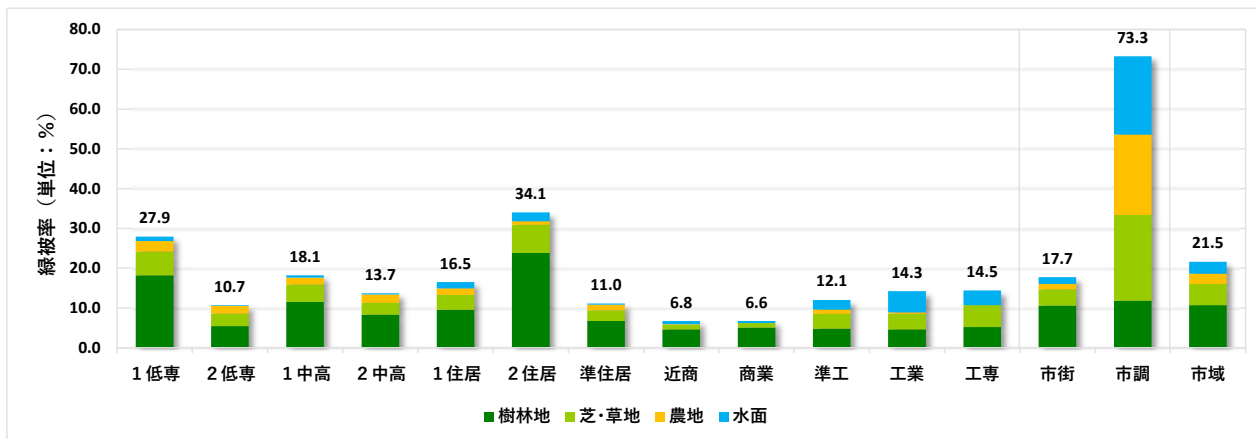


図 I-44：用途地域別の緑被率

¹ 用途地域 解説(出典:国交省HP「土地の使い方と建物の建て方のルールの話」(https://www.mlit.go.jp/crd/city/plan/03_mati/04/))

- ・第一種低層住居専用地域：低層住宅のための地域。小規模な店舗や事務所を兼ねた住宅や、小中学校などが建てられる。
- ・第二種低層住居専用地域：主に低層住宅のための地域。小中学校などのほか、150㎡までの一定の店舗などが建てられる。
- ・第一種中高層住居専用地域：中高層住宅のための地域。病院、大学、500㎡までの一定の店舗などが建てられる。
- ・第二種中高層住居専用地域：主に中高層住宅のための地域。病院、大学などのほか、1,500㎡までの一定の店舗や事務所などが建てられる。
- ・第一種住居地域：住居の環境を守るための地域。3,000㎡までの店舗、事務所、ホテルなどは建てられる。
- ・第二種住居地域：主に住居の環境を守るための地域。店舗、事務所、ホテル、カラオケボックスなどは建てられる。
- ・準住居地域：道路の沿道において、自動車関連施設などの立地と、これと調和した住居の環境を保護するための地域。
- ・近隣商業地域：周辺の住民が日用品の買物などをするための地域。住宅や店舗のほか小規模の工場も建てられる。
- ・商業地域：銀行、映画館、飲食店、百貨店などが集まる地域。住宅や小規模の工場も建てられる。
- ・準工業地域：主に軽工業の工場やサービス施設等が立地する地域。危険性、環境悪化が大きい工場のほかは、ほとんど建てられる。
- ・工業地域：どんな工場でも建てられる地域。住宅や店舗は建てられるが、学校、病院、ホテルなどは建てられない。
- ・工業専用地域：工場のための地域。どんな工場でも建てられるが、住宅、店舗、学校、病院、ホテルなどは建てられない。

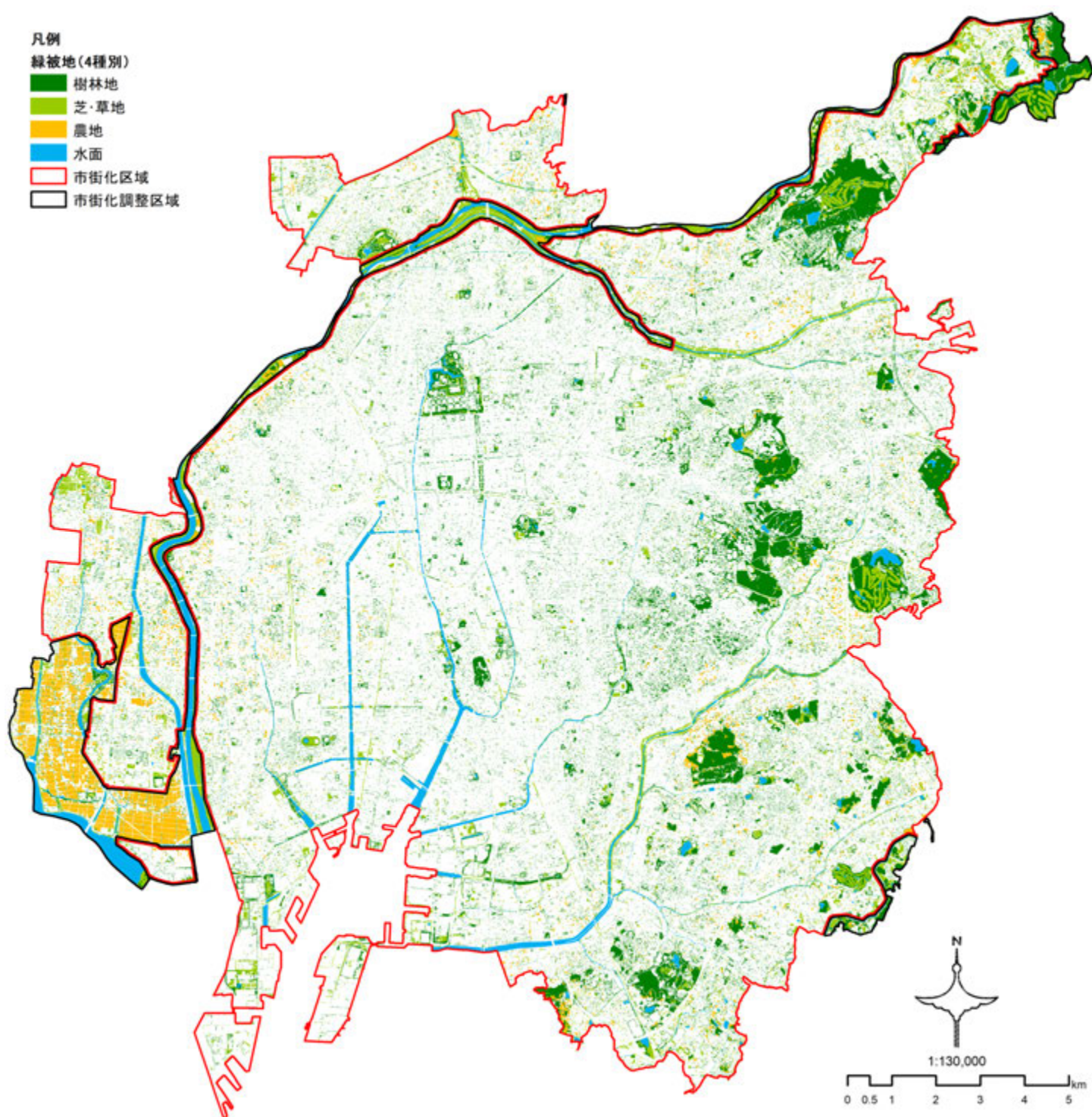


図 I -45 : 現況緑被地図【4 種別】+市街化区域・市街化調整区域 重ね図

3-3-3. 緑化地域指定状況と用途地域別の宅地内緑被率

緑化地域における緑化率の最低限度の指定状況と、宅地における緑被率との関係を把握するため、土地利用区分による「住居系」、「商業系」、「工業系」を宅地と定義し、これらの土地利用と用途地域、そして緑被地データベースをオーバーレイ解析することにより、宅地内緑被率を算定した。

その結果、表 I-24、図 I-46 に示すように低建蔽率の区域では、緑化率の最低限度以上となる緑被率の区域も見られたが、全体的には緑化率の最低限度を下回る結果となっており、今後とも緑化の推進が必要と考えられた。

また、平成 22(2010)年との比較を見ると、全体的に緑被率は減少しているが、特に、第一種低層住居専用地域（建蔽率：30%）では、7.1 ポイント減と特に減少幅が大きい状況であった。

なお、緑化率の最低限度と実際の緑被率の差が 5 ポイント以上で区域面積が 500ha 以上の区域を列举すると、第一種低層住居専用地域（同：40%、50%）、第一種住居地域、第二種住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域が挙げられ、これらの地域での緑化推進が特に必要と考えられた。

表 I-24：用途地域別の宅地内緑被率

用途地域	略称	建蔽率の最高限度(%)	緑化率の最低限度(%)	平成 22(2010) 年			令和 2(2020) 年			宅地内増減(R2-H22)		
				区域面積(ha)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	区域面積(ha)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	区域面積(ha)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
第一種低層住居専用地域	1 低専	30	20	495.42	153.04	30.9	460.37	109.50	23.8	▲35.05	▲43.54	▲7.1
		40	20	994.47	155.10	15.6	1,142.75	147.28	12.9	148.28	▲7.82	▲2.7
		50	20	775.05	106.56	13.7	855.43	92.23	10.8	80.38	▲14.33	▲2.9
第二種低層住居専用地域	2 低専	30	20	3.12	0.81	26.0	3.27	0.79	24.2	0.15	▲0.02	▲1.8
		40	20	24.42	2.66	10.9	29.39	2.44	8.3	4.97	▲0.22	▲2.6
		50	20	8.88	0.79	8.9	9.80	0.75	7.7	0.92	▲0.04	▲1.2
第一種中高層住居専用地域	1 中高	50	20	140.20	25.48	18.2	146.93	24.33	16.6	6.73	▲1.15	▲1.6
		60	15	378.16	54.78	14.5	395.07	50.48	12.8	16.91	▲4.30	▲1.7
第二種中高層住居専用地域	2 中高	60	15	1,062.36	120.27	11.3	1,146.02	115.72	10.1	83.66	▲4.55	▲1.2
第一種住居地域	1 住居	60	15	3,521.72	362.82	10.3	3,689.45	337.92	9.2	167.73	▲24.90	▲1.1
第二種住居地域	2 住居	60	15	805.43	81.17	10.1	884.82	78.73	8.9	79.39	▲2.44	▲1.2
準住居地域	準住居	60	15	108.84	9.46	8.7	127.34	8.79	6.9	18.50	▲0.67	▲1.8
近隣商業地域	近商	80	10	1,199.60	62.50	5.2	1,270.09	57.68	4.5	70.49	▲4.82	▲0.7
商業地域	商業	80	10	901.24	26.15	2.9	966.44	27.06	2.8	65.20	0.91	▲0.1
準工業地域	準工	60	15	1,762.73	107.38	6.1	1,916.56	106.42	5.6	153.83	▲0.96	▲0.5
工業地域	工業	60	15	1,418.98	100.65	7.1	1,508.43	104.56	6.9	89.45	3.91	▲0.2
工業専用地域	工専	60	15	474.86	48.60	10.2	447.31	41.24	9.2	▲27.55	▲7.36	▲1.0
合計				14,075.48	1,418.22	10.1	14,999.47	1,305.92	8.7	923.99	▲112.30	▲1.4

注 1) ここで言う「宅地」とは、過年度の整理を踏襲して住居系、商業系及び工業系の土地利用の区域と定義している。そのため、「工業専用地域」には住宅を建設することはできないが、便宜上、上記の土地利用があれば「宅地」として取り扱っている。

注 2) 「建蔽率の最高限度(%)」及び「緑化率の最低限度(%)」は「緑化率の最低限度一覧表」に基づく。

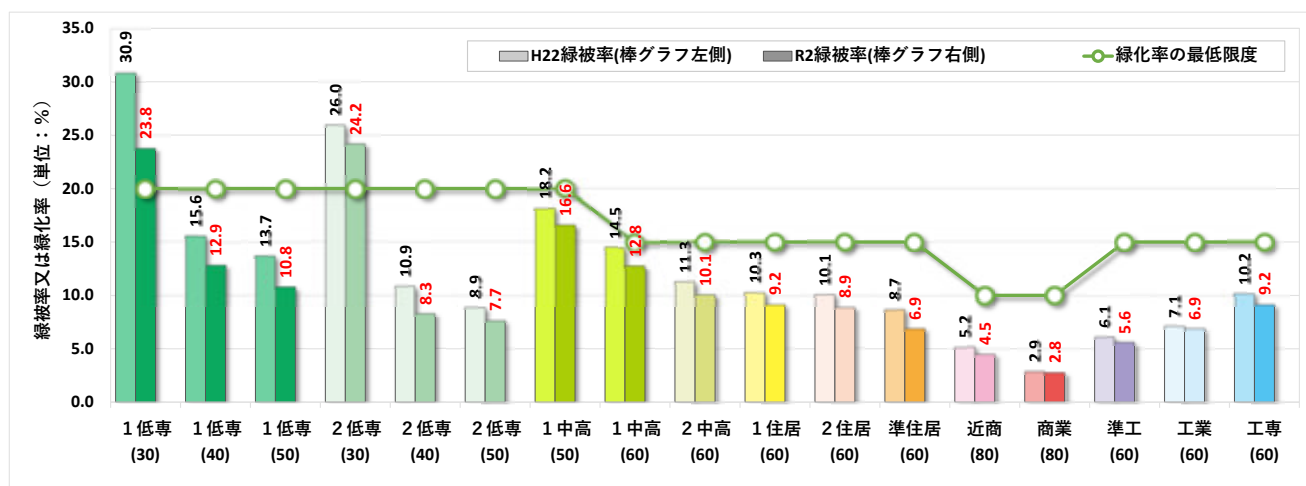


図 I-46：宅地内緑被率の変化と緑化率の最低限度（用途地域別）

3-4. 地域別の緑被率

3-4-1. 地域区分別・行政区別の緑被率

(1) 地域区分と緑の特徴

地域的な緑の特性を捉えるため、行政区を表 I-25、図 I-47 のとおり 3つの地域に区分し、緑被率の現況と推移を把握した。

表 I-25：地域区分と緑の特徴

地域区分	行政区	地形の特徴	緑の特徴
西部地域	北区、西区、中村区、中川区、港区	沖積平野	河川、農地の緑
中央部地域	東区、中区、昭和区、瑞穂区、熱田区、南区	洪積台地	歴史的な緑(熱田神宮、名古屋城等)
東部地域	千種区、守山区、緑区、名東区、天白区	丘陵地	丘陵地の大規模な緑(雑木林、ため池等)

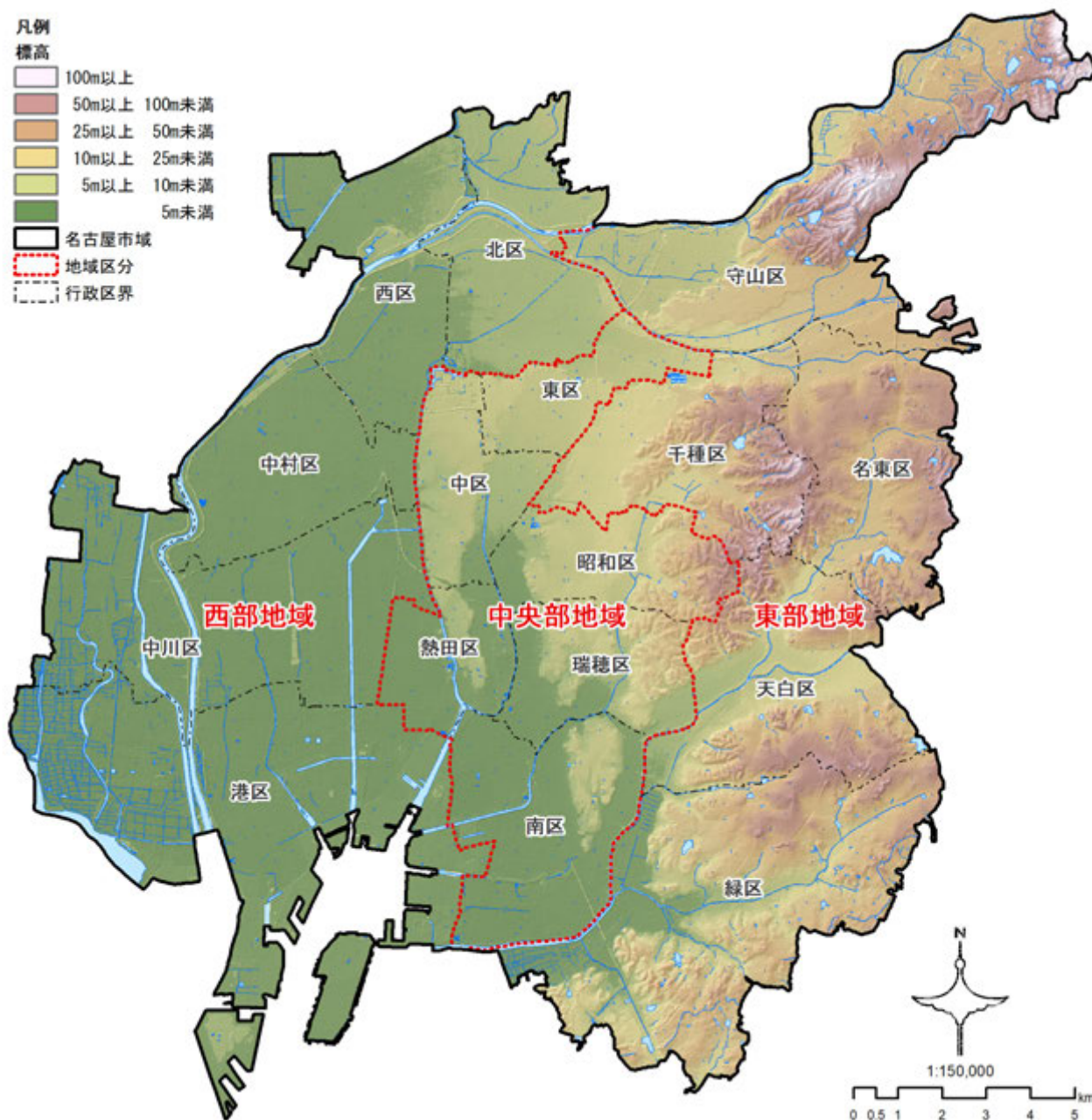


図 I-47：地域区分図(標高地形陰影段彩図)

(2) 地域区分別・行政区別の緑被率の変化

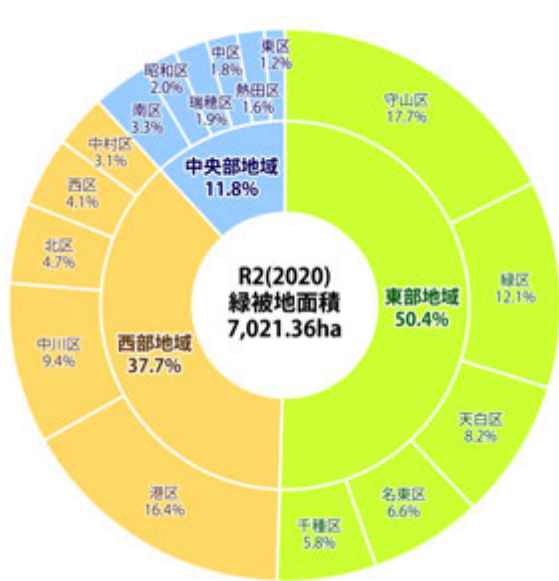
令和2(2020)年の地域別の緑被率は、東部地域が27.0%で最も高く、次いで西部地域が20.5%、中央部地域は12.7%であった。平成2(1990)年と比較すると3地域とも減少しており、特に、大きな緑被地面積を有する東部地域では1,473.33ha減少(11.2ポイント減少)した。なお、現状の緑被地面積の構成比率を見ると、東部地域の緑被地が最も高く50.4%を占めていた。

行政区別の緑被率では、守山区(36.6%)、天白区(26.6%)、港区(25.2%)が高く、東区(11.4%)や瑞穂区(12.0%)をはじめとする中央部地域の区が低い状況であった。

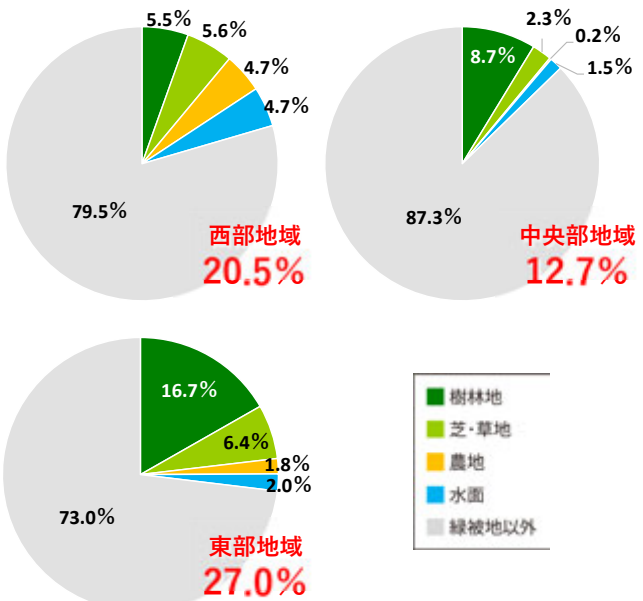
表Ⅰ-26：地域区分別・行政区別の緑被地の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和2(2020)年			H2⇒R2 増減	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	構成比率(%)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(ポイント)
西部地域	北区	445.79	25.4	332.95	4.7	19.0	▲112.84	▲6.4
	西区	363.83	20.3	289.21	4.1	16.1	▲74.62	▲4.2
	中村区	318.59	19.5	218.58	3.1	13.4	▲100.01	▲6.1
	中川区	1,043.91	32.6	657.82	9.4	20.5	▲386.09	▲12.1
	港区	1,470.66	32.3	1,150.67	16.4	25.2	▲319.99	▲7.1
	小計	3,642.78	28.2	2,649.23	37.7	20.5	▲993.55	▲7.7
中央部地域	東区	116.21	15.1	87.54	1.2	11.4	▲28.67	▲3.7
	中区	124.14	13.3	126.60	1.8	13.5	2.46	0.2
	昭和区	203.05	18.6	142.29	2.0	13.0	▲60.76	▲5.6
	瑞穂区	209.51	18.7	134.24	1.9	12.0	▲75.27	▲6.7
	熱田区	115.53	14.2	113.80	1.6	13.9	▲1.73	▲0.3
	南区	310.40	16.8	232.12	3.3	12.6	▲78.28	▲4.2
	小計	1,078.84	16.4	836.59	11.8	12.7	▲242.25	▲3.7
東部地域	千種区	496.28	27.2	405.81	5.8	22.3	▲90.47	▲4.9
	守山区	1,711.15	50.3	1,242.54	17.7	36.5	▲468.61	▲13.8
	緑区	1,339.21	35.4	851.00	12.1	22.4	▲488.21	▲13.0
	名東区	639.22	32.8	463.19	6.6	23.8	▲176.03	▲9.0
	天白区	823.01	38.2	573.00	8.2	26.6	▲250.01	▲11.6
	小計	5,008.87	38.2	3,535.54	50.4	27.0	▲1,473.33	▲11.2
合計		9,730.50	29.8	7,021.36	99.9	21.5	▲2,709.14	▲8.3

注1) 本表掲載の数値は、「平成2(1990)年度緑被調査『行政区別緑被地面積及び緑被率』」及び「令和2(2020)年度緑被調査『行政区別緑被地面積及び緑被率』」に基づく(参考資料編 参照)。なお、地域別の値はこれらを基に集計したものである。
注2) 「構成比率」は、緑被地面積の合計値に対する各項目の面積の比率を示す。また、各比率は小数第2位を四捨五入して集計しているため、その合計値は必ずしも100.0にはならない。



図Ⅰ-48：地域区分別・行政区別の緑被地面積の構成比率（令和2年）



図Ⅰ-49：各地域区分の緑被率（令和2年）

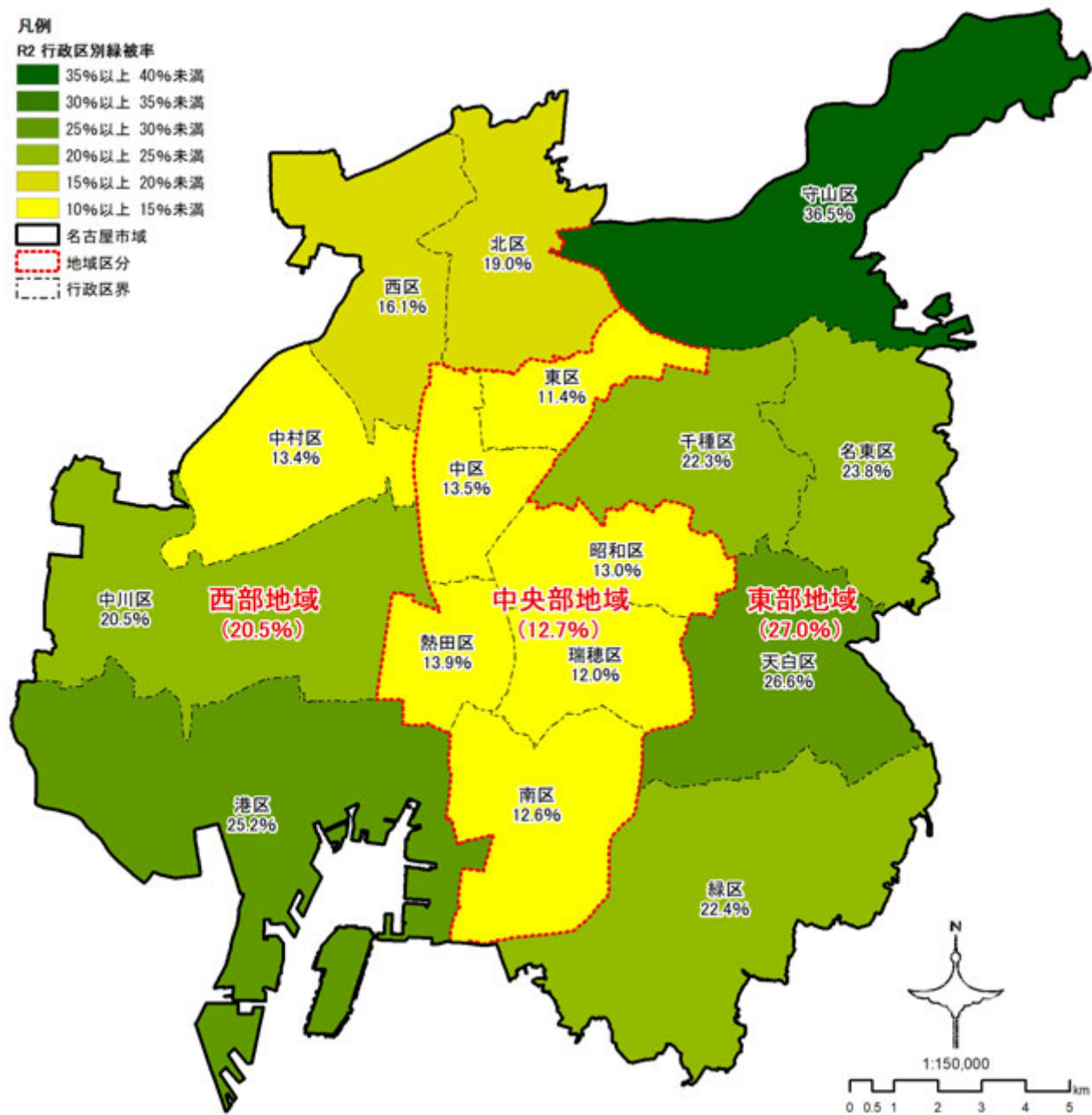


図 I -50：地域区分別・行政区別の緑被率（令和 2 年）

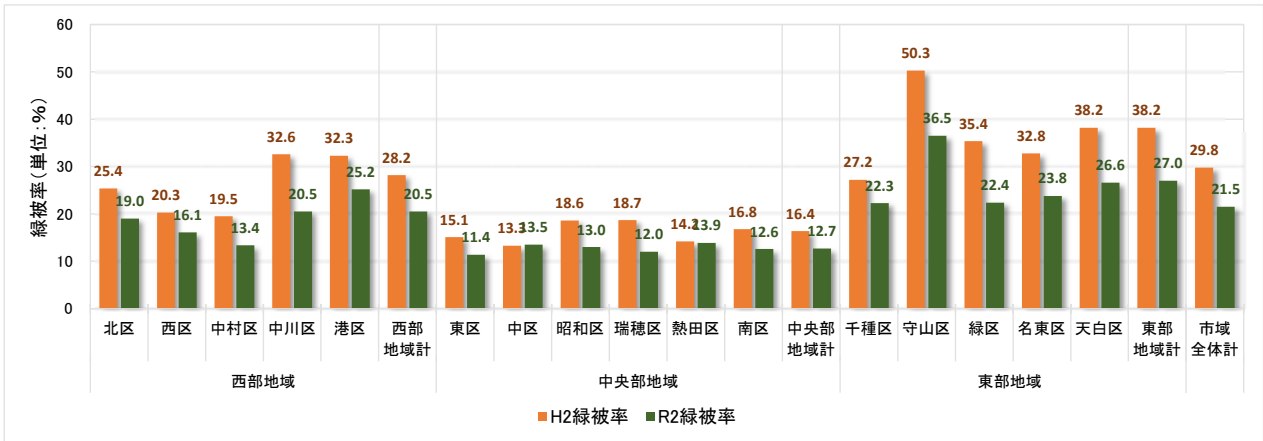


図 I -51：地域区分別・行政区別の緑被率の変化

(3) 地域区分別・行政区別の緑被率(4種別)の変化

① 樹林地(4種別)の変化

樹林地の緑被率について地域別に見ると、東部地域が16.7%で最も高く、次いで中央部地域が8.7%、西部地域が5.5%であり、平成2(1990)年と比較すると3地域とも減少した。

行政区別の樹林地の緑被率では、守山区(19.7%)、千種区(18.2%)、天白区(17.6%)をはじめとする東部地域の区が高い状況であったが、平成2年と比較すると、瑞穂区、昭和区、守山区で4ポイント以上減少した。

表I-27：地域区分別・行政区別の樹林地の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和2(2020)年		樹林地増減(R2-H2)	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(ポイント)
西部地域	北区	133.15	7.6	115.47	6.6	▲17.68	▲1.0
	西区	116.86	6.5	105.39	5.9	▲11.47	▲0.6
	中村区	102.49	6.3	85.32	5.2	▲17.17	▲1.1
	中川区	189.23	5.9	167.00	5.2	▲22.23	▲0.7
	港区	254.82	5.6	241.77	5.3	▲13.05	▲0.3
	小計	796.55	6.2	714.95	5.5	▲81.60	▲0.7
中央部地域	東区	77.67	10.1	62.72	8.1	▲14.95	▲2.0
	中区	90.36	9.7	96.07	10.2	5.71	0.5
	昭和区	169.99	15.6	120.49	11.0	▲49.50	▲4.6
	瑞穂区	155.74	13.9	103.02	9.2	▲52.72	▲4.7
	熱田区	71.77	8.8	69.06	8.4	▲2.71	▲0.4
	南区	151.88	8.2	122.87	6.7	▲29.01	▲1.5
	小計	717.41	10.9	574.23	8.7	▲143.18	▲2.2
東部地域	千種区	387.69	21.3	331.15	18.2	▲56.54	▲3.1
	守山区	811.35	23.8	670.20	19.7	▲141.15	▲4.1
	緑区	574.43	15.2	483.82	12.8	▲90.61	▲2.4
	名東区	359.22	18.5	324.56	16.7	▲34.66	▲1.8
	天白区	437.75	20.3	378.76	17.6	▲58.99	▲2.7
	小計	2,570.44	19.6	2,188.49	16.7	▲381.95	▲2.9
合計		4,084.40	12.5	3,477.67	10.7	▲606.73	▲1.8

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

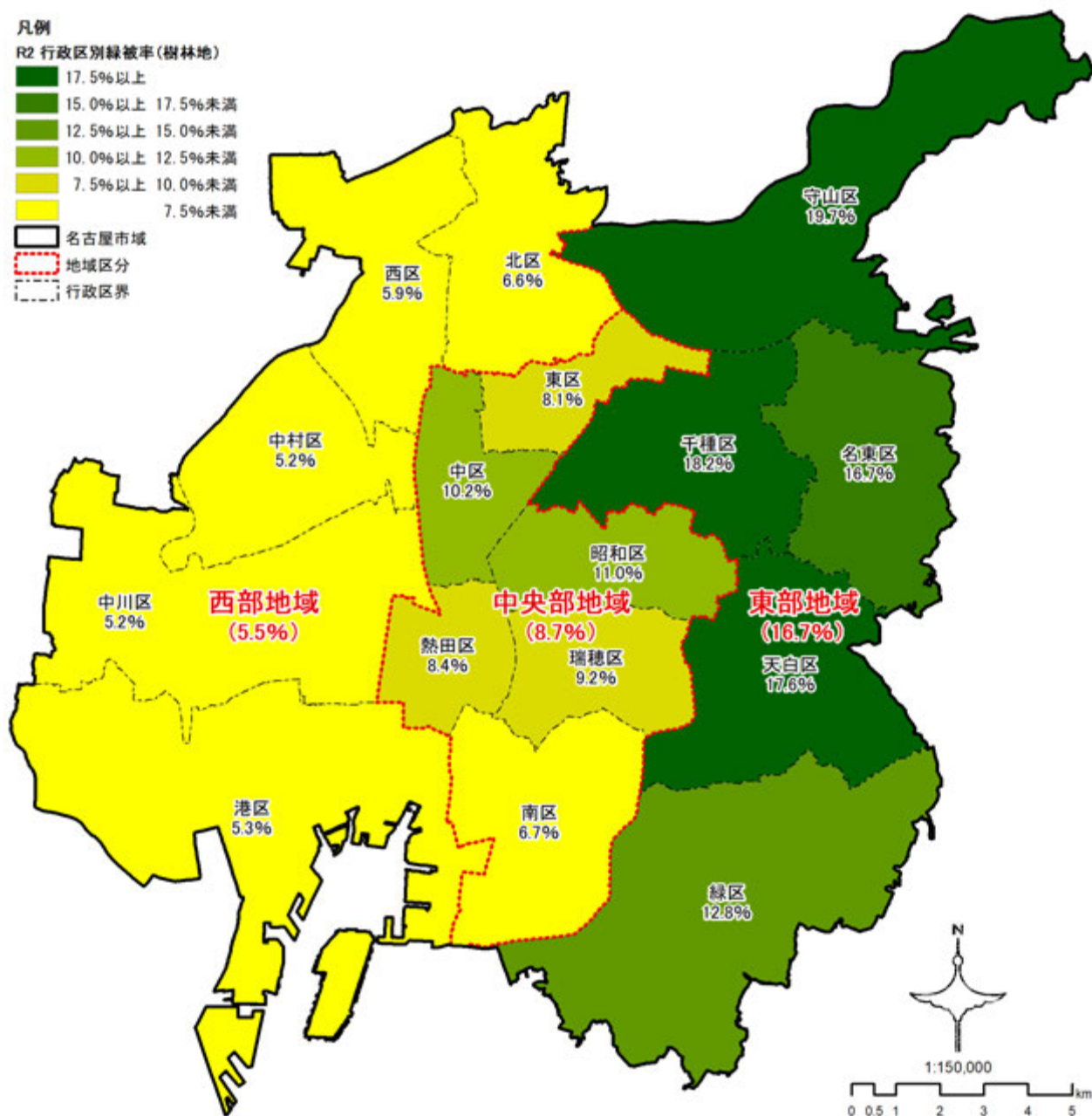


図 I -52 : 地域区分別・行政区別の緑被率(樹林地) (令和 2 年)

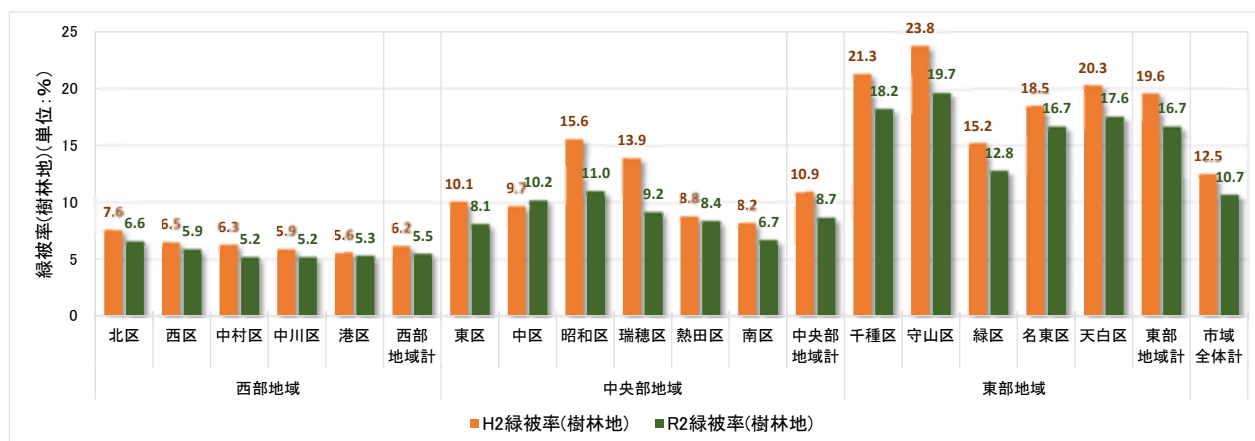


図 I -53 : 地域区分別・行政区別の緑被率(樹林地) の変化

② 芝・草地(4種別)の変化

芝・草地の緑被率について地域別に見ると、東部地域が6.4%で最も高く、次いで西部地域が5.6%、中央部地域が2.3%であり、平成2(1990)年と比較すると3地域とも減少した。

行政区別の芝・草地の緑被率では、守山区(11.4%)、北区(8.0%)、西区(6.7%)が順に高く、市の北部が比較的高い状況であった。平成2年と比較すると、名東区、緑区、天白区で5ポイント以上減少した。

表 I-28 : 地域区分別・行政区別の芝・草地の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和2(2020)年		芝・草地増減(R2-H2)	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(ポイント)
西部地域	北区	159.12	9.1	140.24	8.0	▲18.88	▲1.1
	西区	119.54	6.7	120.18	6.7	0.64	0.0
	中村区	85.84	5.3	63.61	3.9	▲22.23	▲1.4
	中川区	200.77	6.3	162.95	5.1	▲37.82	▲1.2
	港区	275.28	6.0	235.62	5.2	▲39.66	▲0.8
	小計	840.55	6.5	722.60	5.6	▲117.95	▲0.9
中央部地域	東区	35.30	4.6	21.58	2.8	▲13.72	▲1.8
	中区	17.24	1.8	15.43	1.6	▲1.81	▲0.2
	昭和区	25.10	2.3	17.89	1.6	▲7.21	▲0.7
	瑞穂区	36.45	3.2	22.89	2.0	▲13.56	▲1.2
	熱田区	19.79	2.4	19.72	2.4	▲0.07	0.0
	南区	70.81	3.8	54.33	2.9	▲16.48	▲0.9
	小計	204.69	3.1	151.84	2.3	▲52.85	▲0.8
東部地域	千種区	79.15	4.3	53.55	2.9	▲25.60	▲1.4
	守山区	472.80	13.9	387.64	11.4	▲85.16	▲2.5
	緑区	400.18	10.6	205.95	5.4	▲194.23	▲5.2
	名東区	200.72	10.3	95.10	4.9	▲105.62	▲5.4
	天白区	210.97	9.8	103.45	4.8	▲107.52	▲5.0
	小計	1,363.82	10.4	845.69	6.4	▲518.13	▲4.0
合計		2,409.07	7.4	1,720.13	5.3	▲688.94	▲2.1

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

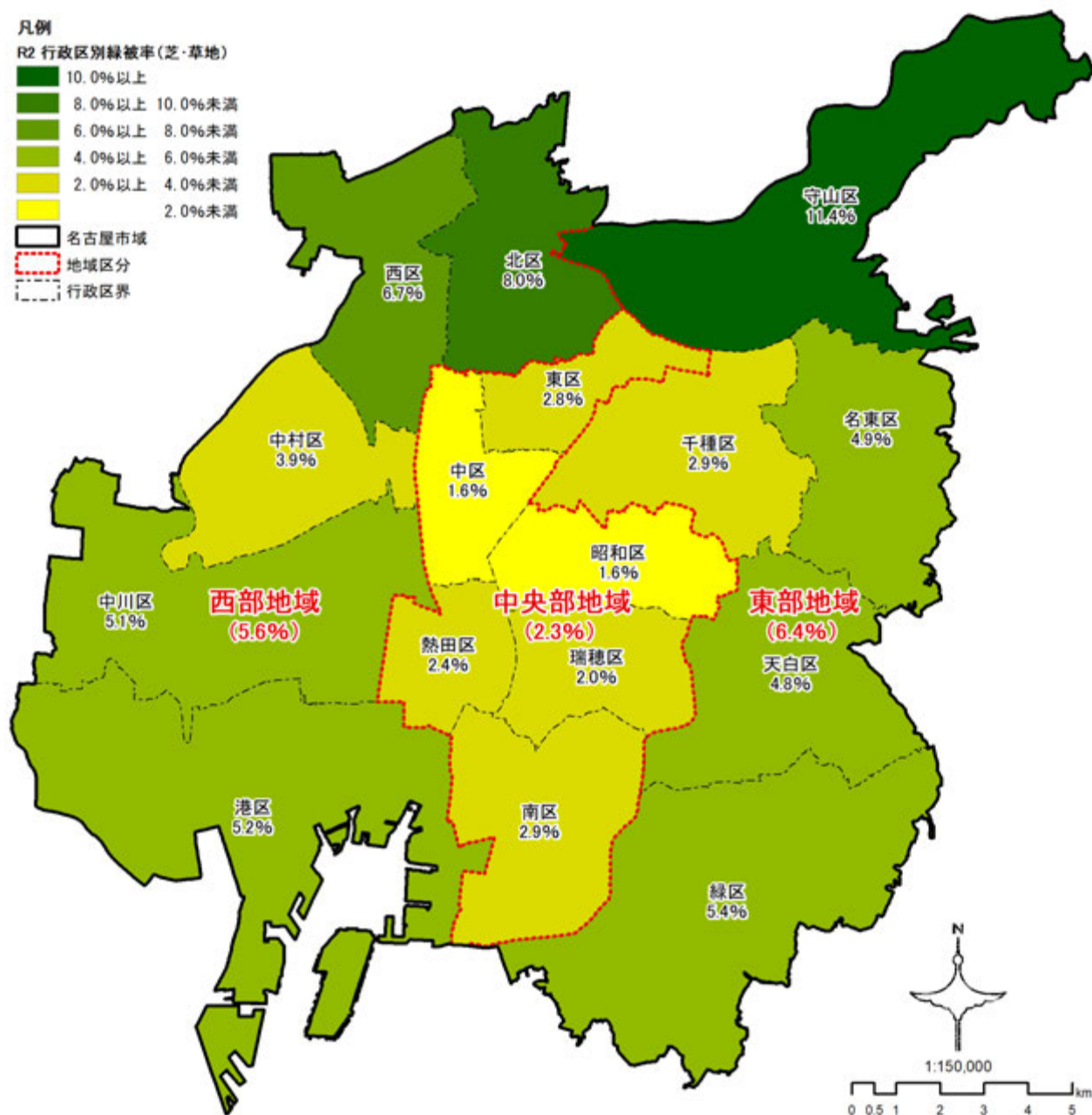


図 I -54 : 地域区分別・行政区別の緑被率(芝・草地) (令和 2 年)

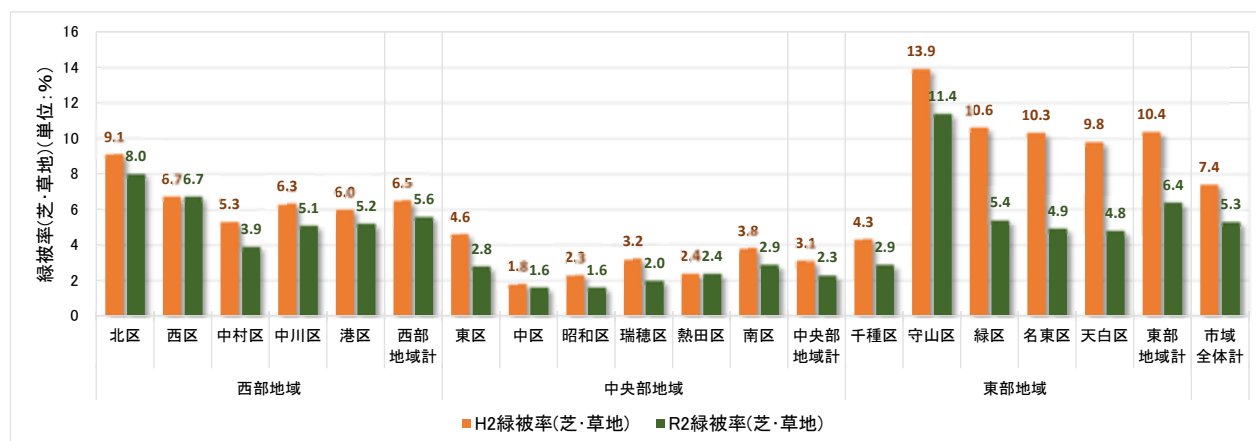


図 I -55 : 地域区分別・行政区別の緑被率(芝・草地)の変化

③ 農地(4種別)の変化

農地の緑被率について地域別に見ると、西部地域が4.7%で最も高く、次いで東部地域が1.8%、中央部地域に至っては0.2%であり、平成2(1990)年と比較すると3地域とも減少した。

行政区別の農地の緑被率では、港区(8.3%)、中川区(5.1%)、天白区(2.9%)が順に高い状況であり、平成2年と比較すると全行政区で減少しており、特に、中川区で10.6ポイント、守山区で7.0ポイント、緑区で5.3ポイント、港区で5.1ポイント減少した。

表 I-29 : 地域区分別・行政区別の農地の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和2(2020)年		農地増減(R2-H2)	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(ポイント)
西部地域	北区	99.63	5.7	26.05	1.5	▲73.58	▲4.2
	西区	79.82	4.5	12.86	0.7	▲66.96	▲3.8
	中村区	91.87	5.6	25.04	1.5	▲66.83	▲4.1
	中川区	502.49	15.7	164.39	5.1	▲338.10	▲10.6
	港区	610.08	13.4	377.23	8.3	▲232.85	▲5.1
	小計	1,383.89	10.7	605.57	4.7	▲778.32	▲6.0
中央部地域	東区	0.44	0.1	0.19	0.0	▲0.25	▲0.1
	中区	0.05	0.0	0.02	0.0	▲0.03	0.0
	昭和区	4.17	0.4	0.85	0.1	▲3.32	▲0.3
	瑞穂区	11.41	1.0	3.11	0.3	▲8.30	▲0.7
	熱田区	0.85	0.1	0.27	0.0	▲0.58	▲0.1
	南区	32.55	1.8	8.59	0.5	▲23.96	▲1.3
	小計	49.47	0.8	13.03	0.2	▲36.44	▲0.6
東部地域	千種区	12.30	0.7	4.74	0.3	▲7.56	▲0.4
	守山区	316.05	9.3	76.89	2.3	▲239.16	▲7.0
	緑区	274.92	7.3	74.31	2.0	▲200.61	▲5.3
	名東区	50.28	2.6	15.07	0.8	▲35.21	▲1.8
	天白区	145.08	6.7	62.07	2.9	▲83.01	▲3.8
	小計	798.63	6.1	233.08	1.8	▲565.55	▲4.3
合計		2,232.00	6.8	851.68	2.6	▲1,380.32	▲4.2

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

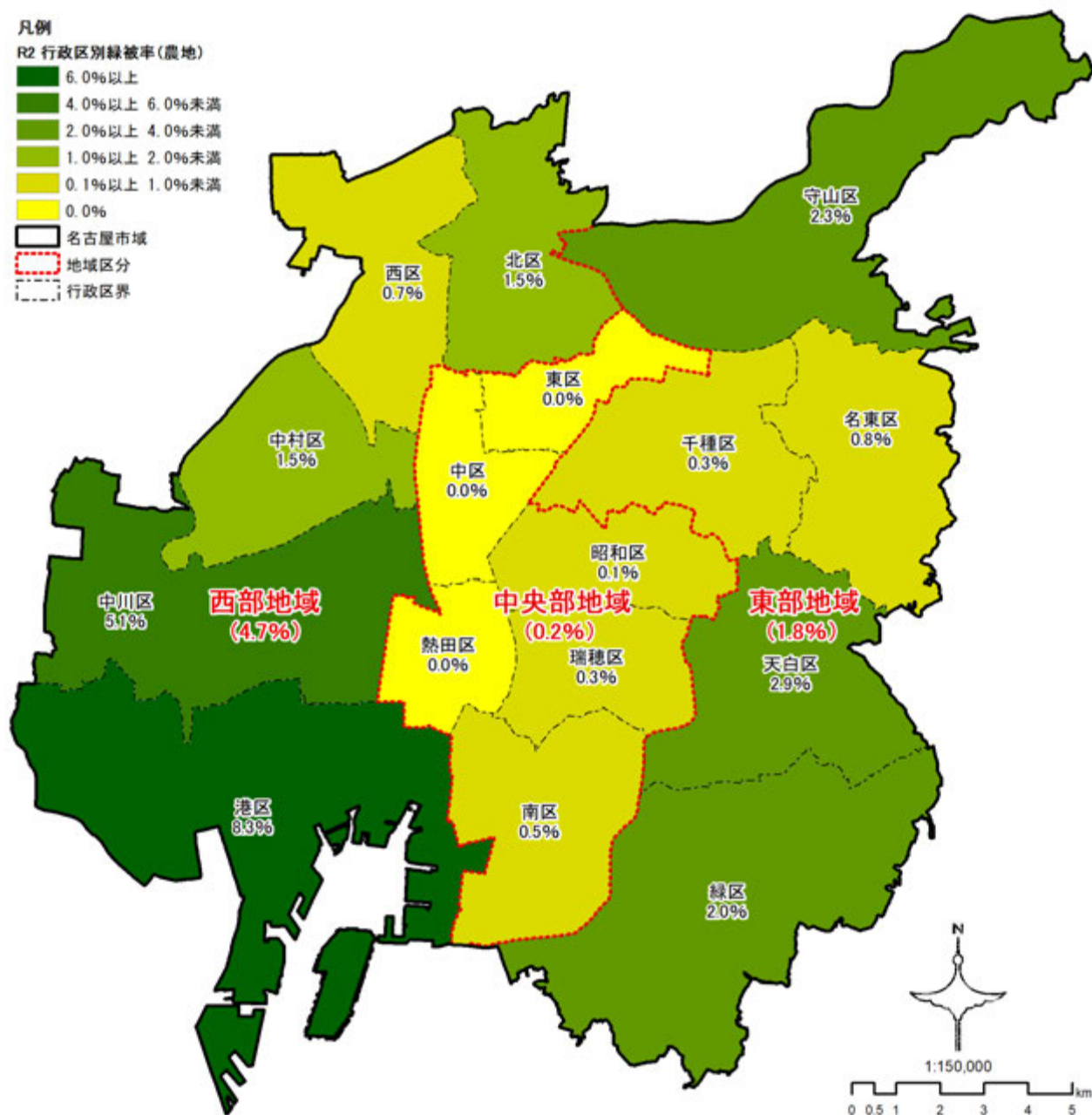


図 I-56 : 地域区分別・行政区別の緑被率(農地) (令和 2 年)

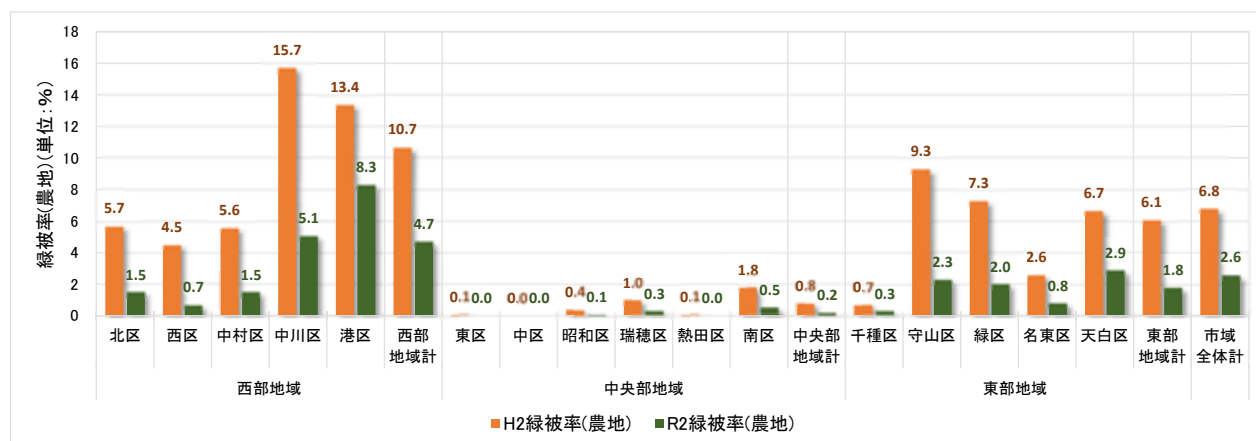


図 I-57 : 地域区分別・行政区別の緑被率(農地)の変化

④ 水面(4種別)の変化

水面の緑被率について地域別に見ると、西部地域が4.7%で最も高く、次いで東部地域が2.0%、中央部地域は1.5%であり、平成2(1990)年と比較すると3地域とも微減した。

行政区別の水面の緑被率では、港区(6.5%)、中川区(5.1%)、守山区(3.2%)が順に高い状況であり、平成2年と比較すると全体的に減少してはいるが、中川区で0.4ポイント、中村区で0.3ポイント、熱田区で0.2ポイント、西区で0.1ポイント僅かに増加した。

表 I-30 : 地域区分別・行政区別の水面の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和2(2020)年		水面増減(R2-H2)	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(ポイント)
西部地域	北区	53.90	3.1	51.19	2.9	▲2.71	▲0.2
	西区	47.62	2.7	50.78	2.8	3.16	0.1
	中村区	38.39	2.4	44.61	2.7	6.22	0.3
	中川区	151.42	4.7	163.48	5.1	12.06	0.4
	港区	330.48	7.3	296.05	6.5	▲34.43	▲0.8
	小計	621.81	4.8	606.11	4.7	▲15.70	▲0.1
中央部地域	東区	2.80	0.4	3.05	0.4	0.25	0.0
	中区	16.49	1.8	15.08	1.6	▲1.41	▲0.2
	昭和区	3.79	0.3	3.06	0.3	▲0.73	0.0
	瑞穂区	5.92	0.5	5.22	0.5	▲0.70	0.0
	熱田区	23.12	2.8	24.75	3.0	1.63	0.2
	南区	55.15	3.0	46.33	2.5	▲8.82	▲0.5
	小計	107.27	1.6	97.49	1.5	▲9.78	▲0.1
東部地域	千種区	17.14	0.9	16.37	0.9	▲0.77	0.0
	守山区	110.95	3.3	107.81	3.2	▲3.14	▲0.1
	緑区	89.68	2.4	86.92	2.3	▲2.76	▲0.1
	名東区	29.00	1.5	28.46	1.5	▲0.54	0.0
	天白区	29.21	1.4	28.72	1.3	▲0.49	▲0.1
	小計	275.98	2.1	268.28	2.0	▲7.70	▲0.1
合計		1,005.04	3.1	971.88	3.0	▲33.16	▲0.1

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

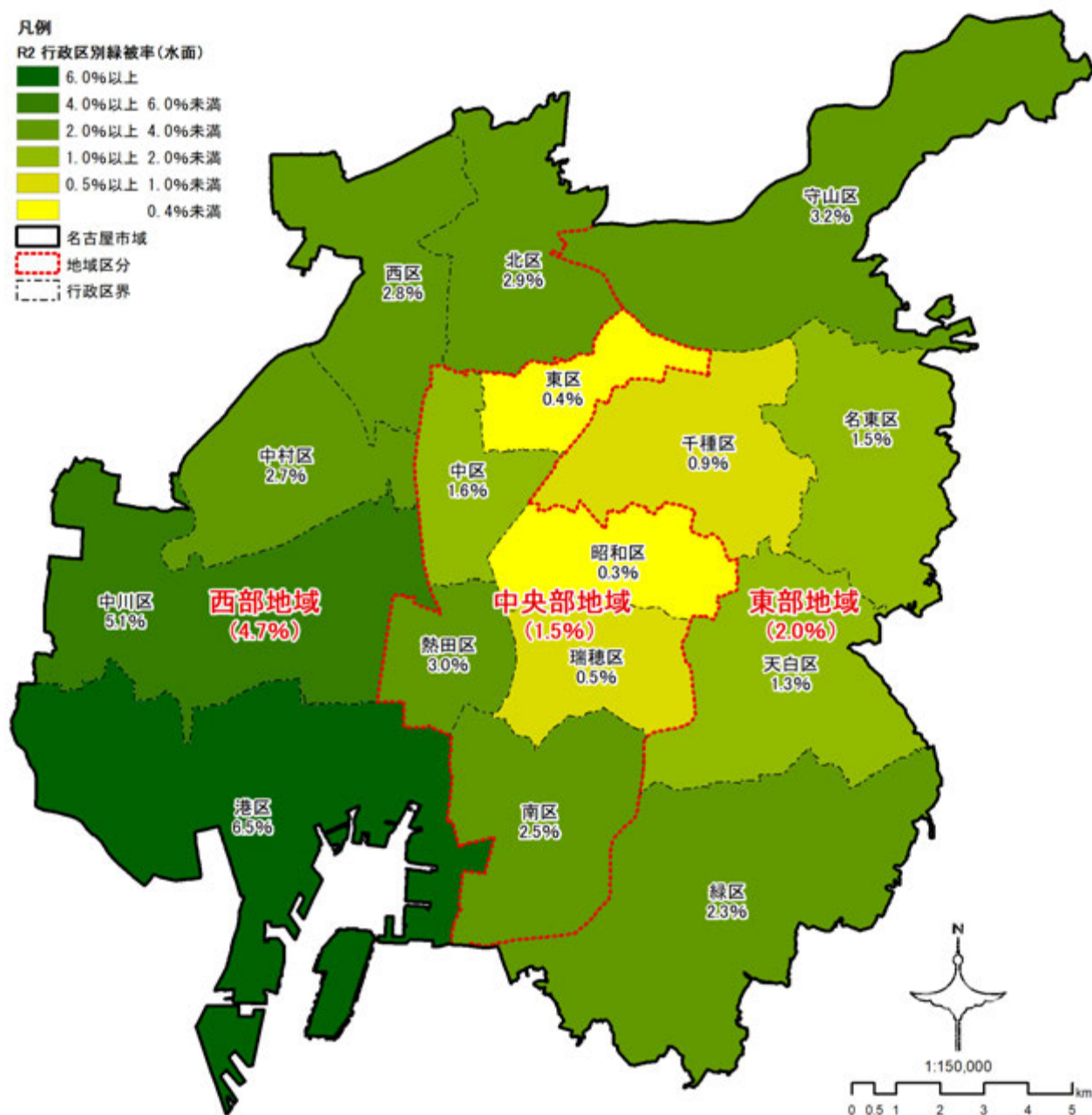


図 I-58 : 地域区分別・行政区別の緑被率(水面) (令和 2 年)

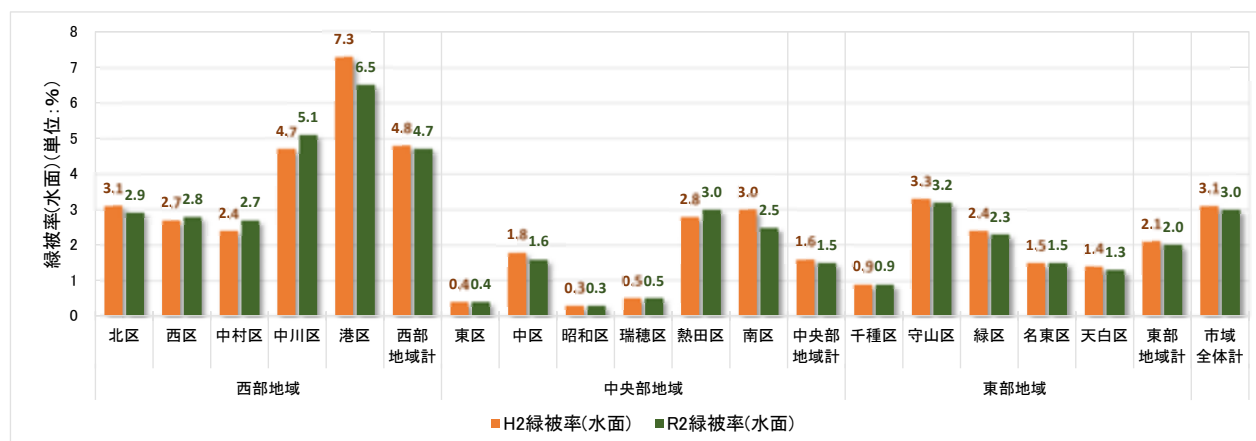


図 I-59 : 地域区分別・行政区別の緑被率(水面)の変化

(4) 地域区分別・行政区別の緑被率(細種別)の変化

① 樹林地(細種別)の変化

樹林地(細種別)の緑被率について地域別に見ると、高木は全地域とも 3.3~12.2%を占めているが、そのほかの種別は、いずれも 3.0%以下と低い比率であった。平成 2(1990)年と比較すると 3 地域とも高木は減少しているが、街路樹高木、街路樹低木については微増した。

行政区別の樹林地(細種別)の緑被率の変化を見ると、全行政区とも高木の緑被率が減少しており、特に瑞穂区が 5.1 ポイント、守山区が 4.0 ポイント、昭和区が 3.8 ポイント減少した。また、街路樹高木、街路樹低木については、総量としては少ないものの、熱田区の街路樹高木を除く全ての行政区で増加し、特に中区の街路樹高木が 1.8 ポイントと比較的増加した。

表 I-31：地域区分別・行政区別の樹林地細種別の変化

地域区分	行政区	樹林地(細種別)増減(R2-H2)									
		高木		低木		竹林		街路樹高木		街路樹低木	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	▲29.62	▲1.6	9.66	0.5	▲0.52	0.0	2.04	0.1	0.77	0.0
	西区	▲23.25	▲1.3	7.62	0.5	▲0.13	0.0	2.66	0.1	1.64	0.0
	中村区	▲20.41	▲1.2	▲0.01	0.0	▲0.38	0.0	2.84	0.2	0.79	0.1
	中川区	▲29.89	▲0.9	5.54	0.2	▲0.37	0.0	1.17	0.0	1.32	0.0
	港区	▲21.67	▲0.5	7.18	0.1	▲0.12	0.0	0.63	0.0	0.92	0.0
	小計	▲124.84	▲1.0	29.99	0.2	▲1.52	0.0	9.34	0.1	5.44	0.0
中央部地域	東区	▲19.18	▲2.5	1.50	0.2	0.04	0.0	2.46	0.3	0.22	0.0
	中区	▲9.88	▲1.1	▲1.42	▲0.1	▲0.06	0.0	16.57	1.8	0.49	0.1
	昭和区	▲41.96	▲3.8	▲8.64	▲0.8	▲0.57	▲0.1	1.36	0.1	0.31	0.0
	瑞穂区	▲57.39	▲5.1	6.67	0.6	▲2.51	▲0.2	0.35	0.0	0.16	0.0
	熱田区	▲5.61	▲0.7	3.04	0.4	0.12	0.0	▲0.64	0.0	0.38	0.0
	南区	▲35.54	▲1.9	5.15	0.2	▲0.04	0.0	0.68	0.1	0.73	0.1
	小計	▲169.56	▲2.6	6.30	0.1	▲3.02	▲0.1	20.78	0.4	2.29	0.0
東部地域	千種区	▲40.61	▲2.2	▲19.42	▲1.1	0.09	0.0	2.61	0.2	0.78	0.0
	守山区	▲133.13	▲4.0	▲4.81	▲0.1	▲9.92	▲0.3	3.94	0.1	2.77	0.1
	緑区	▲52.30	▲1.4	▲4.26	▲0.1	▲44.79	▲1.2	7.98	0.2	2.77	0.1
	名東区	▲23.16	▲1.2	▲34.73	▲1.8	18.50	1.0	2.40	0.1	2.33	0.2
	天白区	▲53.24	▲2.5	▲3.18	▲0.1	▲6.89	▲0.3	2.88	0.2	1.45	0.0
	小計	▲302.44	▲2.3	▲66.40	▲0.5	▲43.01	▲0.3	19.81	0.1	10.10	0.1
合計		▲596.84	▲1.9	▲30.11	▲0.1	▲47.55	▲0.1	49.95	0.1	17.83	0.0

注 1) 本表は、「平成 2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和 2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注 2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。

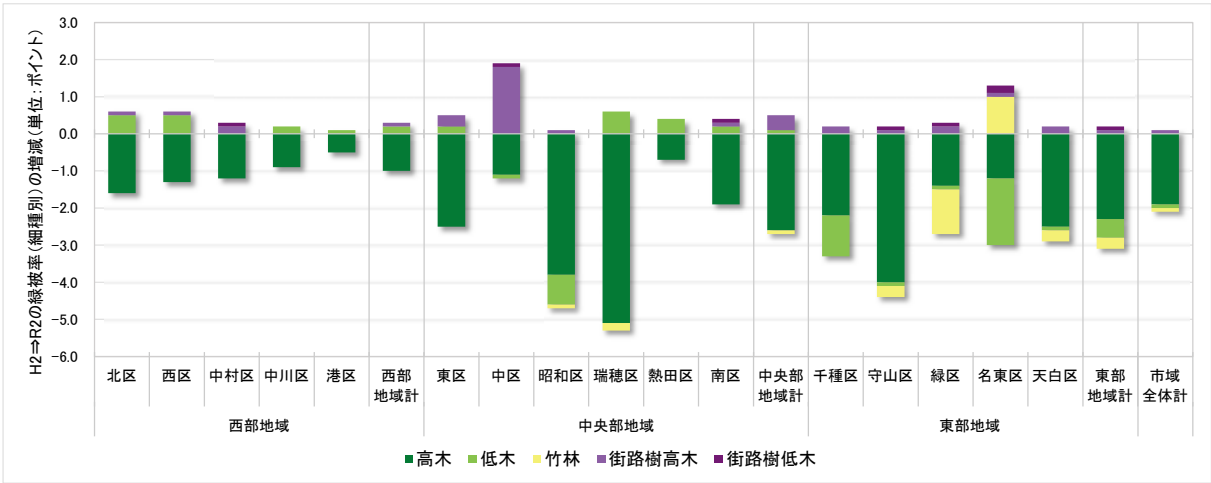


図 I-60：地域区分別・行政区別の樹林地(細種別)緑被率の増減

表 I-32：地域区分別・行政区別の樹林地細種別の緑被地面積及び緑被率（平成2(1990)年）

地域 区分	行政区	公表面積 (ha)	樹林地(細種別)(H2)									
			高木		低木		竹林		街路樹高木		街路樹低木	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部 地域	北区	1,755.00	100.80	5.7	24.51	1.4	0.70	0.0	6.22	0.4	0.91	0.1
	西区	1,790.00	83.44	4.7	27.58	1.5	0.13	0.0	4.74	0.3	0.96	0.1
	中村区	1,632.00	77.38	4.7	19.17	1.2	0.38	0.0	3.87	0.2	1.69	0.1
	中川区	3,201.00	121.29	3.8	59.14	1.8	0.54	0.0	4.94	0.2	3.32	0.1
	港区	4,557.00	166.91	3.7	71.82	1.6	0.12	0.0	10.62	0.2	5.36	0.1
	小計	12,935.00	549.82	4.3	202.22	1.6	1.87	0.0	30.39	0.2	12.24	0.1
中央部 地域	東区	772.00	61.85	8.0	9.46	1.2	0.01	0.0	4.43	0.6	1.93	0.3
	中区	936.00	71.62	7.7	6.91	0.7	0.13	0.0	8.84	0.9	2.87	0.3
	昭和区	1,093.00	130.61	11.9	34.59	3.2	1.00	0.1	2.81	0.3	0.98	0.1
	瑞穂区	1,123.00	133.20	11.9	15.74	1.4	2.51	0.2	3.48	0.3	0.81	0.1
	熱田区	816.00	56.52	6.9	8.37	1.0	-	-	5.23	0.6	1.65	0.2
	南区	1,847.00	123.44	6.7	21.57	1.2	0.05	0.0	4.34	0.2	2.49	0.1
	小計	6,587.00	577.24	8.8	96.64	1.5	3.70	0.1	29.13	0.4	10.73	0.2
東部 地域	千種区	1,824.00	308.65	16.9	71.07	3.9	0.94	0.1	6.09	0.3	0.95	0.1
	守山区	3,402.00	658.52	19.4	98.91	2.9	49.58	1.5	2.76	0.1	1.58	0.0
	緑区	3,786.00	364.34	9.6	114.59	3.0	91.38	2.4	3.22	0.1	0.89	0.0
	名東区	1,946.00	229.64	11.8	111.95	5.8	10.62	0.5	6.14	0.3	0.87	0.0
	天白区	2,157.00	335.76	15.6	58.92	2.7	36.60	1.7	4.72	0.2	1.74	0.1
	小計	13,115.00	1,896.91	14.5	455.44	3.5	189.12	1.4	22.93	0.2	6.03	0.0
合計		32,637.00	3,023.97	9.3	754.30	2.3	194.69	0.6	82.43	0.3	29.00	0.1

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I-33：地域区分別・行政区別の樹林地細種別の緑被地面積及び緑被率（令和2(2020)年）

地域 区分	行政区	公表面積 (ha)	樹林地(細種別)(R2)									
			高木		低木		竹林		街路樹高木		街路樹低木	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部 地域	北区	1,753.00	71.18	4.1	34.17	1.9	0.18	0.0	8.26	0.5	1.68	0.1
	西区	1,793.00	60.19	3.4	35.20	2.0	0.00	0.0	7.40	0.4	2.60	0.1
	中村区	1,630.00	56.97	3.5	19.16	1.2	-	-	6.71	0.4	2.48	0.2
	中川区	3,202.00	91.40	2.9	64.68	2.0	0.17	0.0	6.11	0.2	4.64	0.1
	港区	4,568.00	145.24	3.2	79.00	1.7	-	-	11.25	0.2	6.28	0.1
	小計	12,946.00	424.98	3.3	232.21	1.8	0.35	0.0	39.73	0.3	17.68	0.1
中央部 地域	東区	771.00	42.67	5.5	10.96	1.4	0.05	0.0	6.89	0.9	2.15	0.3
	中区	938.00	61.74	6.6	5.49	0.6	0.07	0.0	25.41	2.7	3.36	0.4
	昭和区	1,094.00	88.65	8.1	25.95	2.4	0.43	0.0	4.17	0.4	1.29	0.1
	瑞穂区	1,122.00	75.81	6.8	22.41	2.0	-	-	3.83	0.3	0.97	0.1
	熱田区	820.00	50.91	6.2	11.41	1.4	0.12	0.0	4.59	0.6	2.03	0.2
	南区	1,846.00	87.90	4.8	26.72	1.4	0.01	0.0	5.02	0.3	3.22	0.2
	小計	6,591.00	407.68	6.2	102.94	1.6	0.68	0.0	49.91	0.8	13.02	0.2
東部 地域	千種区	1,818.00	268.04	14.7	51.65	2.8	1.03	0.1	8.70	0.5	1.73	0.1
	守山区	3,401.00	525.39	15.4	94.10	2.8	39.66	1.2	6.70	0.2	4.35	0.1
	緑区	3,791.00	312.04	8.2	110.33	2.9	46.59	1.2	11.20	0.3	3.66	0.1
	名東区	1,945.00	206.48	10.6	77.22	4.0	29.12	1.5	8.54	0.4	3.20	0.2
	天白区	2,158.00	282.52	13.1	55.74	2.6	29.71	1.4	7.60	0.4	3.19	0.1
	小計	13,113.00	1,594.47	12.2	389.04	3.0	146.11	1.1	42.74	0.3	16.13	0.1
合計		32,650.00	2,427.13	7.4	724.19	2.2	147.14	0.5	132.38	0.4	46.83	0.1

注1) 本表は、「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

② 芝・草地(細種別)の変化

芝・草地(細種別)の緑被率について地域別に見ると、芝地、草地ともに中央部地域で1%強と少なく、西部、東部地域で2～4%程度と比較的多い状況であった。平成2(1990)年と比較すると3地域とも芝地は全て微増していたが、草地は全て減少していた。

行政区別の芝・草地(細種別)の緑被率の変化を見ると、芝地の緑被率は、瑞穂区、港区を除いた区において、ほぼ同程度か微増した。これは、主に庄内川・矢田川の河川敷の芝地が増加しており、これらの河川沿いに立地する守山区、北区、西区、中村区、中川区では比較的增加傾向が見られた。また、草地の緑被率は全行政区とも減少しており、特に名東区、緑区、天白区が5ポイント以上減少していた。

表 I -34 : 地域区分別・行政区別の芝・草地細種別の変化

地域区分	行政区	芝・草地(細種別) 増減 (R2-H2)			
		芝地		草地	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	39.52	2.2	▲58.40	▲3.3
	西区	21.87	1.2	▲21.23	▲1.2
	中村区	19.58	1.2	▲41.81	▲2.6
	中川区	13.11	0.5	▲50.94	▲1.6
	港区	▲2.26	▲0.1	▲37.40	▲0.9
	小計	91.82	0.8	▲209.78	▲1.7
中央部地域	東区	1.94	0.2	▲15.66	▲2.0
	中区	2.25	0.3	▲4.06	▲0.4
	昭和区	2.88	0.3	▲10.09	▲0.9
	瑞穂区	▲7.94	▲0.8	▲5.62	▲0.5
	熱田区	1.34	0.2	▲1.41	▲0.2
	南区	0.75	0.0	▲17.24	▲1.0
	小計	1.22	0.1	▲54.08	▲0.9
東部地域	千種区	▲1.36	0.0	▲24.24	▲1.3
	守山区	44.98	1.3	▲130.15	▲3.8
	緑区	5.53	0.2	▲199.76	▲5.2
	名東区	1.96	0.1	▲107.58	▲5.5
	天白区	▲0.10	0.0	▲107.42	▲5.0
	小計	51.01	0.4	▲569.15	▲4.3
合計		144.07	0.4	▲833.01	▲2.5

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。

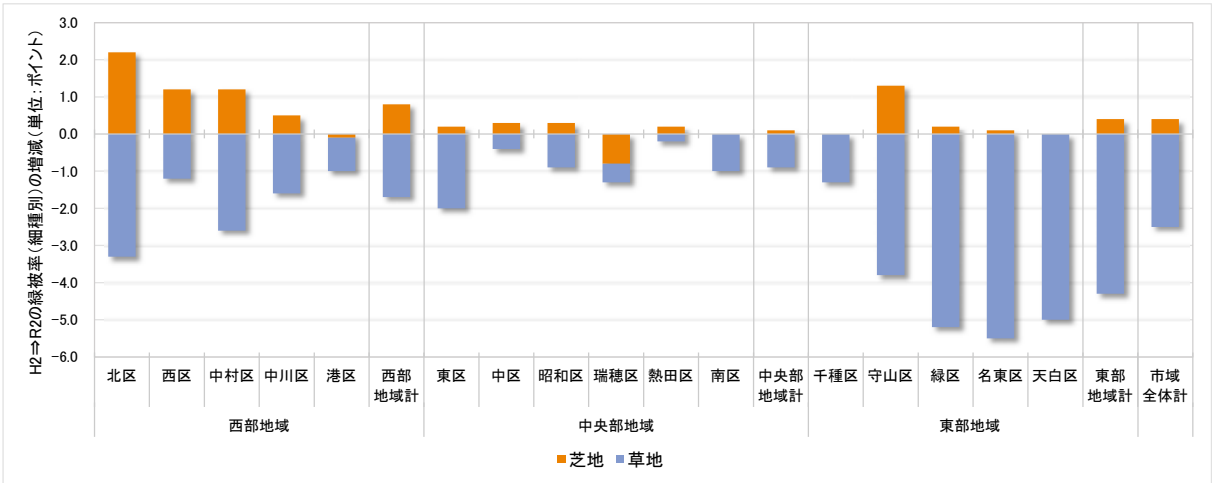


図 I -61 : 地域区分別・行政区別の芝・草地(細種別) 緑被率の増減

表 I-35：地域区分別・行政区別の芝・草地細種別の緑被地面積及び緑被率（平成2(1990)年）

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	芝・草地(細種別)(H2)			
			芝地		草地	
			緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	1,755.00	47.19	2.7	111.93	6.4
	西区	1,790.00	32.23	1.8	87.31	4.9
	中村区	1,632.00	14.46	0.9	71.38	4.4
	中川区	3,201.00	17.56	0.5	183.22	5.7
	港区	4,557.00	62.50	1.4	212.78	4.7
	小計	12,935.00	173.94	1.3	666.62	5.2
中央部地域	東区	772.00	12.91	1.7	22.39	2.9
	中区	936.00	5.03	0.5	12.21	1.3
	昭和区	1,093.00	9.26	0.8	15.84	1.4
	瑞穂区	1,123.00	17.46	1.6	18.99	1.7
	熱田区	816.00	5.88	0.7	13.91	1.7
	南区	1,847.00	18.15	1.0	52.67	2.9
	小計	6,587.00	68.69	1.0	136.01	2.1
東部地域	千種区	1,824.00	29.77	1.6	49.38	2.7
	守山区	3,402.00	125.20	3.7	347.61	10.2
	緑区	3,786.00	53.99	1.4	346.19	9.1
	名東区	1,946.00	58.39	3.0	142.33	7.3
	天白区	2,157.00	30.03	1.4	180.94	8.4
	小計	13,115.00	297.38	2.3	1,066.45	8.1
合計		32,637.00	539.99	1.7	1,869.08	5.7

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I-36：地域区分別・行政区別の芝・草地細種別の緑被地面積及び緑被率（令和2(2020)年）

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	芝・草地(細種別)(R2)			
			芝地		草地	
			緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	1,753.00	86.71	4.9	53.53	3.1
	西区	1,793.00	54.10	3.0	66.08	3.7
	中村区	1,630.00	34.04	2.1	29.57	1.8
	中川区	3,202.00	30.67	1.0	132.28	4.1
	港区	4,568.00	60.24	1.3	175.38	3.8
	小計	12,946.00	265.76	2.1	456.84	3.5
中央部地域	東区	771.00	14.85	1.9	6.73	0.9
	中区	938.00	7.28	0.8	8.15	0.9
	昭和区	1,094.00	12.14	1.1	5.75	0.5
	瑞穂区	1,122.00	9.52	0.8	13.37	1.2
	熱田区	820.00	7.22	0.9	12.50	1.5
	南区	1,846.00	18.90	1.0	35.43	1.9
	小計	6,591.00	69.91	1.1	81.93	1.2
東部地域	千種区	1,818.00	28.41	1.6	25.14	1.4
	守山区	3,401.00	170.18	5.0	217.46	6.4
	緑区	3,791.00	59.52	1.6	146.43	3.9
	名東区	1,945.00	60.35	3.1	34.75	1.8
	天白区	2,158.00	29.93	1.4	73.52	3.4
	小計	13,113.00	348.39	2.7	497.30	3.8
合計		32,650.00	684.06	2.1	1,036.07	3.2

注1) 本表は、「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

③ 農地(細種別)の変化

農地(細種別)の緑被率について地域別に見ると、西部地域の水田が 3.3%と比較的多い状況であったが、ほかは全て1%程度以下と少ない状況であった。また、平成 2(1990)年と比較すると 3 地域とも全ての種別で減少していた。

行政区別の農地(細種別)の緑被率の変化を見ると、水田の緑被率は中川区で 5.2 ポイント、守山区で 3.8 ポイント、港区で 3.2 ポイント減少しており、特に矢田川・庄内川の右岸側(北・西側)の農地の減少が多い状況であった。また、畑の緑被率は中川区で 4.8 ポイント、緑区で 3.2 ポイント減少しており、西部・東部地域で畑が満遍なく減少している状況であった。

表 I-37：地域区分別・行政区別の農地細種別の変化

地域区分	行政区	農地(細種別) 増減 (R2-H2)							
		水田		畑		果樹園		その他農地	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイ)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイ)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイ)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイ)
西部地域	北区	▲41.65	▲2.4	▲29.38	▲1.6	▲2.01	▲0.1	▲0.53	0.0
	西区	▲19.70	▲1.1	▲46.93	▲2.6	▲0.64	▲0.1	0.30	0.0
	中村区	▲18.57	▲1.2	▲45.79	▲2.8	▲2.10	▲0.1	▲0.38	0.0
	中川区	▲167.20	▲5.2	▲152.51	▲4.8	▲6.53	▲0.2	▲11.86	▲0.4
	港区	▲144.17	▲3.2	▲87.69	▲1.9	▲2.69	▲0.1	1.70	0.0
	小計	▲391.29	▲3.0	▲362.30	▲2.8	▲13.97	▲0.1	▲10.77	▲0.1
中央部地域	東区	-	-	▲0.23	0.0	▲0.01	0.0	▲0.01	0.0
	中区	-	-	▲0.03	0.0	-	-	-	-
	昭和区	-	-	▲3.28	▲0.3	0.01	0.0	▲0.05	0.0
	瑞穂区	0.08	0.0	▲7.72	▲0.7	▲0.56	▲0.1	▲0.09	0.0
	熱田区	-	-	▲0.57	▲0.1	-	-	▲0.02	0.0
	南区	▲1.19	▲0.1	▲21.03	▲1.1	▲0.94	▲0.1	▲0.80	0.0
	小計	▲1.11	0.0	▲32.86	▲0.5	▲1.50	0.0	▲0.97	0.0
東部地域	千種区	▲0.04	0.0	▲8.65	▲0.5	1.19	0.1	▲0.07	0.0
	守山区	▲130.62	▲3.8	▲96.55	▲2.9	▲8.54	▲0.2	▲3.44	▲0.1
	緑区	▲33.74	▲0.9	▲117.87	▲3.2	▲36.63	▲1.0	▲12.36	▲0.3
	名東区	▲5.37	▲0.3	▲29.01	▲1.5	▲0.92	0.0	0.09	0.0
	天白区	▲0.92	0.0	▲51.51	▲2.4	▲12.14	▲0.5	▲18.44	▲0.9
	小計	▲170.69	▲1.3	▲303.59	▲2.4	▲57.04	▲0.5	▲34.22	▲0.3
合計		▲563.09	▲1.7	▲698.75	▲2.2	▲72.52	▲0.2	▲45.96	▲0.1

注 1) 本表は、「平成 2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和 2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)
注 2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。

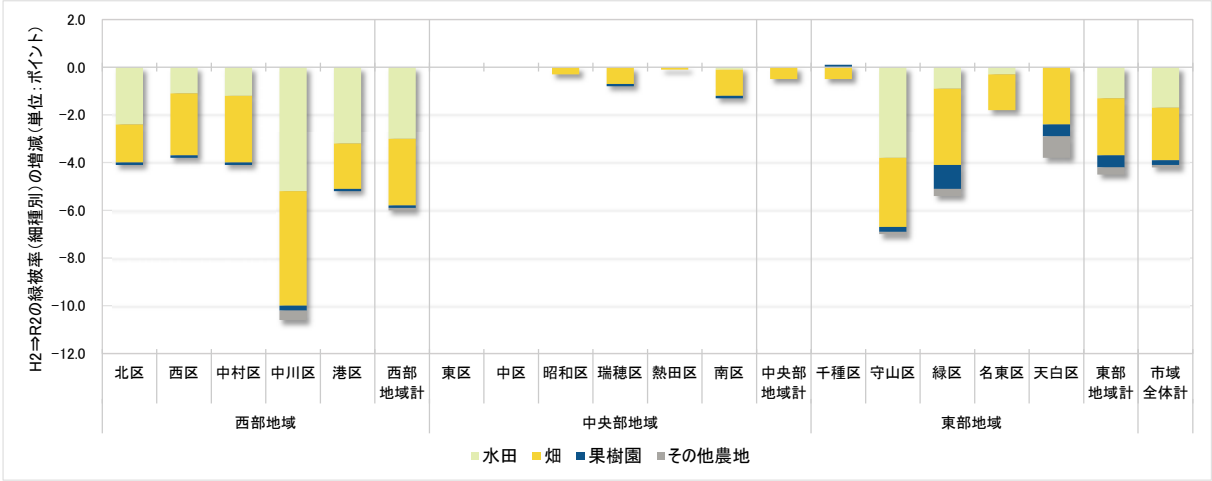


図 I-62：地域区分別・行政区別の農地(細種別)緑被率の増減

表 I-38 : 地域区分別・行政区別の農地細種別の緑被地面積及び緑被率 (平成2(1990)年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	農地(細種別)(H2)							
			水田		畑		果樹園		その他農地	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,755.00	52.23	3.0	44.34	2.5	2.44	0.1	0.61	0.0
	西区	1,790.00	21.12	1.2	57.39	3.2	0.94	0.1	0.38	0.0
	中村区	1,632.00	22.23	1.4	66.97	4.1	2.13	0.1	0.55	0.0
	中川区	3,201.00	263.01	8.2	214.33	6.7	8.69	0.3	16.46	0.5
	港区	4,557.00	453.73	10.0	147.82	3.2	4.41	0.1	4.12	0.1
	小計	12,935.00	812.32	6.3	530.85	4.1	18.61	0.1	22.12	0.2
中央部地域	東区	772.00	-	-	0.38	0.0	0.05	0.0	0.01	0.0
	中区	936.00	-	-	0.05	0.0	-	-	-	-
	昭和区	1,093.00	-	-	4.07	0.4	0.03	0.0	0.07	0.0
	瑞穂区	1,123.00	-	-	10.47	0.9	0.84	0.1	0.09	0.0
	熱田区	816.00	-	-	0.84	0.1	-	-	0.02	0.0
	南区	1,847.00	1.19	0.1	29.39	1.6	1.15	0.1	0.82	0.0
	小計	6,587.00	1.19	0.0	45.20	0.7	2.07	0.0	1.01	0.0
東部地域	千種区	1,824.00	0.08	0.0	10.62	0.6	0.51	0.0	1.10	0.1
	守山区	3,402.00	149.47	4.4	142.10	4.2	18.06	0.5	6.41	0.2
	緑区	3,786.00	37.68	1.0	172.69	4.6	45.24	1.2	19.30	0.5
	名東区	1,946.00	5.99	0.3	40.04	2.1	3.94	0.2	0.31	0.0
	天白区	2,157.00	1.00	0.0	88.40	4.1	34.88	1.6	20.80	1.0
	小計	13,115.00	194.22	1.5	453.85	3.5	102.63	0.8	47.92	0.4
合計		32,637.00	1,007.73	3.1	1,029.90	3.2	123.32	0.4	71.05	0.2

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I-39 : 地域区分別・行政区別の農地細種別の緑被地面積及び緑被率 (令和2(2020)年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	農地(細種別)(R2)							
			水田		畑		果樹園		その他農地	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,753.00	10.58	0.6	14.96	0.9	0.43	0.0	0.08	0.0
	西区	1,793.00	1.42	0.1	10.46	0.6	0.30	0.0	0.68	0.0
	中村区	1,630.00	3.66	0.2	21.18	1.3	0.03	0.0	0.17	0.0
	中川区	3,202.00	95.81	3.0	61.82	1.9	2.16	0.1	4.60	0.1
	港区	4,568.00	309.56	6.8	60.13	1.3	1.72	0.0	5.82	0.1
	小計	12,946.00	421.03	3.3	168.55	1.3	4.64	0.0	11.35	0.1
中央部地域	東区	771.00	-	-	0.15	0.0	0.04	0.0	-	-
	中区	938.00	-	-	0.02	0.0	-	-	-	-
	昭和区	1,094.00	-	-	0.79	0.1	0.04	0.0	0.02	0.0
	瑞穂区	1,122.00	0.08	0.0	2.75	0.2	0.28	0.0	-	-
	熱田区	820.00	-	-	0.27	0.0	-	-	-	-
	南区	1,846.00	-	-	8.36	0.5	0.21	0.0	0.02	0.0
	小計	6,591.00	0.08	0.0	12.34	0.2	0.57	0.0	0.04	0.0
東部地域	千種区	1,818.00	0.04	0.0	1.97	0.1	1.70	0.1	1.03	0.1
	守山区	3,401.00	18.85	0.6	45.55	1.3	9.52	0.3	2.97	0.1
	緑区	3,791.00	3.94	0.1	54.82	1.4	8.61	0.2	6.94	0.2
	名東区	1,945.00	0.62	0.0	11.03	0.6	3.02	0.2	0.40	0.0
	天白区	2,158.00	0.08	0.0	36.89	1.7	22.74	1.1	2.36	0.1
	小計	13,113.00	23.53	0.2	150.26	1.1	45.59	0.3	13.70	0.1
合計		32,650.00	444.64	1.4	331.15	1.0	50.80	0.2	25.09	0.1

注1) 本表は、「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

④ 水面(細種別)の変化

水面(細種別)の緑被率について地域別に見ると、西部地域の河川が 4.6%と比較的多い状況であったが、ほかの地域の各細種別は全て 1%程度以下と少ない状況であった。また、平成 2(1990)年と比較すると 3 地域とも全ての細種別で大きな変化はなかったと考えられる。

行政区別の水面(細種別)の緑被率の変化を見ると、河川の緑被率が港区で 0.3 ポイント減少しているが、これは河川の埋立てや土地区画整理事業に伴う水路の減少等に起因すると考えられた。また、ため池の緑被率は港区で 0.5 ポイント減少しているが、これは、主に湾岸エリアの貯木場(8号地)の埋立てによるものと考えられた。

表 I-40：地域区分別・行政区別の水面細種別の変化

地域区分	行政区	水面(細種別)増減(R2-H2)			
		河川		ため池	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	▲1.70	▲0.1	▲1.01	▲0.1
	西区	2.99	0.2	0.17	0.0
	中村区	6.49	0.4	▲0.26	▲0.1
	中川区	11.56	0.4	0.50	0.0
	港区	▲10.81	▲0.3	▲23.62	▲0.5
	小計	8.53	0.0	▲24.22	▲0.2
中央部地域	東区	▲0.12	▲0.1	0.37	0.1
	中区	▲0.97	▲0.1	▲0.43	▲0.1
	昭和区	▲0.74	▲0.1	0.00	0.0
	瑞穂区	▲0.68	0.0	▲0.02	0.0
	熱田区	0.40	0.1	1.23	0.2
	南区	▲8.66	▲0.4	▲0.16	0.0
	小計	▲10.77	▲0.2	0.99	0.0
東部地域	千種区	▲0.75	0.0	▲0.02	0.0
	守山区	▲4.94	▲0.2	1.80	0.1
	緑区	2.77	0.1	▲5.53	▲0.2
	名東区	▲2.75	▲0.2	2.21	0.1
	天白区	1.11	0.0	▲1.59	▲0.1
	小計	▲4.56	0.0	▲3.13	0.0
合計		▲6.81	▲0.1	▲26.35	▲0.1

注 1) 本表は、「平成 2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和 2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)
注 2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。

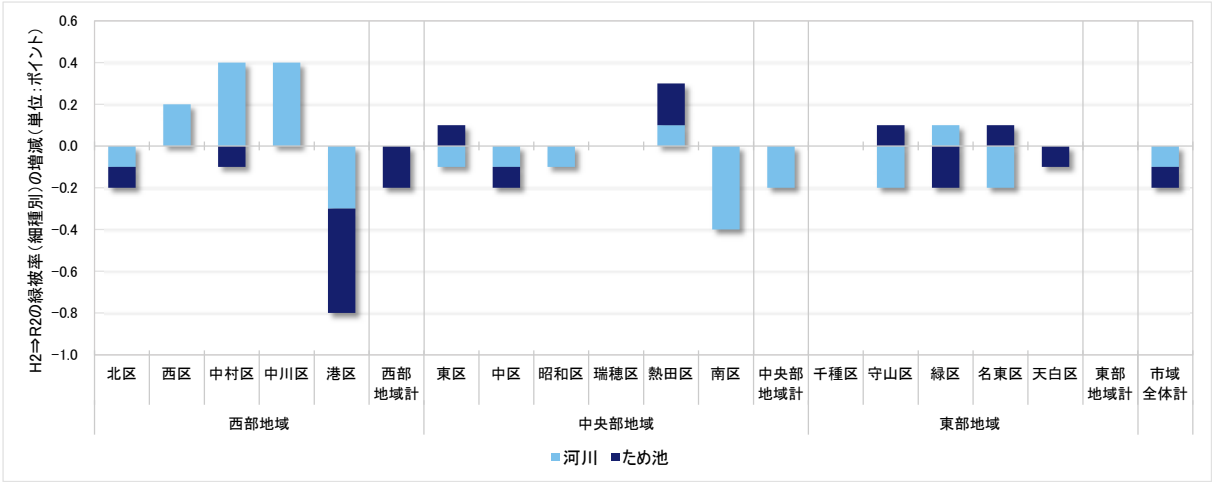


図 I-63：地域区分別・行政区別の水面(細種別)緑被率の増減

表 I-41：地域区分別・行政区別の水面細種別の緑被地面積及び緑被率（平成2(1990)年）

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	水面(細種別)(H2)			
			河川		ため池	
			緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	1,755.00	51.17	2.9	2.73	0.2
	西区	1,790.00	44.92	2.5	2.70	0.2
	中村区	1,632.00	37.56	2.3	0.82	0.1
	中川区	3,201.00	151.03	4.7	0.39	0.0
	港区	4,557.00	304.03	6.7	26.45	0.6
	小計	12,935.00	588.71	4.6	33.09	0.3
中央部地域	東区	772.00	2.77	0.4	0.03	0.0
	中区	936.00	8.43	0.9	8.05	0.9
	昭和区	1,093.00	2.02	0.2	1.78	0.2
	瑞穂区	1,123.00	5.88	0.5	0.04	0.0
	熱田区	816.00	23.02	2.8	0.10	0.0
	南区	1,847.00	54.01	2.9	1.14	0.1
	小計	6,587.00	96.13	1.5	11.14	0.2
東部地域	千種区	1,824.00	5.99	0.3	11.15	0.6
	守山区	3,402.00	66.57	2.0	44.38	1.3
	緑区	3,786.00	49.51	1.3	40.17	1.1
	名東区	1,946.00	9.17	0.5	19.83	1.0
	天白区	2,157.00	16.76	0.8	12.44	0.6
	小計	13,115.00	148.00	1.1	127.97	1.0
合計		32,637.00	832.85	2.6	172.19	0.5

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I-42：地域区分別・行政区別の水面細種別の緑被地面積及び緑被率（令和2(2020)年）

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	水面(細種別)(R2)			
			河川		ため池	
			緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	1,753.00	49.47	2.8	1.72	0.1
	西区	1,793.00	47.91	2.7	2.87	0.2
	中村区	1,630.00	44.05	2.7	0.56	0.0
	中川区	3,202.00	162.59	5.1	0.89	0.0
	港区	4,568.00	293.22	6.4	2.83	0.1
	小計	12,946.00	597.24	4.6	8.87	0.1
中央部地域	東区	771.00	2.65	0.3	0.40	0.1
	中区	938.00	7.46	0.8	7.62	0.8
	昭和区	1,094.00	1.28	0.1	1.78	0.2
	瑞穂区	1,122.00	5.20	0.5	0.02	0.0
	熱田区	820.00	23.42	2.9	1.33	0.2
	南区	1,846.00	45.35	2.5	0.98	0.1
	小計	6,591.00	85.36	1.3	12.13	0.2
東部地域	千種区	1,818.00	5.24	0.3	11.13	0.6
	守山区	3,401.00	61.63	1.8	46.18	1.4
	緑区	3,791.00	52.28	1.4	34.64	0.9
	名東区	1,945.00	6.42	0.3	22.04	1.1
	天白区	2,158.00	17.87	0.8	10.85	0.5
	小計	13,113.00	143.44	1.1	124.84	1.0
合計		32,650.00	826.04	2.5	145.84	0.4

注1) 本表は、「令和2(2020)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

3-4-2. 行政区別カルテ

行政区ごとの緑被の状況を把握するため、行政区別にカルテを作成し、各行政区における緑被率の推移の特徴を整理した。行政区別カルテの構成は以下のとおりである。

(No.) 行政区名	
■ 所見 ・ 緑被の概況 ・ 緑被の経年変化	
令和2(2020)年の緑被率	4種別緑被率の推移
〔 R2 緑被率の 円グラフ 〕	〔 4種別緑被率の 積み上げ横棒グラフ 〕
令和2(2020)年の緑被地現況図	
〔 R2 緑被地現況図 〕	

(1) 千種区

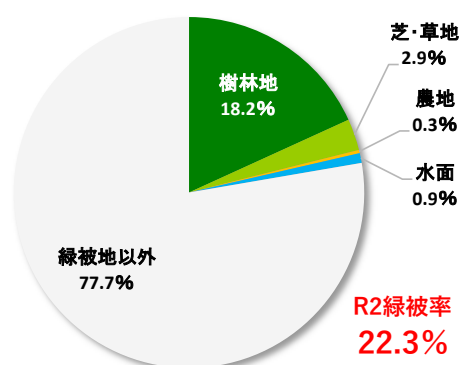
■緑被の概況

- ・千種区の緑被率は22.3%であり、全16区中で第6位であった。
- ・緑被地の多くを高木が占めている。
- ・区内には東山公園や平和公園、茶屋ヶ坂公園、鹿子公園、吹上公園をはじめとする都市公園・墓地のほか、城山八幡宮、日泰寺等の社寺や、名古屋大学東山キャンパスなどによる樹林地等がまとまって存在している。

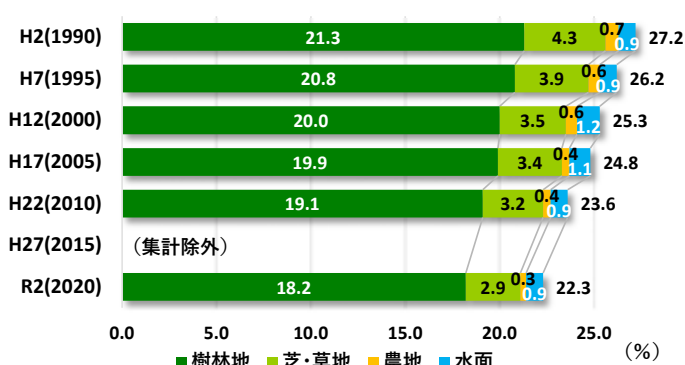
■緑被の経年変化

- ・ H2 から R2 の 30 年間で、緑被率は 4.9 ポイント減少、緑被地面積は 90.47ha 減少した。
- ・ その中でも特に樹林地の減少幅が大きく、樹林地の緑被率は 3.1 ポイント減少、面積は 56.54ha 減少した。

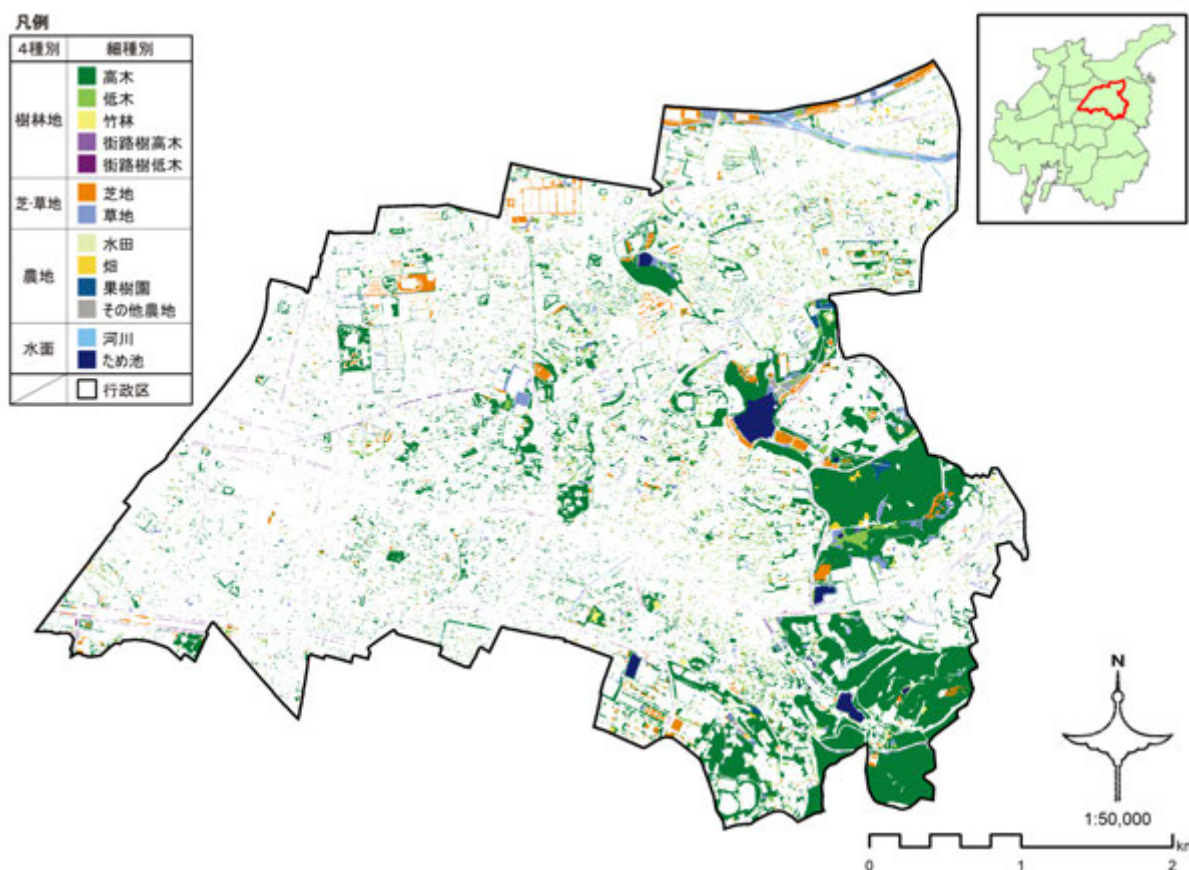
令和 2 (2020) 年の緑被率



4 種別緑被率の推移



令和 2 (2020) 年の緑被地現況図



(2) 東区

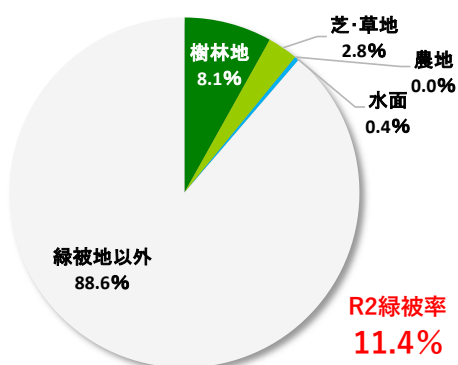
■緑被の概況

- ・東区の緑被率は11.4%であり、全16区中で第16位であった。
- ・全体の緑被率が低いのは、東区が街道筋の商業・住宅地区を中心に工業地として発展してきた経緯があり、市街化が著しく進行していることによるものと考えられる。
- ・なお、矢田川の河川敷や木ヶ崎公園、大幸公園をはじめとした都市公園のほか、徳川園や長母寺、徳源寺、建中寺、片山神社等の社寺林など、まとまった緑も存在している。

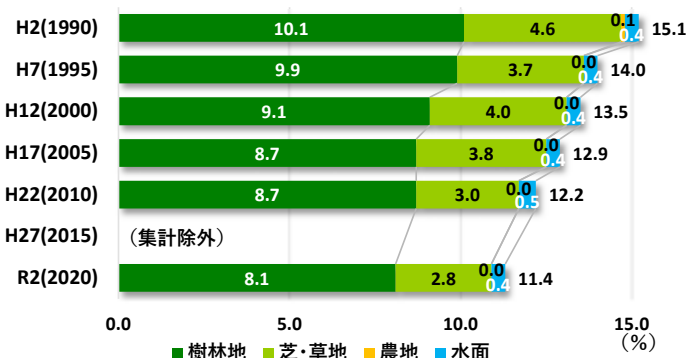
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は3.7ポイント減少、緑被地面積は28.67ha減少した。
- ・緑被率の減少幅の少なさランキングでは、全16区中で第3位（ベスト3位）であった。

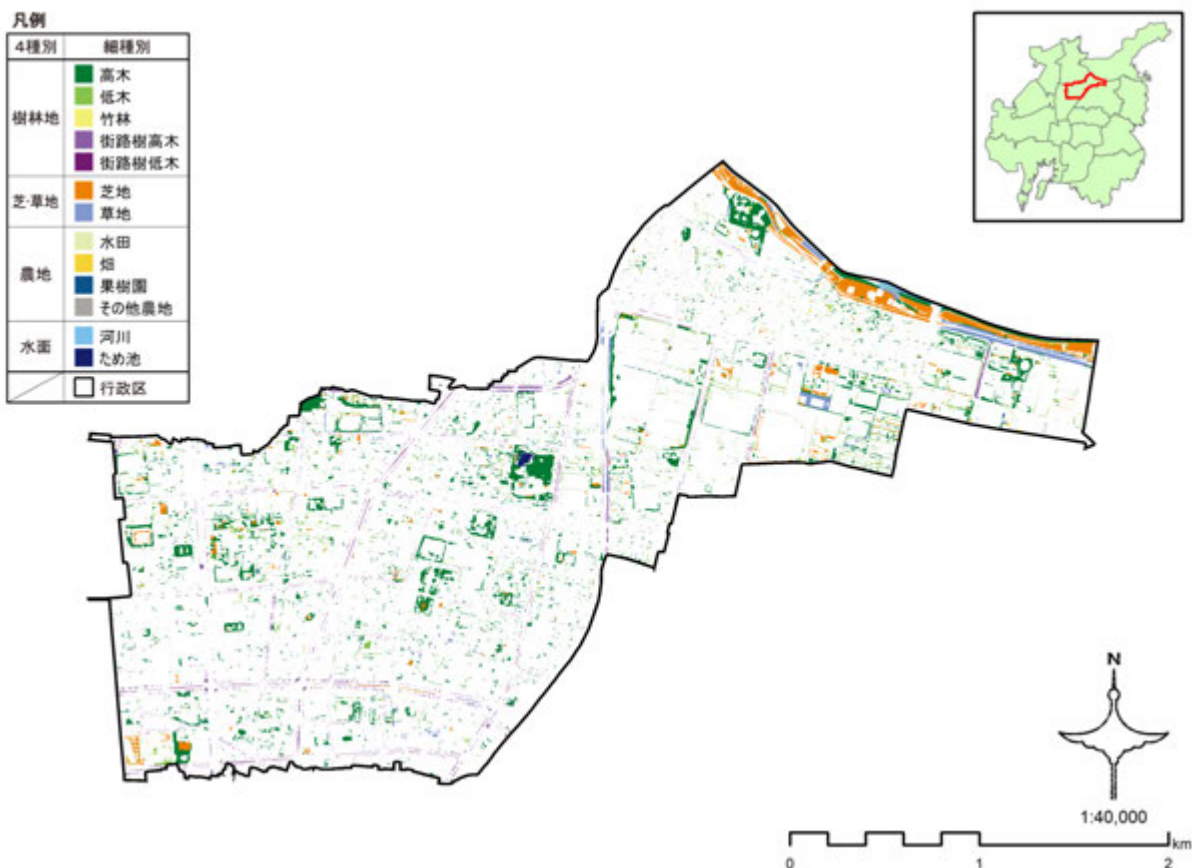
令和2(2020)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図



(3) 北区

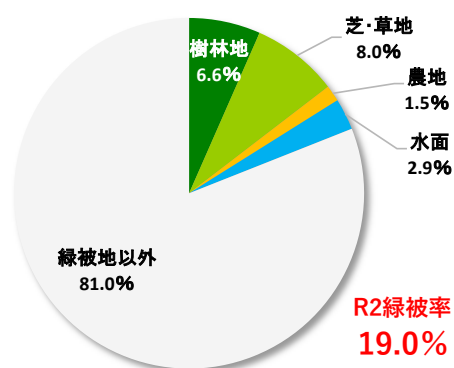
■緑被の概況

- ・北区の緑被率は19.0%であり、全16区中で第8位であった。
- ・区内の中央部には庄内川、矢田川が流れ、その河川敷には芝・草地がまとまって存在している。
- ・また、区内には新地蔵川や堀川も流れ、連続した緑被地を形成しているほか、名城公園（北園）や志賀公園、楠公園等の都市公園の緑被地もまとまって存在している。

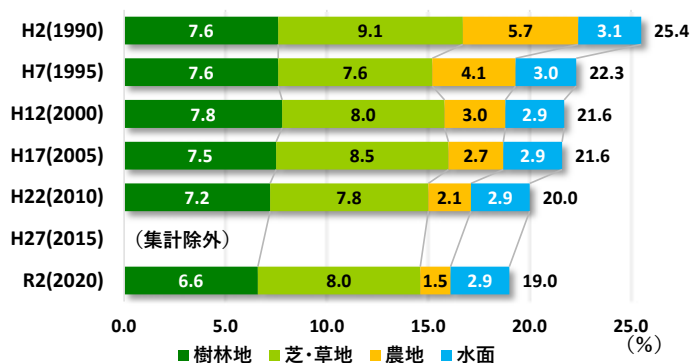
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は6.4ポイント減少、緑被地面積は112.84ha減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は4.2ポイント減少、面積は73.58ha減少した。

令和2(2020)年の緑被率

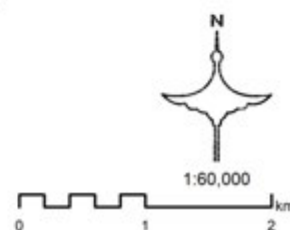
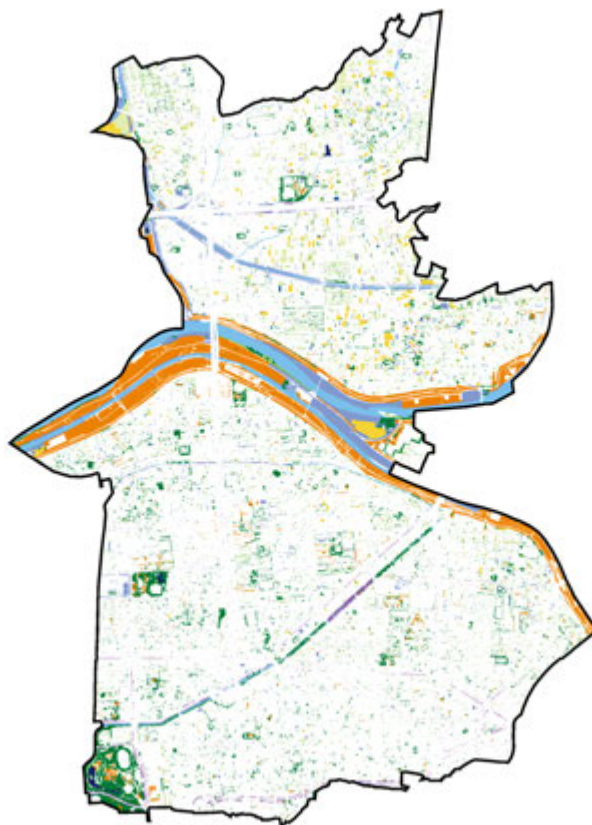


4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

凡例	
4種別	細種別
樹林地	 高木
	 低木
	 竹林
	 街路樹高木
	 街路樹低木
芝・草地	 芝地
	 草地
農地	 水田
	 畑
	 果樹園
	 その他農地
水面	 河川
	 ため池
	 行政区



(4) 西区

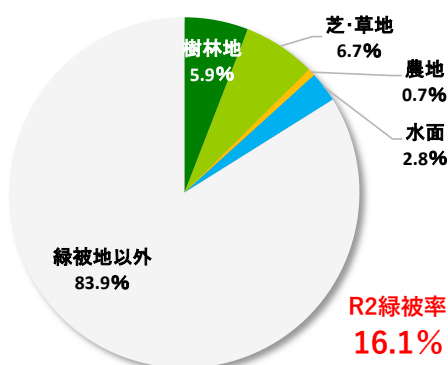
■緑被の概況

- ・西区の緑被率は16.1%であり、全16区中で第9位であった。
- ・区内の中央部には庄内川が流れ、その河川敷の芝・草地と庄内緑地、洗堰緑地、蛇池公園等が特にまとまった緑被地となっている。
- ・また、区内には新川や水場川、庄内用水も流れ、連続した緑被地を形成している。

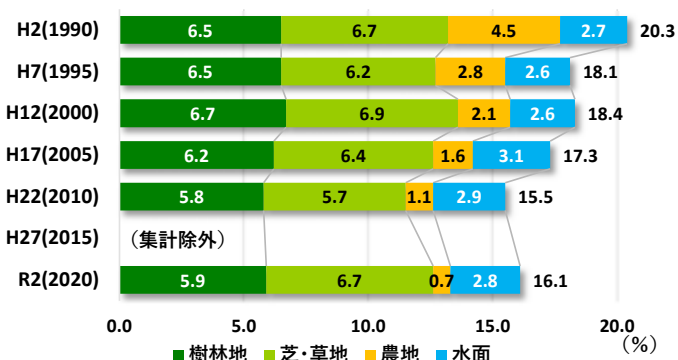
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は4.2ポイント減少、緑被地面積は74.62ha減少した。
- ・緑被率の減少幅の少なさランキングでは、全16区中で第4位（ベスト4位）であった。
- ・経年変化を見ると、全体的には減少傾向を示しているが、調査年度によって増加していることもある。これは、遷移と攪乱の影響を受けやすい芝・草地の比率が高いことによるものと考えられた。

令和2(2020)年の緑被率



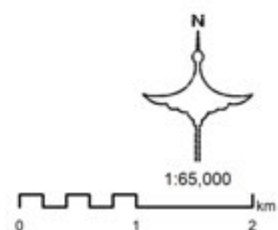
4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

凡例

4種別	細種別
樹林地	■ 高木
	■ 低木
	■ 竹林
芝・草地	■ 街路樹高木
	■ 街路樹低木
農地	■ 芝地
	■ 草地
	■ 水田
	■ 畑
水面	■ 果樹園
	■ その他農地
水面	■ 河川
	■ ため池
	□ 行政区



(5) 中村区

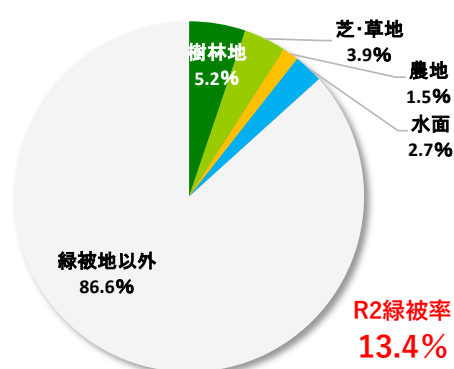
■緑被の概況

- ・中村区の緑被率は13.4%であり、全16区中で第12位であった。
- ・区の北西部には庄内川が流れ、その河川敷周辺には枇杷島橋緑地や大正橋緑地、横井山緑地といった都市計画緑地をはじめ、農地も点在しているほか、区の西部には中村公園（豊国神社）や稲葉地公園等のまとまった緑被地も存在している。
- ・区の東部には、名古屋駅やささしまライブ等が立地し、まとまった緑被地は少ないが、街路樹や民間施設等の緑化（芝地）が散見される。

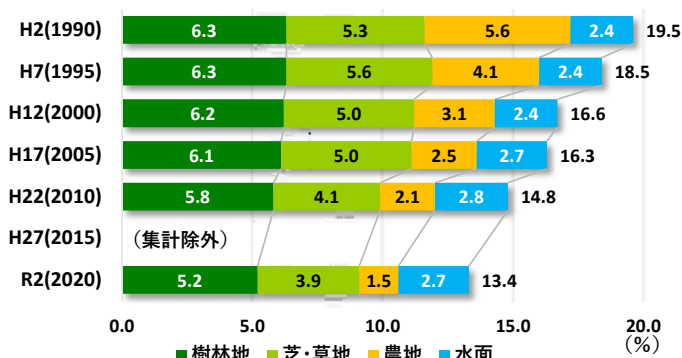
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は6.1ポイント減少、緑被地面積は100.01ha減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は4.1ポイント減少、面積は66.83ha減少した。

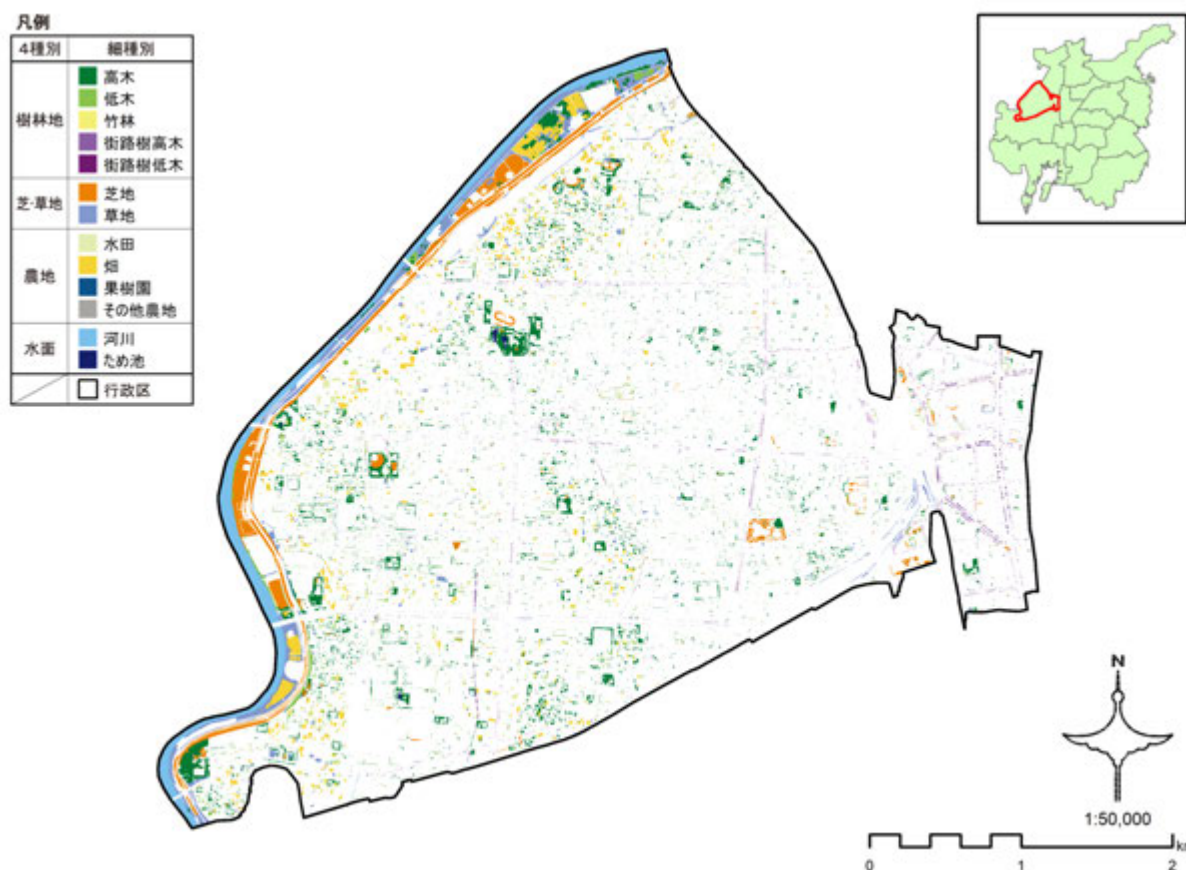
令和2(2020)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図



(6) 中区

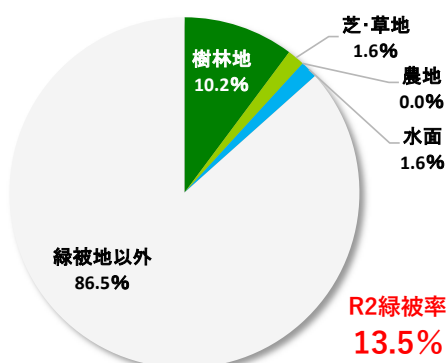
■緑被の概況

- ・中区の緑被率は13.5%であり、全16区中で第11位であった。
- ・本市の中心市街地にありながら、名城公園（外堀も含む）や久屋大通公園、白川公園といった比較的大規模の都市公園の緑被地が立地するとともに、桜通、錦通、広小路通、若宮大通、伏見通り、大津通等の主要幹線道路には街路樹が植栽されている。

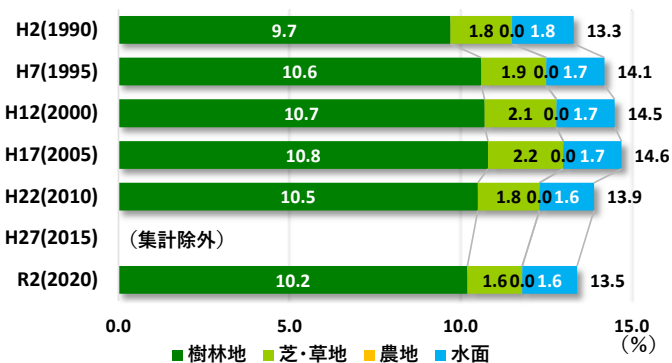
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は0.2ポイント増加、緑被地面積は2.46ha増加しており、緑被率が増加した唯一の区であった。ただし、その緑被率もH17をピークに緩やかに減少している。
- ・なお、その中でも樹林地については、経年的に増減はあるものの30年間で見ると増加しており、緑被率は0.5ポイント増加、面積は5.71ha増加した。

令和2(2020)年の緑被率



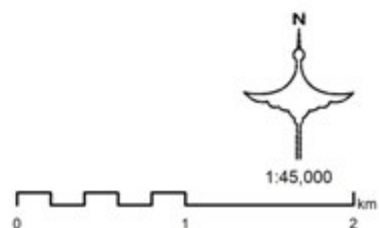
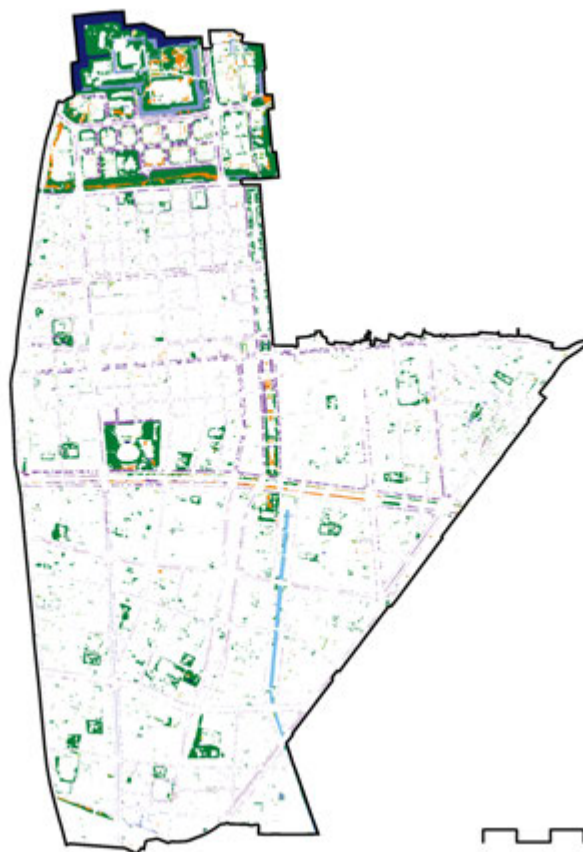
4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

凡例

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
芝・草地	街路樹高木
	街路樹低木
農地	芝地
	草地
	水田
	畑
水面	果樹園
	その他農地
	河川
行政区	ため池



(7) 昭和区

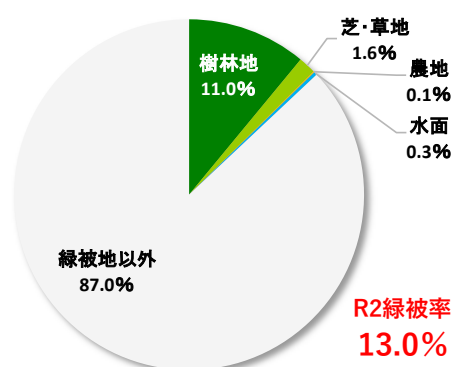
■緑被の概況

- ・昭和区の緑被率は13.0%であり、全16区中で第13位であった。
- ・区の西部には鶴舞公園がまとまった緑被地として存在している。
- ・区の中中部には南北に山崎川が流れ、平成31(2019)年3月に完成した川名公園の緑被地も存在している。
- ・区の東部は緩やかな丘陵地で、一部、風致地区にも指定されており、興正寺の社寺林のほか、南山大学(南山学園)や中京大学名古屋キャンパス、住宅地等の緑が比較的まとまって存在している。

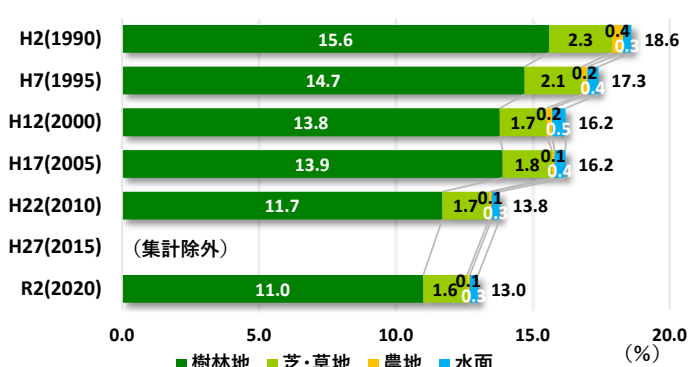
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は5.6ポイント減少、緑被地面積は60.76ha減少した。
- ・その中でも特に樹林地の減少幅が大きく、緑被率は4.6ポイント減少、面積は49.50ha減少した。

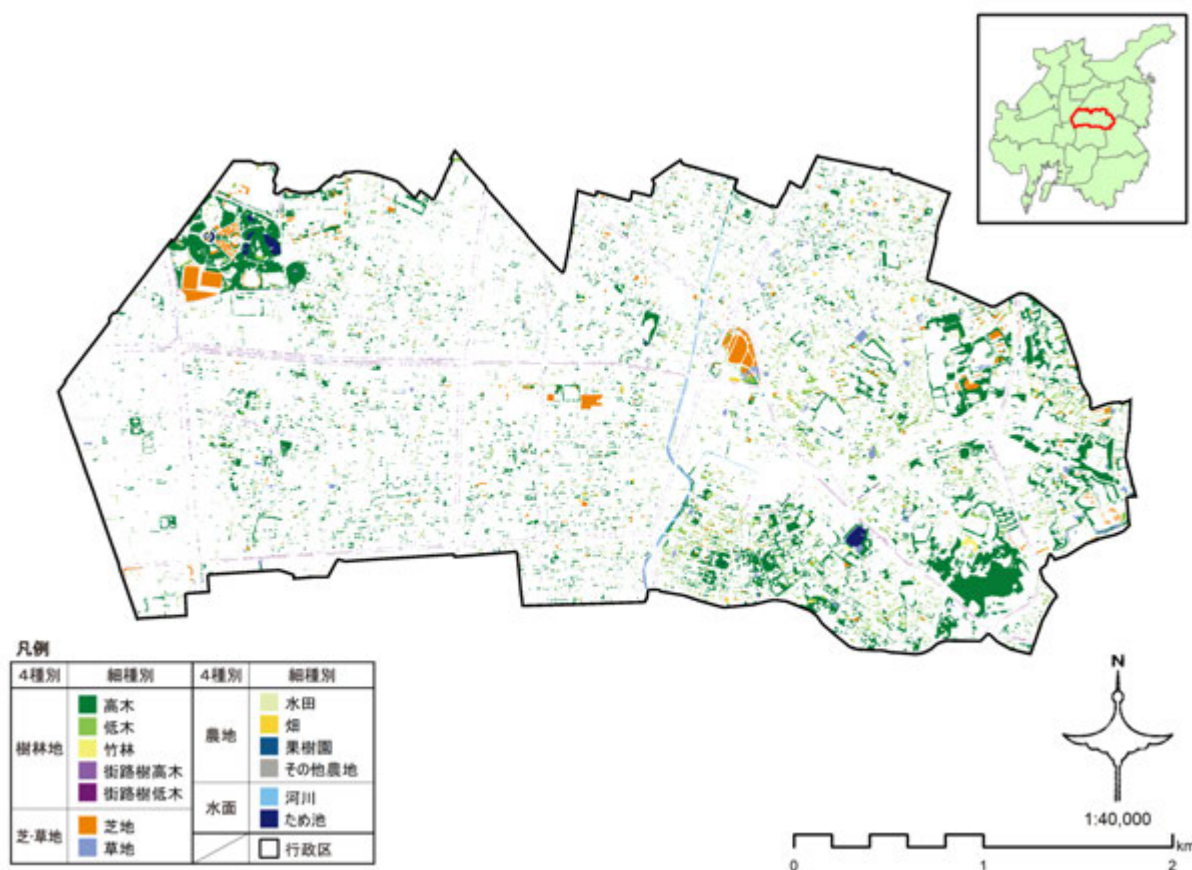
令和2(2020)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図



(8) 瑞穂区

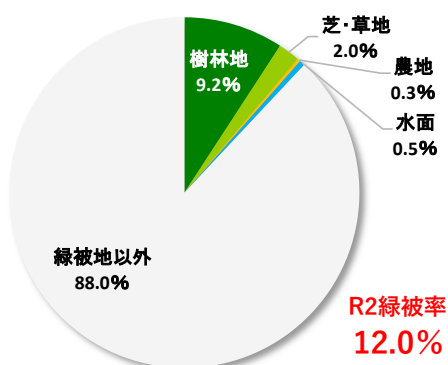
■緑被の概況

- ・瑞穂区の緑被率は12.0%であり、全16区中で第15位であった。
- ・区の中央部には山崎川が流れ、連続した緑被地となっており、これと一体となって瑞穂公園、東山荘等の緑被地が存在している。
- ・区の東部は丘陵地となっており、風致地区にも指定された住宅地等によって豊かな緑が形成されている。

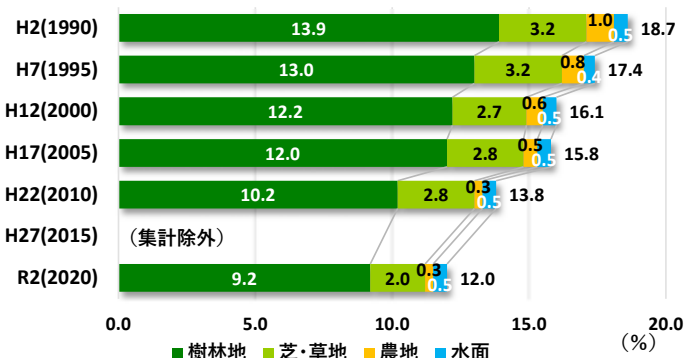
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は6.7ポイント減少、緑被地面積は75.27ha減少した。
- ・その中でも特に樹林地の減少幅が大きく、緑被率は4.7ポイント減少、面積は52.75ha減少した。

令和2(2020)年の緑被率

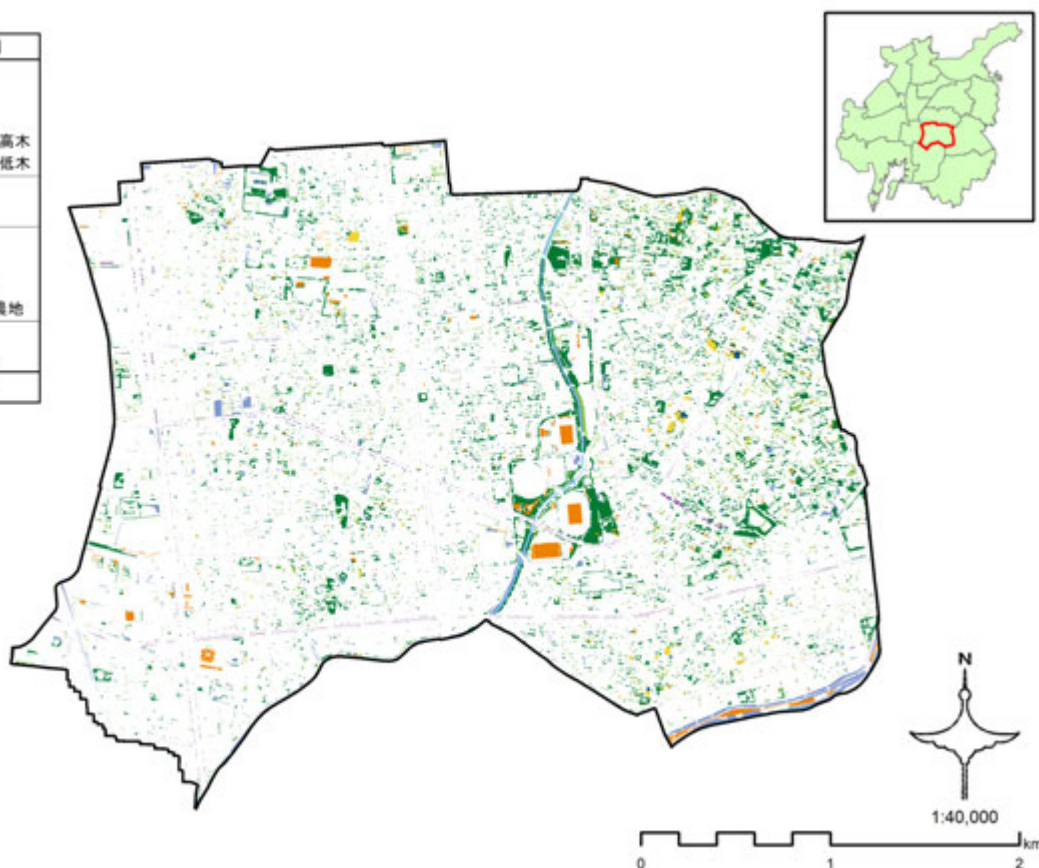


4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
芝・草地	街路樹高木
	街路樹低木
農地	芝地
	草地
	水田
	畑
水面	果樹園
	その他農地
	河川
	ため池
	行政区



(9) 熱田区

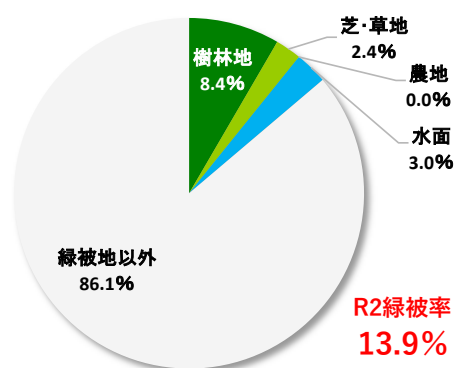
■緑被の概況

- ・熱田区の緑被率は13.9%であり、全16区中で第10位であった。
- ・区の中東部には、熱田区の象徴でもある熱田神宮が立地し、その周辺にも神宮東公園、高蔵公園、熱田神宮公園、白鳥公園、白鳥庭園など、まとまった緑被地が存在している。
- ・また、区の中央部には堀川が、東部には新堀川が流れ、連続した緑被地を形成している。

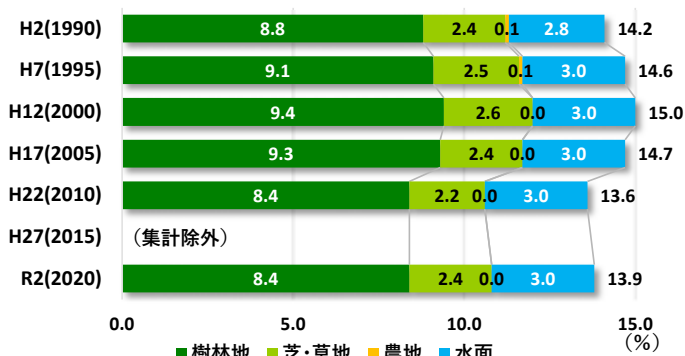
■緑被の経年変化

- ・H2 から R2 の30年間で、緑被率は0.3ポイント減少、緑被地面積は1.73ha 減少した。
- ・緑被率の減少幅の少なさランキングでは、全16区中で第2位（ベスト2位）であった。

令和2(2020)年の緑被率

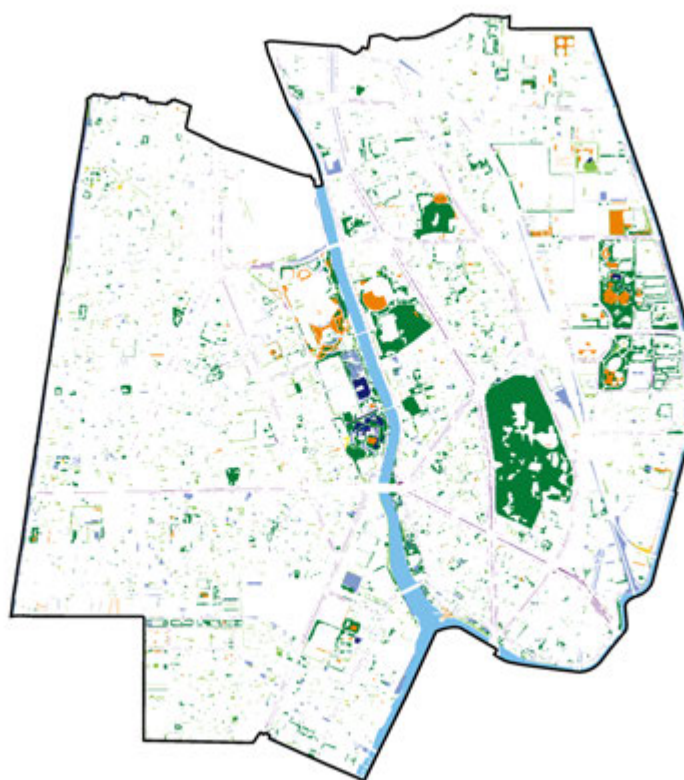


4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

凡例	
4種別	細種別
樹林地	 高木
	 低木
	 竹林
	 街路樹高木
	 街路樹低木
芝・草地	 芝地
	 草地
農地	 水田
	 畑
	 果樹園
	 その他農地
水面	 河川
	 ため池
	 行政区



(10) 中川区

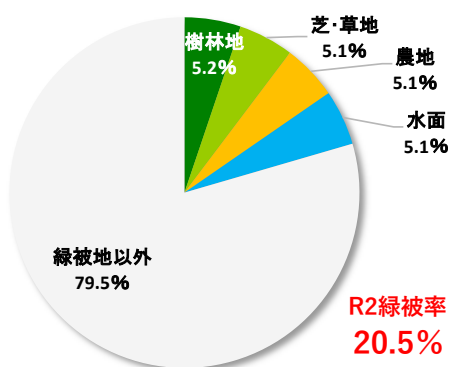
■緑被の概況

- ・中川区の緑被率は20.5%であり、全16区中で第7位であった。
- ・緑被率は4種別がほぼ均等となっていることが特徴的であったが、まとまり度の観点から見ると、芝・草地、農地、水面は比較的まとまって存在しているが、樹林地は比較的分散して存在していた。
- ・庄内川、新川をはじめとする複数の河川、水路が南北に流れ、連続した緑被地を形成している。
- ・庄内川以西にまとまった農地が存在しているが、千音寺周辺は区画整理により草地となっている。

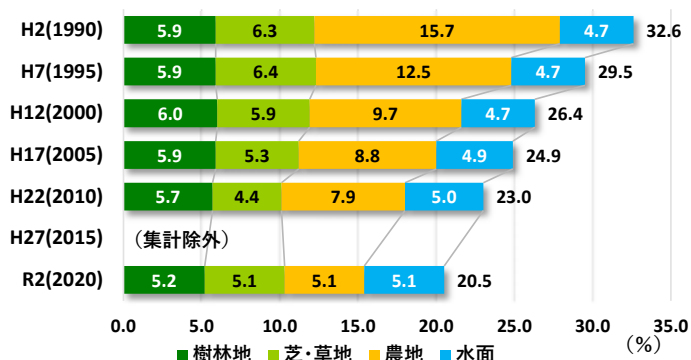
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は12.1ポイント減少、緑被地面積は386.09ha減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は10.6ポイント減少、面積は338.10ha減少した。

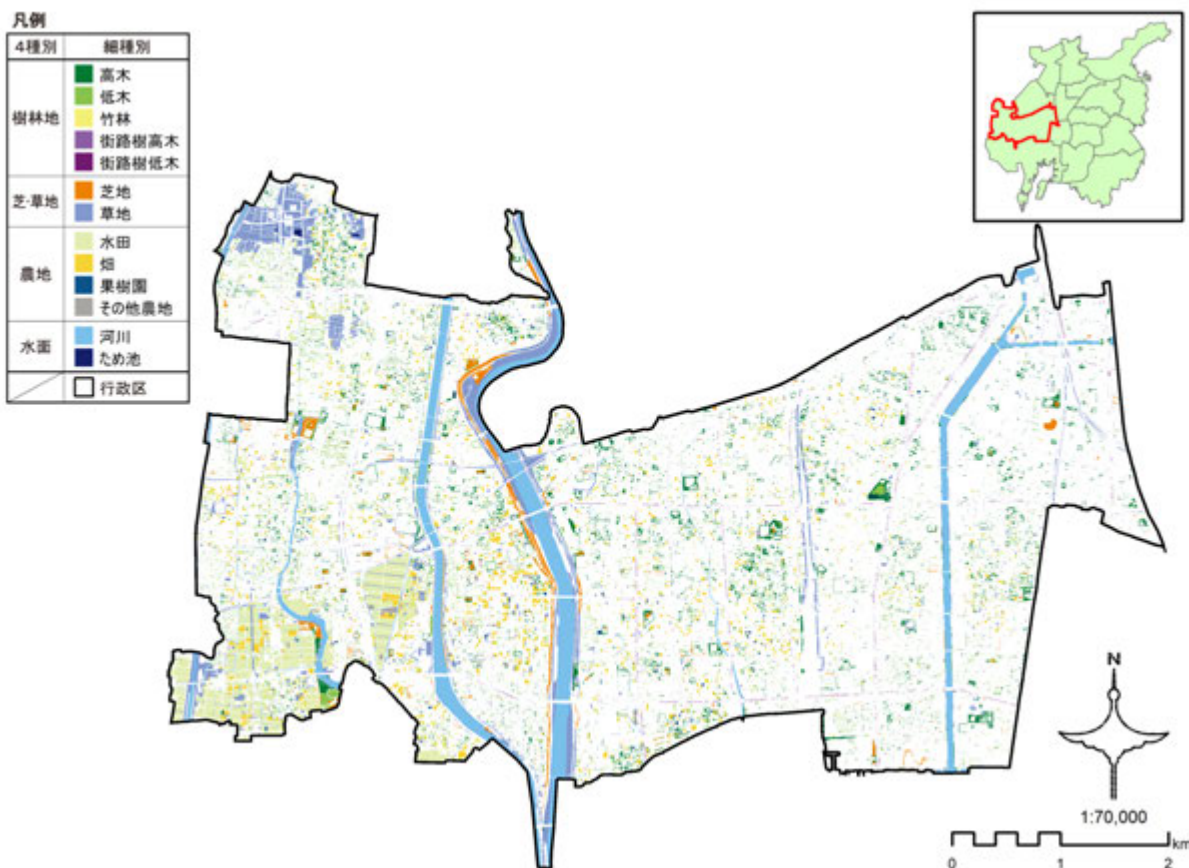
令和2(2020)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図



(11) 港区

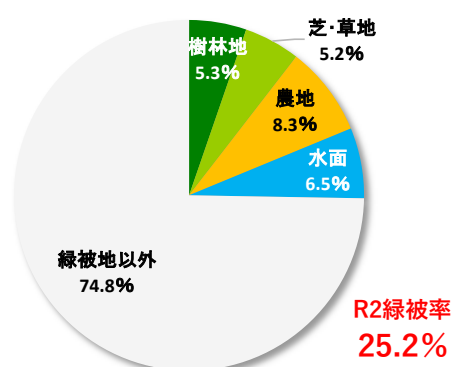
■緑被の概況

- ・港区の緑被率は25.2%であり、全16区中で第3位であった。
- ・港区は市内全ての主要河川の河口部に位置し、河川によるまとまった水面と、庄内川以西のまとまりのある農地が緑被地としての特徴であった。
- ・また、戸田川緑地や稲永公園、稲永東公園、荒子川緑地等の公園緑地のほか、臨海部の工場敷地内にもまとまった緑被地が分布している。

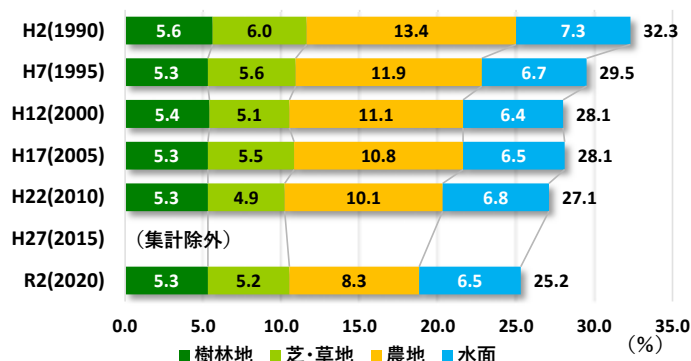
■緑被の経年変化

- ・H2 から R2 の30年間で、緑被率は7.1ポイント減少、緑被地面積は319.99ha 減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は5.1ポイント減少、面積は232.85ha 減少した。

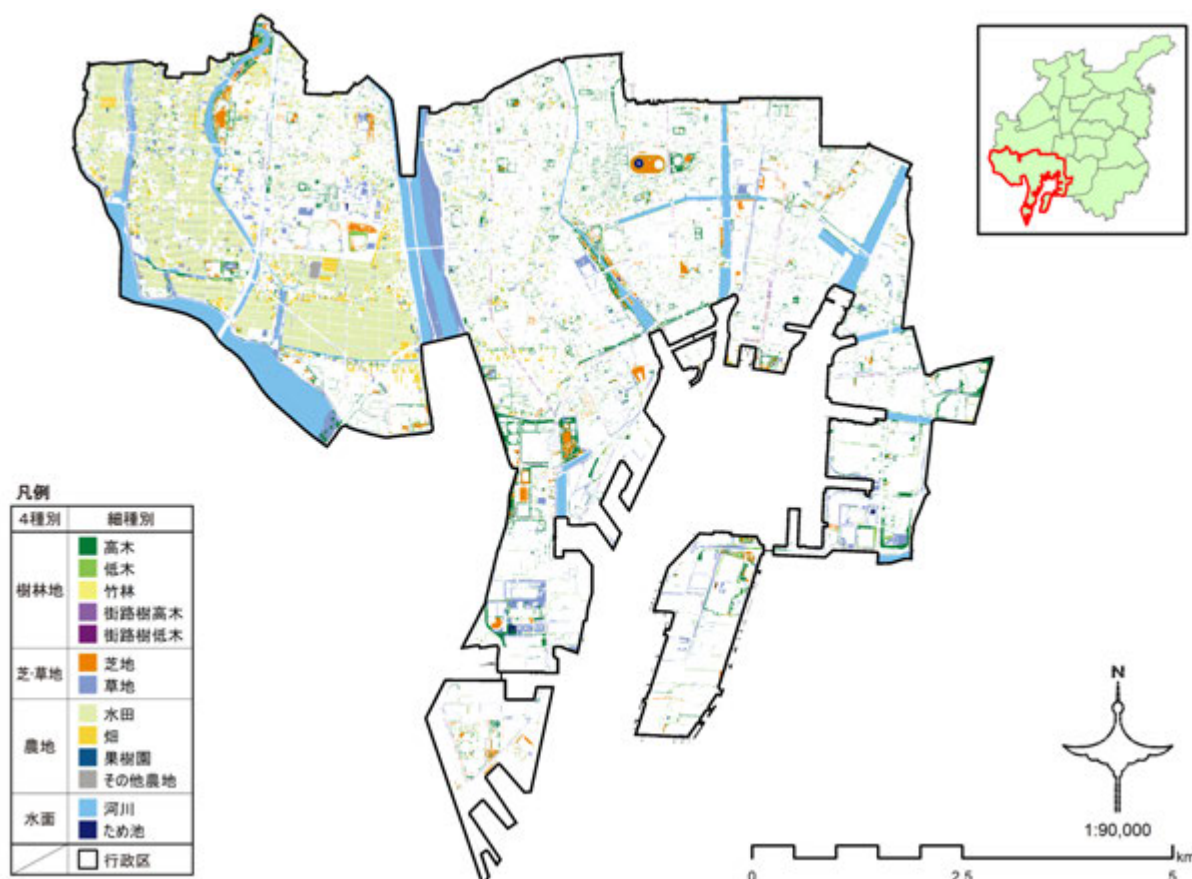
令和2(2020)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図



(12) 南区

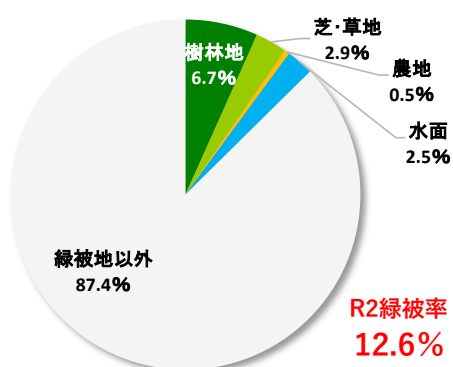
■緑被の概況

- ・南区の緑被率は12.6%であり、全16区中で第14位であった。
- ・区内には、堀川、山崎川、天白川に加えて、大江川緑地が水面、芝・草地、樹林地の連続した緑被地を形成している。
- ・また、道徳公園、呼続公園、笠寺公園等の都市公園のまとまった緑被地が存在している。

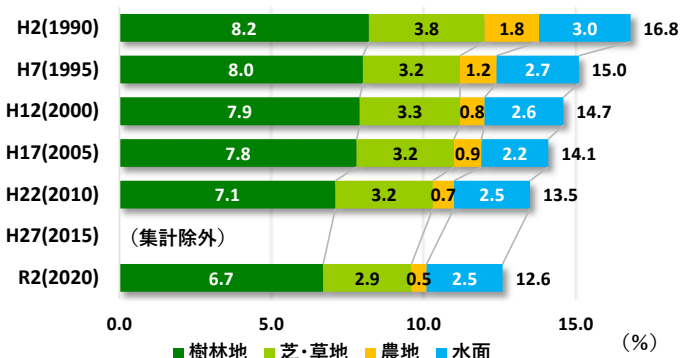
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は4.2ポイント減少、緑被地面積は78.28ha減少した。
- ・緑被率の減少幅の少なさランキングでは、全16区中で第5位（ベスト5位）であった。

令和2(2020)年の緑被率



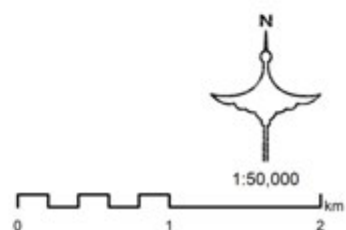
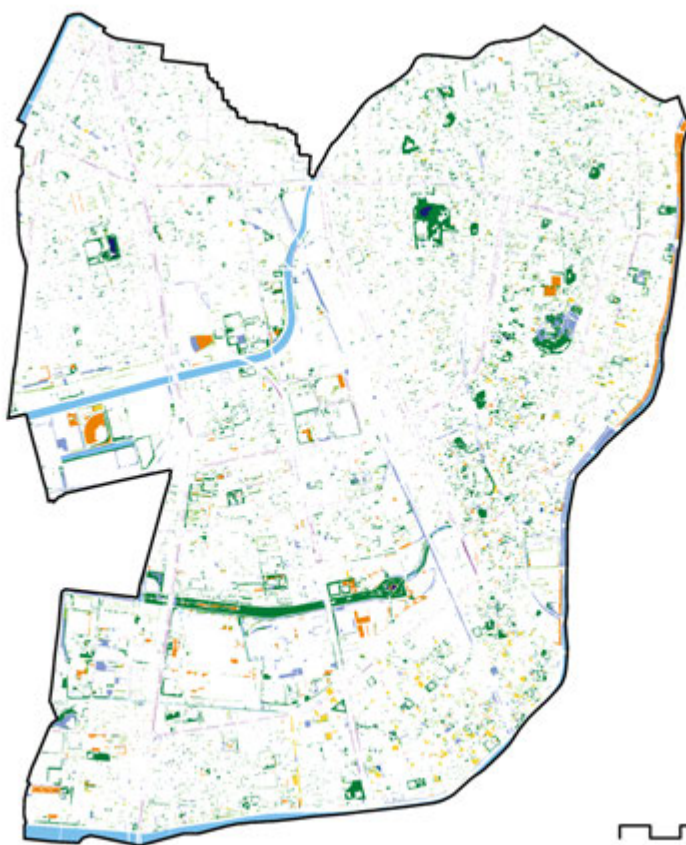
4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

凡例

4種別	細種別
樹林地	■ 高木
	■ 低木
	■ 竹林
芝・草地	■ 街路樹高木
	■ 街路樹低木
農地	■ 芝地
	■ 草地
	■ 水田
水面	■ 畑
	■ 果樹園
	■ その他農地
河川	■ 河川
	■ ため池
□ 行政区	



(13) 守山区

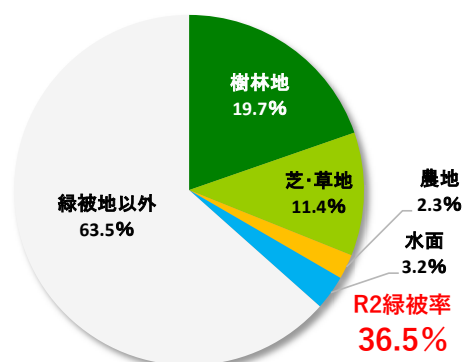
■緑被の概況

- ・守山区の緑被率は36.5%であり、全16区中で第1位であった。
- ・区内の北側を流れる庄内川、南側を流れる矢田川が連続した緑被地を形成するとともに、小幡緑地周辺から東谷山周辺にかけて一部風致地区にも指定されており、小幡緑地や東谷山、竜泉寺、ゴルフ場、住宅地等の緑などによりまとまった緑被地を形成している。

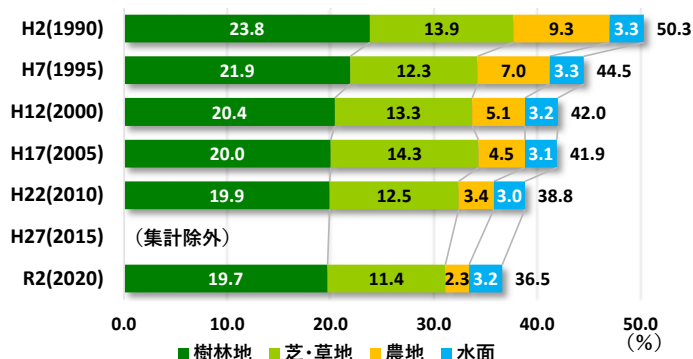
■緑被の経年変化

- ・H2 から R2 の30年間で、緑被率は13.8ポイント減少、緑被地面積は468.61ha 減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は7.0ポイント減少、面積は239.16ha 減少し、また、樹林地も緑被率が4.1ポイント減少、面積が141.15ha 減少した。

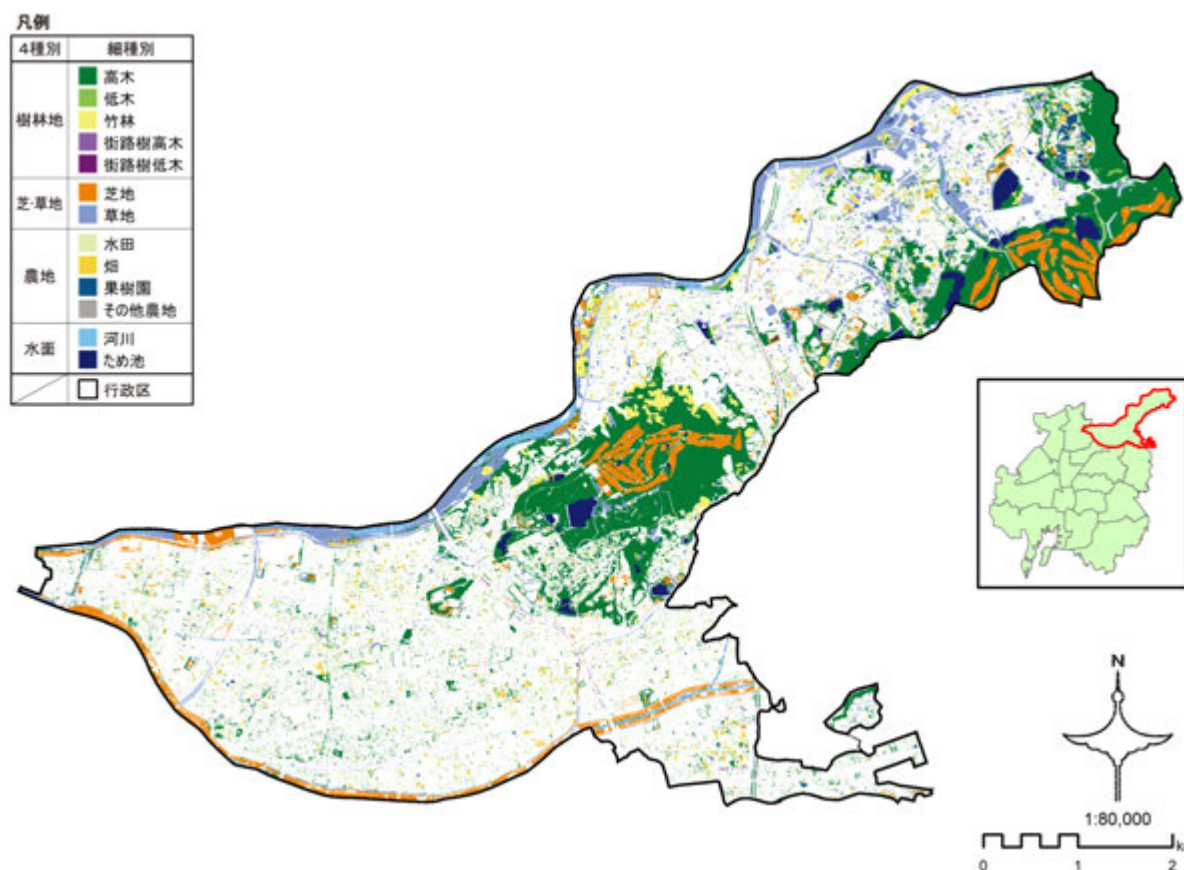
令和2(2020)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図



(14) 緑区

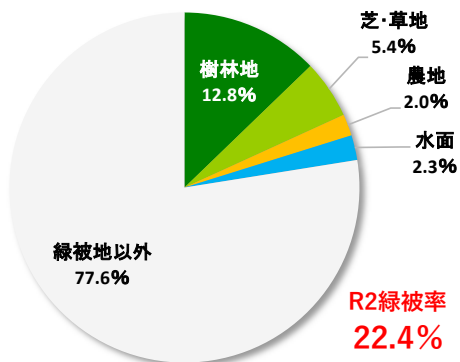
■緑被の概況

- ・緑区の緑被率は22.4%であり、全16区中で第5位であった。
- ・区の中央部には扇川が流れ、西部で天白川に合流し、連続した緑被地を形成している。
- ・区の西部から南部、東部にかけての丘陵地一帯に、氷上姉子神社や、大高城跡、鷺津砦公園、大高緑地、細根山、水広公園、ゴルフ場、勅使ヶ池墓園、徳重熊野社、乗鞍公園、滝ノ水緑地、滝の水公園、新海池公園など、多様な緑地がまとまった緑被地として点在している。

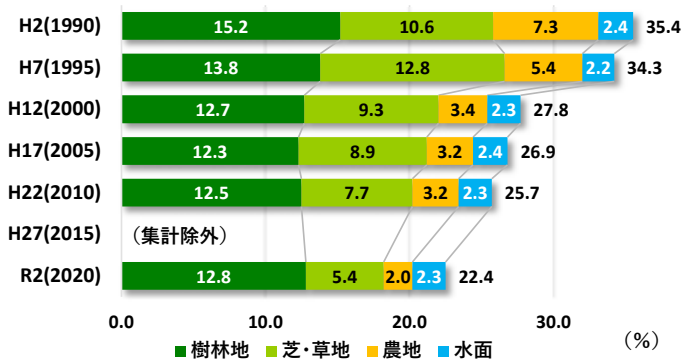
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は13.0ポイント減少、緑被地面積は548.21ha減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は5.3ポイント減少、面積は200.61ha減少し、また、芝・草地も緑被率が5.2ポイント減少、面積が194.23ha減少した。

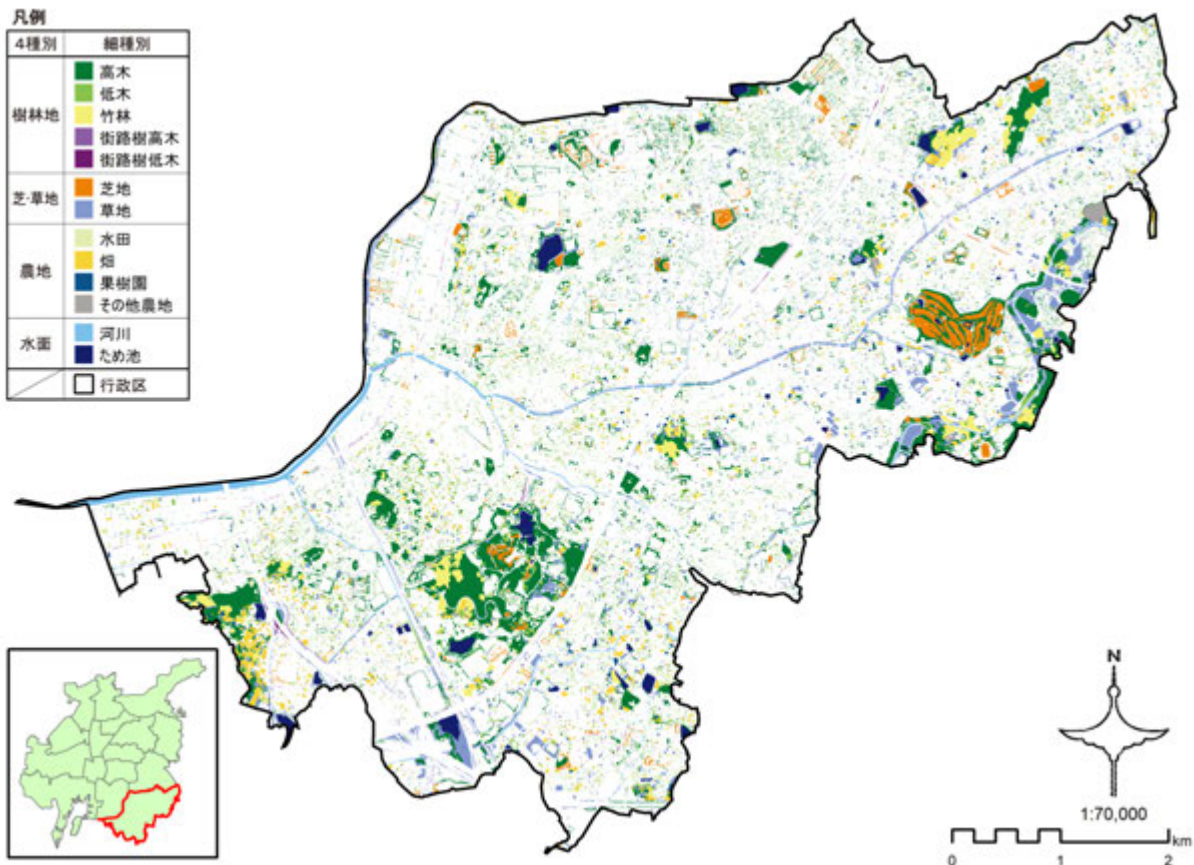
令和2(2020)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図



(15) 名東区

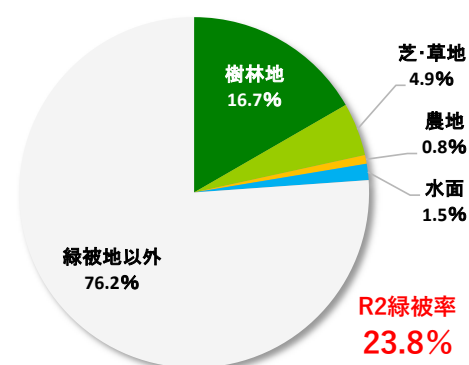
■緑被の概況

- ・名東区の緑被率は23.8%であり、全16区中で第4位であった。
- ・区の北部には矢田川とその支流である香流川のほか、中央部には植田川が流れ、また、東名高速沿いの藤森緑地や名二環沿いの街路樹等の緑被地が連続して存在している。
- ・区内には明德公園、平和公園、猪高緑地、東山公園、牧野ヶ池緑地など、大規模な公園緑地がまわって存在している。

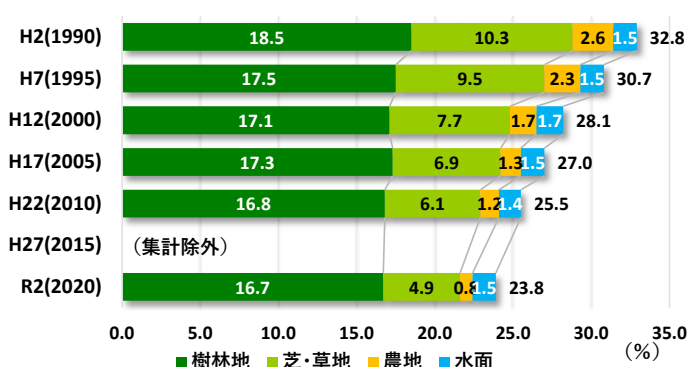
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は9.0ポイント減少、緑被地面積は176.03ha減少した。
- ・その中でも特に芝・草地の減少幅が大きく、緑被率は5.4ポイント減少、面積は105.62ha減少した。

令和2(2020)年の緑被率



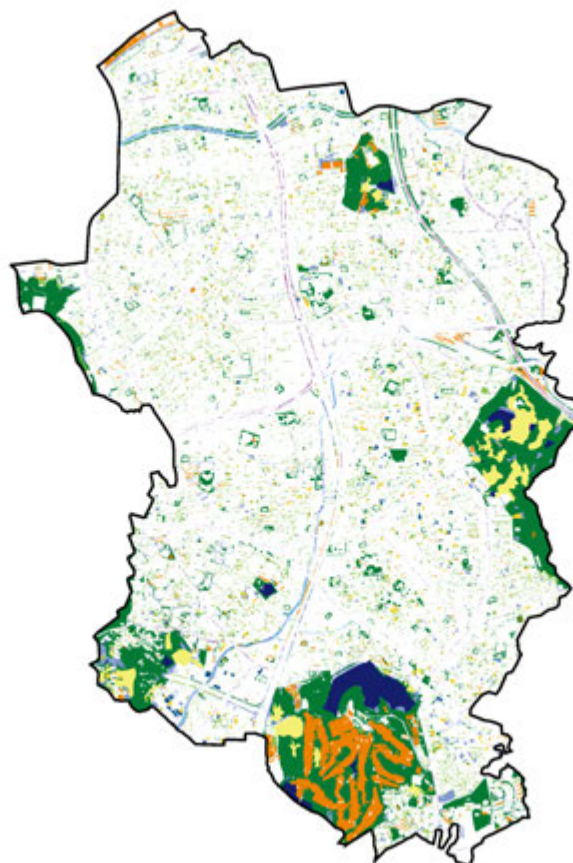
4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

凡例

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
行政区	



(16) 天白区

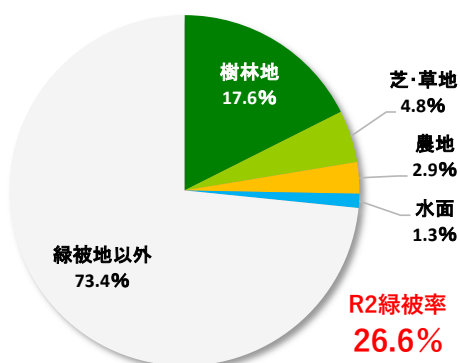
■緑被の概況

- ・天白区の緑被率は26.6%であり、全16区中で第2位であった。
- ・区の中央部には天白川とその支流の植田川が流れ、連続した緑被地を形成している。
- ・また、東山公園（裏山）、相生山緑地、天白公園、荒池緑地等の比較的規模の大きい公園緑地がまわって存在している。

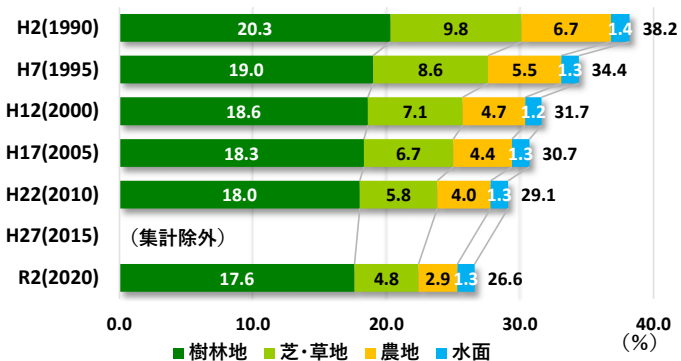
■緑被の経年変化

- ・H2からR2の30年間で、緑被率は11.6ポイント減少、緑被地面積は250.01ha減少した。
- ・その中でも特に芝・草地の減少幅が大きく、緑被率は5.0ポイント減少、面積は107.52ha減少し、また、農地も緑被率が3.8ポイント減少、面積が83.01ha減少した。

令和2(2020)年の緑被率



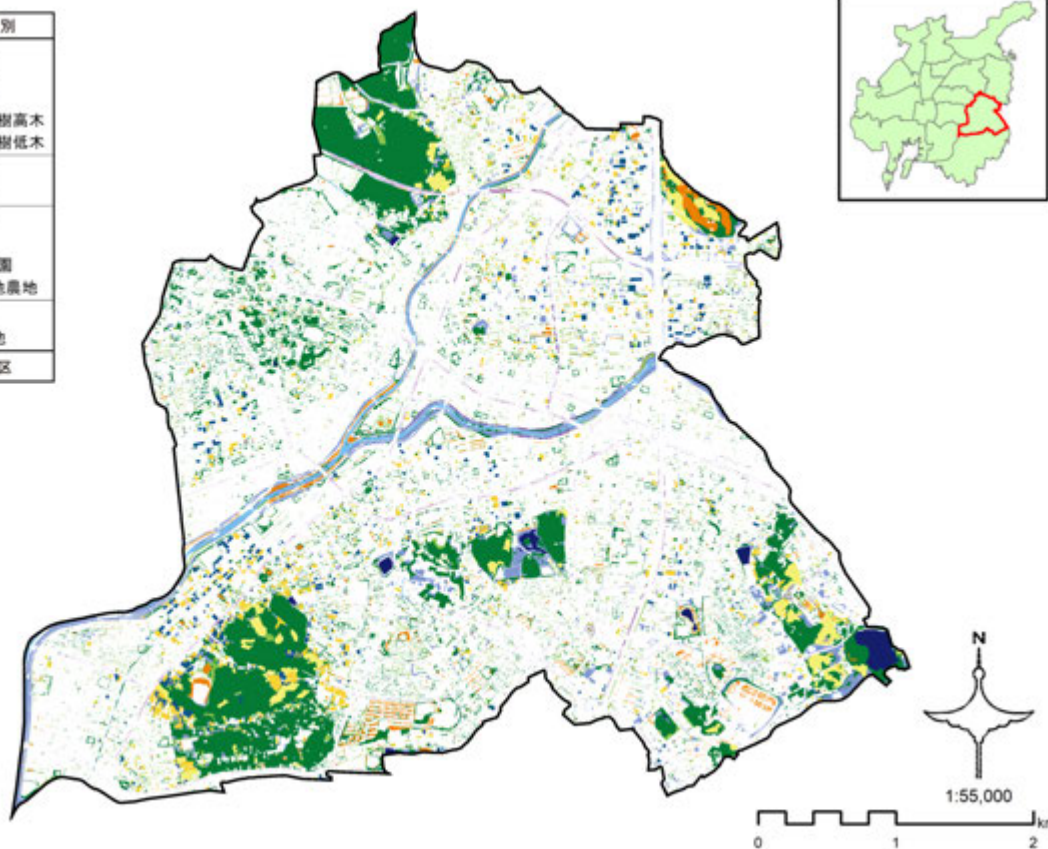
4種別緑被率の推移



令和2(2020)年の緑被地現況図

凡例

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木
	街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



3-4-3. 都心部区域の緑被率

本項においては、「都市再生緊急整備地域（名古屋駅周辺・伏見・栄地域）」を「都心部区域」と設定し、緑被の状況を把握した。

その結果、都心部区域の緑被率は8.0%（緑被地面積：32.16ha）であった。

緑被種別に見ると、街路樹高木の緑被率が2.8%と最も高く、街路樹による道路緑化が緑被率の向上に貢献していた。

また、次いで高木の緑被率が2.1%あり、久屋大通公園、栄公園、下園公園、若宮大通公園をはじめとした公園緑地のほか、椿神明社（中村区則武2丁目）、牧野神明社（中村区太閤1丁目）、神明社（中村区名駅5丁目）、泥江縣神社（中区錦1丁目）、朝日神社（中区錦3丁目）等の社寺の社叢林、ノリタケの森（市民緑地、西区則武新町3丁目）、民間企業の公開空地（中区錦2丁目）等の企業による緑地も緑被率の向上に貢献していた。

なお、芝地の緑被率も1.0%あり、ノリタケの森（同上）やオアシス21（東区東桜1丁目）をはじめ、名古屋駅前やささしまライブ周辺の企業による緑地（公開空地、屋上緑化等）が緑被率の向上に貢献していた。

平成2(1990)年の緑被地データベースを基に、同一区域での緑被状況を整理し、その変化を見たところ、樹林地の緑被率が最も変化しており、1.4ポイント増加した。さらに、その詳細を見ると、高木は0.5ポイント減少しているものの、特に街路樹高木が1.9ポイント増加しており、街路樹の生長等により増加したものと考えられた。

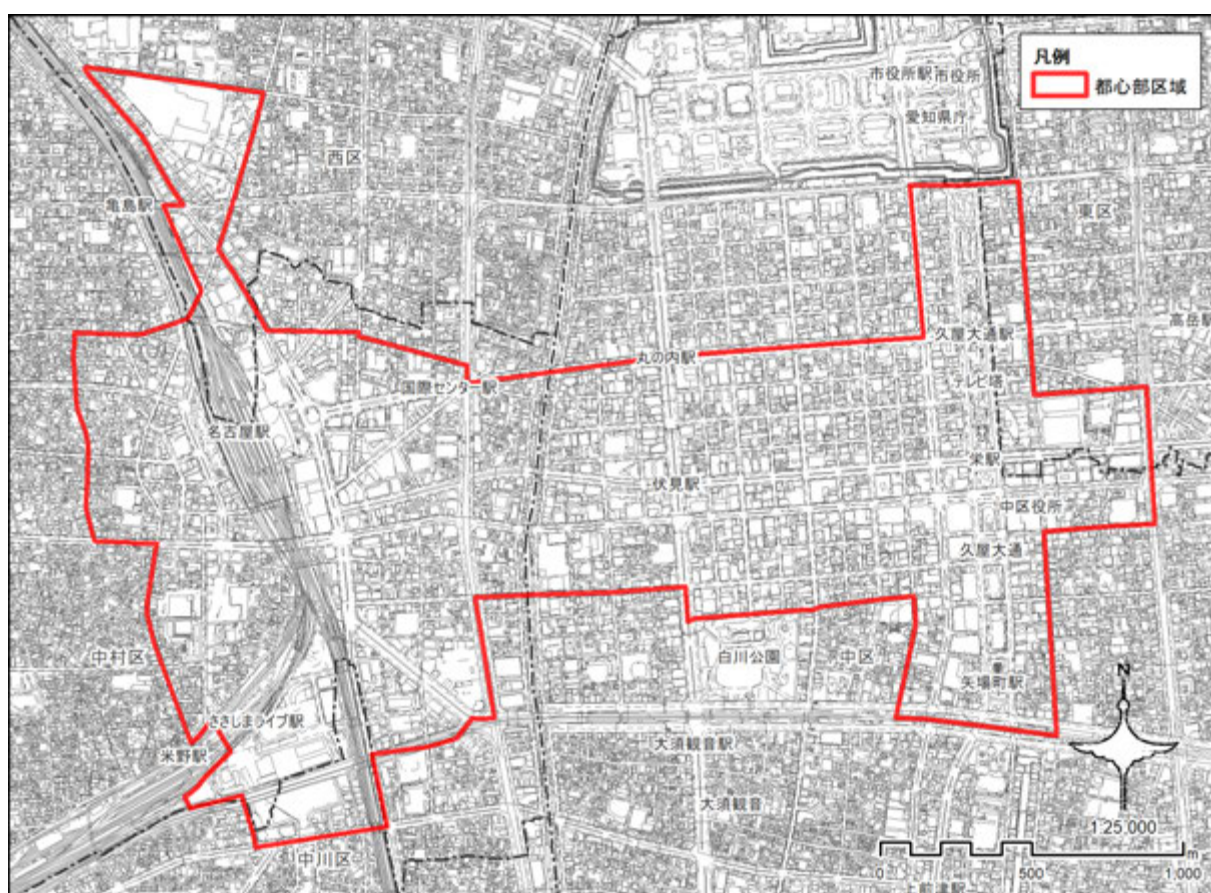


図 I-64：都心部区域の区域設定

表 I -43：都心部区域の緑被地面積及び緑被率の変化

緑被種別		平成 2 (1990) 年		令和 2 (2020) 年		緑被地増減 (R2-H2)	
4 種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポイント)
樹林地	高木	10.57	2.6	8.46	2.1	▲2.11	▲0.5
	低木	1.94	0.5	2.04	0.5	0.10	0.0
	竹林	-	-	-	-	-	-
	街路樹高木	3.59	0.9	11.06	2.8	7.47	1.9
	街路樹低木	1.65	0.4	1.87	0.5	0.22	0.1
	小計	17.75	4.4	23.43	5.8	5.68	1.4
芝・草地	芝地	1.30	0.3	4.11	1.0	2.81	0.7
	草地	2.54	0.6	1.90	0.5	▲0.64	▲0.1
	小計	3.84	1.0	6.01	1.5	2.17	0.5
農地	水田	-	-	-	-	-	-
	畑	0.01	0.0	0.01	0.0	0.00	0.0
	果樹園	-	-	-	-	-	-
	その他農地	-	-	-	-	-	-
	小計	0.01	0.0	0.01	0.0	0.00	0.0
水面	河川	4.15	1.0	2.64	0.7	▲1.51	▲0.3
	ため池	0.27	0.1	0.07	0.0	▲0.20	▲0.1
	小計	4.42	1.1	2.71	0.7	▲1.71	▲0.4
合計		26.02	6.5	32.16	8.0	6.14	1.5

注 1) 緑被率は、各年とも都心部区域の公表面積 (401ha) を基に算出している。

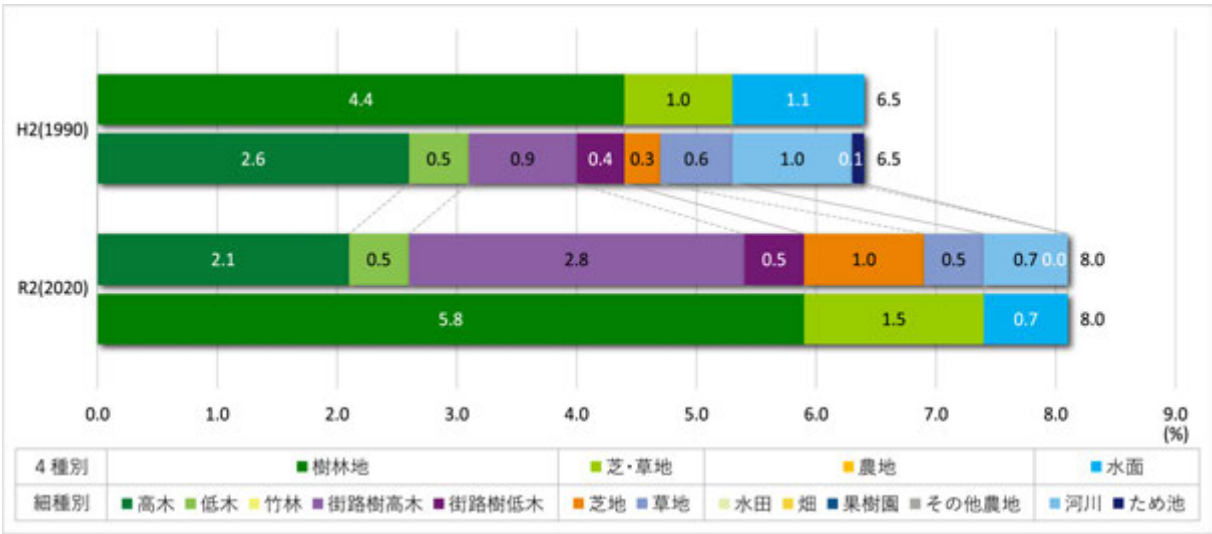


図 I -65：都心部区域の緑被率の変化

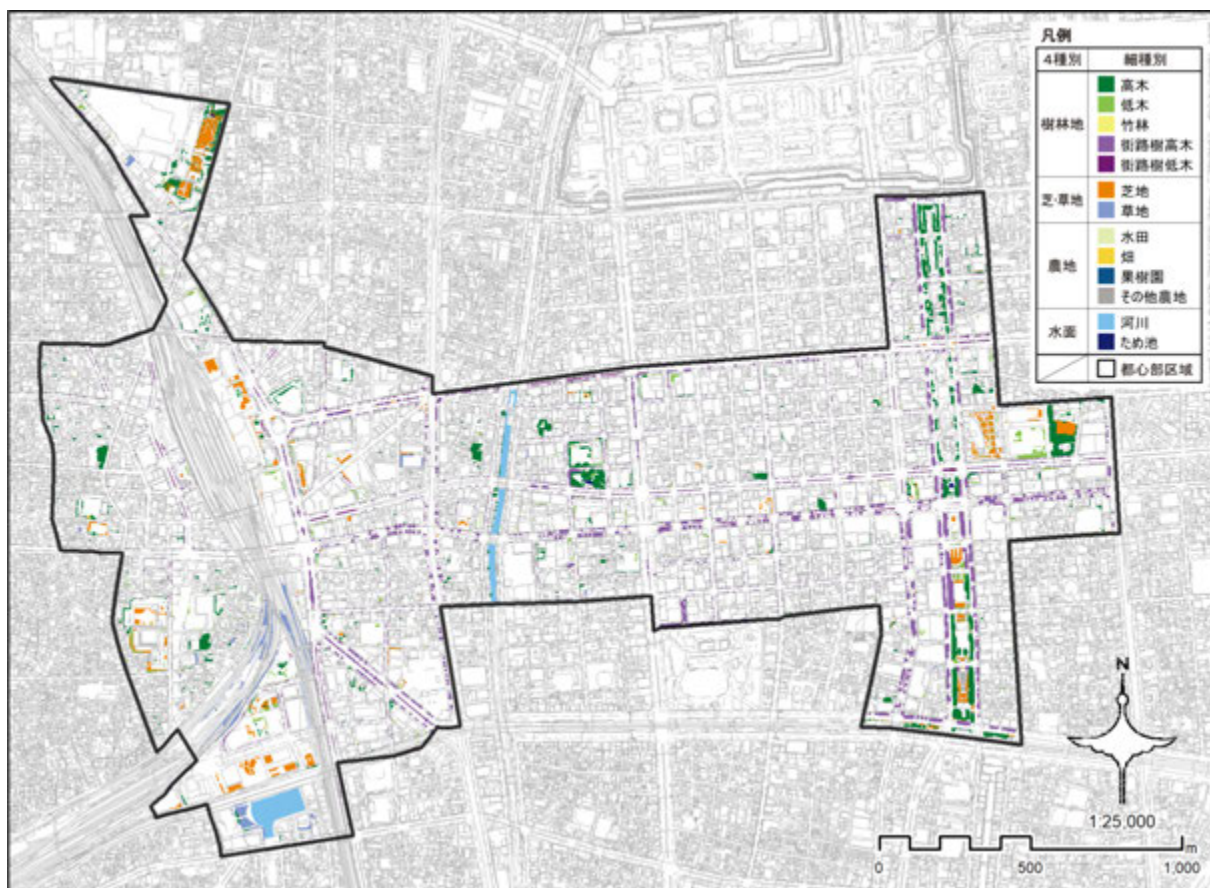


図 I-66 : 都心部区域 現況緑被地図【細種別】(令和 2 年)

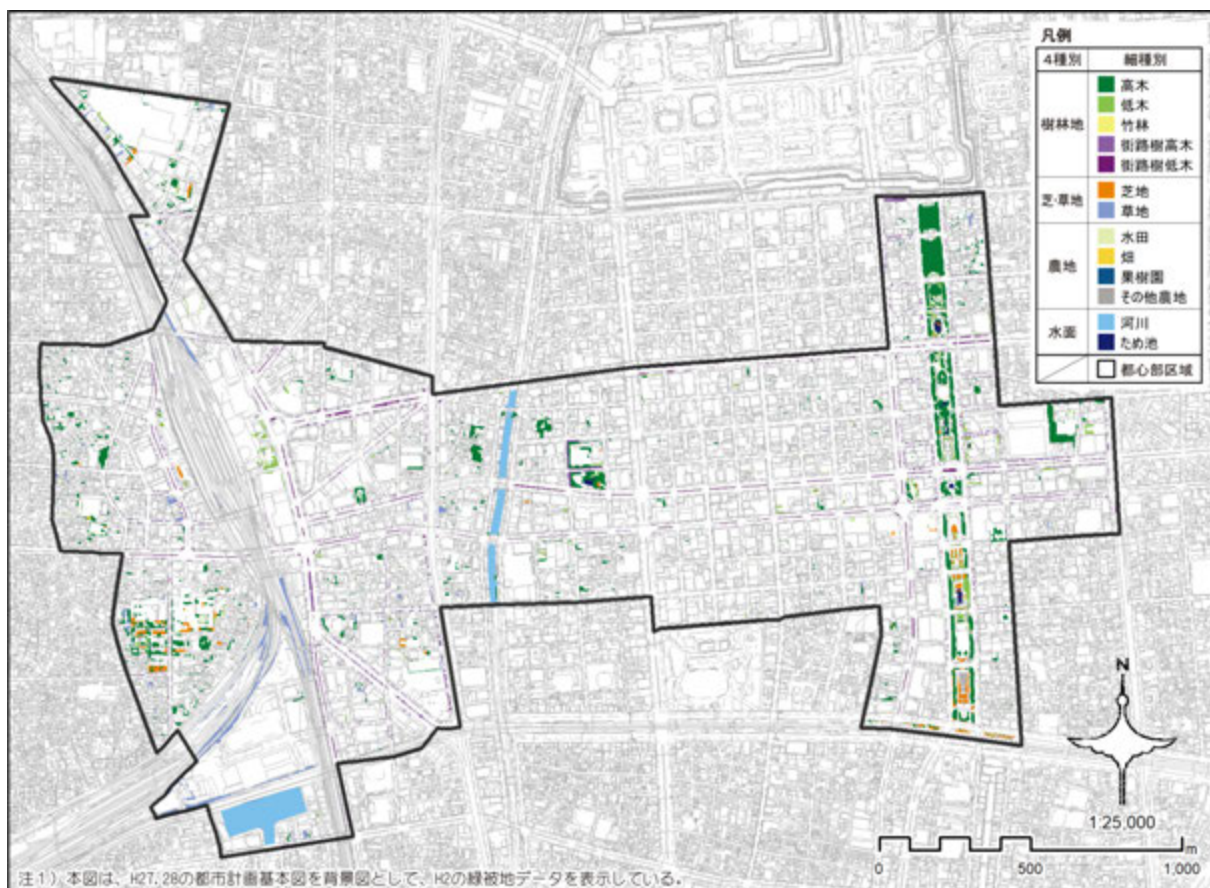


図 I-67 : 都心部区域 現況緑被地図【細種別】(平成 2 年)

3-5. まとめ

本調査の結果を踏まえ、緑被率の変化の状況について以下のとおり考察した。

■ 本市の緑の概況

- ・ 令和2(2020)年の市域全体の緑被率は、21.5%であった。
- ・ 平成2(1990)年からの経年変化を見ると、緑被率は一貫して減少傾向にあるものの、近年はその減少の割合も緩やかになってきている。

■ 緑のまとまり度の状況

- ・ 1ha以上のまとまりのある緑被地の多くは、西部地域に農地として、東部地域に樹林地や芝・草地として、また、市内を流れる河川として存在している。
- ・ 特に、こうした規模の大きい緑被地は減少傾向にある一方、小規模な緑被地はその数が増えていることから、緑被地の細分化が進行していると考えられた。
- ・ 1ha以上のまとまりのある樹林地は、樹林地全体の4割弱を占めるが、宅地化等により減少傾向にあることから、その保全は重要な課題と考えられる。
- ・ 農地は比較的まとまりのあるものが多いが、規模の大きなものも小さなものも全ての階級で減少傾向にあった。

■ 土地利用と緑の状況

- ・ 公有地の緑被地面積は増加傾向にあり、緑化の進展が考えられた。
- ・ 民有地の緑地被面積及び緑被率は減少傾向にあり、特に住居系では土地利用面積が増加している一方、緑被率は減少傾向にあることから、より一層の緑化の推進が必要と考えられた。

■ 用途地域と緑の状況

- ・ 市街化区域の緑被率は17.7%、市街化調整区域の緑被率は73.3%で大きな差があった。
- ・ 住居系用途地域での緑被率は比較的高く、商業系用途地域での緑被率は低い状況にあることから、商業系用途地域でのより一層の緑化の推進が必要と考えられた。

■ 地域別の緑の状況

- ・ 緑被率を地域別に見ると、東部地域が27.0%と最も高く、次いで、西部地域が20.5%であり、中央部地域は12.7%と市域全体の緑被率を大きく下回った。なお、地域別の緑被種別の特徴を見ると、東部地域及び中央部地域は樹林地が占める割合が比較的高い状況であるが、西部地域は樹林地、芝・草地、農地、水面が同程度ずつ分布している状況であった。
- ・ 緑被率を行政区別に見ると、守山区が36.5%と突出して高い状況であり、次いで、天白区が26.6%、港区が25.2%であった。また、各行政区別に特徴的な緑被種別と考えられるのは、

以下のとおりであった。

- 樹林地の緑被率については、東部地域の丘陵地に位置する守山区（19.7%）、千種区（18.2%）、天白区（17.6%）、名東区（16.7%）が高い。
- 芝・草地の緑被率については、庄内川や矢田川等の河川が流れる守山区（11.4%）、北区（8.0%）、西区（6.7%）が高い。
- 全行政区の中でも特に農地の緑被率が高い港区（8.3%）でも、1 ha 以上のまとまりのある農地は、庄内川以西を中心に存在している。
- 緑被率の経年変化を見ると中区のみが増加しており、その主な要因は街路樹高木の緑被率が向上していることによる。